

子どもたちの学力・体力向上 について

平成 28 年 11 月 4 日
北九州市教育委員会

1. 平成28年度 全国学力・学習状況調査 報告

【調査結果と分析】

(1)教科に関する調査結果の概要	5
(2)成果と課題(本年度の正答率に見られる顕著な状況)	6
(3)調査結果の経年比較	7
(4)本年度の正答率に見られる顕著な状況	8
(5)各教科の分析結果	10
(6)学力に影響を与える要因	21
(7)学習状況調査結果 ～「学びの育ち」と「心の育ち」の更なる成長に向けて～	22
①学びの育ち	24
②心の育ち	35
(8)成果を上げた各学校の取組事例	42

【学力向上アクションプランの成果と今後の方向性】

(1)学力向上アクションプラン(概要)	46
(2)授業力向上	47
(3)家庭・地域との連携	48
(4)子どもひまわり学習塾	49
(5)学力向上アクションプランの成果と今後の方向性	50

2. 平成28年度 全国体力・運動能力, 運動習慣等調査結果

(1)全体概要(速報値)	52
(2)本年度の体力向上の取組について	54
(3)北九州市体力向上プログラム(準備運動編)の活用の仕方	56

3. 次期学習指導要領改訂のポイント

----- 67

1. 平成28年度 全国学力・学習状況調査 報告

【調査結果と分析】



北九州市環境マスコットキャラクター ていたん&ブラックていたん
©ていたん&ブラックていたん, 北九州市

(1) 教科に関する調査結果の概要

結果の概要

小学校

- 「知識」に関する問題、「活用」に関する問題とも、全国平均正答率を下回っている。全国平均正答率を100%として平成25年度以降の経年比較をすると、国語、算数共に一進一退である。昨年度と比較すると、国語Aと算数Aは同程度、国語Bは上昇、算数Bは下降した。

中学校

- 「知識」に関する問題、「活用」に関する問題とも、全国平均正答率を下回っている。全国平均正答率を100%として平成25年度以降の経年比較をすると、国語、数学共に一進一退である。昨年度と比較すると、国語Aと国語Bは同程度、数学Bは上昇、数学Aは下降した。

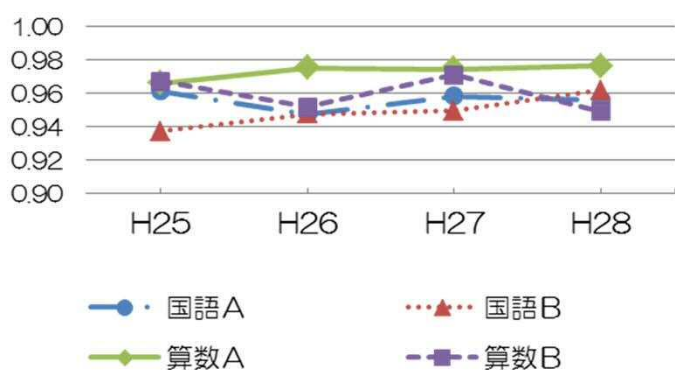
本年度結果

※平成28年度より正答率は整数値での公表

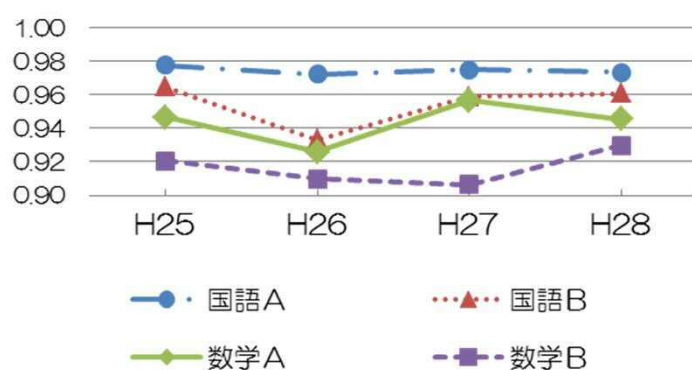
小学校	北九州市 正答率	全国 正答率	北九州市 正答数	全国 正答数	中学校	北九州市 正答率	全国 正答率	北九州市 正答数	全国 正答数
国語A	70	73	10.4 /15問	10.9 /15問	国語A	74	76	24.3 /33問	25.0 /33問
国語B	56	58	5.6 /10問	5.8 /10問	国語B	64	67	5.8 /9問	6.0 /9問
算数A	76	78	12.1 /16問	12.4 /16問	数学A	59	62	21.2 /36問	22.4 /36問
算数B	45	47	5.8 /13問	6.1 /13問	数学B	41	44	6.1 /15問	6.6 /15問

各教科・区分の経年変化

全国平均正答率に対する割合の推移
【小学校】



全国平均正答率に対する割合の推移
【中学校】



(2) 成果と課題（本年度の正答率に見られる顕著な状況）



【成果1】

- 国語A・B，算数（数学）A・Bを合わせた平均正答率は，小学校は3年連続同程度であるが，中学校は改善の兆しが見られる。

小学校	平成26年度	96%→	平成27年度	96%→	平成28年度	96%
中学校	平成26年度	94%→	平成27年度	95%→	平成28年度	96%
※ 全国平均正答率を100%として比較						

【成果2】

- 同じく4つを合わせた平均正答率は，中学校では全国平均正答率を上回る学校が増加傾向にある。

中学校	平成26年度	12校→	平成27年度	13校→	平成28年度	14校
-----	--------	------	--------	------	--------	-----

【成果3】

- 小学校国語Bは，昨年度と比較すると改善している。

全国平均正答率に対する割合の増加			
平成27年度	95%→	平成28年度	96%
全国平均正答率より，10ポイント以上低い学校の減少			
平成27年度	26校→	平成28年度	15校
全国平均正答率を上回る学校の増加			
平成27年度	39校→	平成28年度	44校

〈課題1〉

- 各教科・区分を合わせた平均正答率について，小学校では昨年度と比べ，全国平均正答率を上回る学校が減少した。

小学校	平成26年度	39校→	平成27年度	44校→	平成28年度	38校
-----	--------	------	--------	------	--------	-----

〈課題2〉

- 中学校は昨年度と比べて，全国平均正答率より，10ポイント以上低い学校が増加した。

国語A	平成26年度	6校→	平成27年度	1校→	平成28年度	3校
国語B	平成26年度	11校→	平成27年度	2校→	平成28年度	10校
数学A	平成26年度	19校→	平成27年度	8校→	平成28年度	12校
数学B	平成26年度	17校→	平成27年度	8校→	平成28年度	11校

〈課題3〉

- 中学校数学は，全国平均正答率を100%として比較すると，他の教科・区分に比べて，低い状態が続いている。

数学A	平成26年度	93%→	平成27年度	96%→	平成28年度	95%
数学B	平成26年度	91%→	平成27年度	91%→	平成28年度	93%

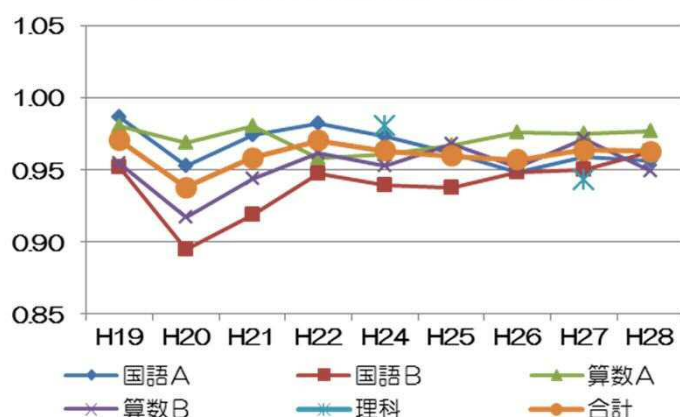
(3) 調査結果の経年比較

○全国平均正答率に対する割合（平成19年度～平成28年度）

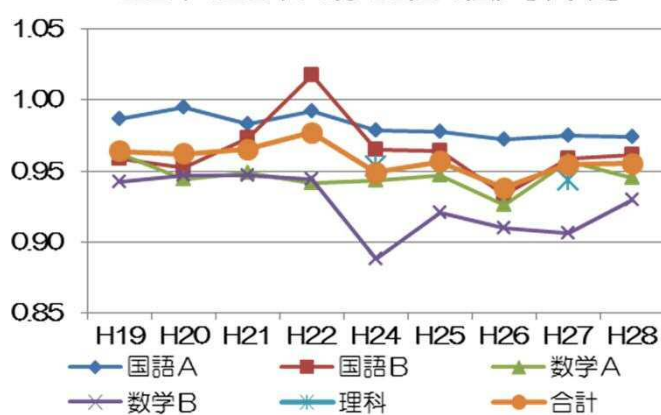
	小学校	国語A	国語B	算数A	算数B	理科	合計		中学校	国語A	国語B	数学A	数学B	理科	合計
19年度	本市	81	59	81	61		281	19年度	本市	81	69	69	57		276
	全国	82	62	82	64		289		全国	82	72	72	61		286
	対全国比	99%	95%	98%	95%		97%		対全国比	99%	96%	96%	94%		96%
20年度	本市	62	45	70	47		225	20年度	本市	73	58	60	47		237
	全国	65	51	72	52		240		全国	74	61	63	49		247
	対全国比	95%	90%	97%	92%		94%		対全国比	99%	95%	94%	95%		96%
21年度	本市	68	46	77	52		243	21年度	本市	76	73	60	54		262
	全国	70	51	79	55		254		全国	77	75	63	57		271
	対全国比	97%	92%	98%	94%		96%		対全国比	98%	97%	95%	95%		96%
22年度	本市	82	74	71	47		274	22年度	本市	75	66	61	41		243
	全国	83	78	74	49		285		全国	75	65	65	43		248
	対全国比	98%	95%	96%	96%		96%		対全国比	99%	102%	94%	94%		98%
24年度	本市	79	52	70	56	60	258	24年度	本市	74	61	59	44	49	237
	全国	82	56	73	59	61	269		全国	75	63	62	49	51	250
	対全国比	97%	94%	96%	95%	98%	96%		対全国比	98%	97%	94%	89%	95%	95%
25年度	本市	60	46	75	57		238	25年度	本市	75	65	60	38		238
	全国	63	49	77	58		248		全国	76	67	64	42		249
	対全国比	96%	94%	97%	97%		96%		対全国比	98%	96%	95%	92%		96%
26年度	本市	69	53	76	55		253	26年度	本市	77	48	62	54		242
	全国	73	56	78	58		265		全国	79	51	67	60		258
	対全国比	95%	95%	98%	95%		96%		対全国比	97%	93%	93%	91%		94%
27年度	本市	67	62	73	44	57	246	27年度	本市	74	63	62	38	50	236
	全国	70	65	75	45	61	256		全国	76	66	64	42	53	248
	対全国比	96%	95%	98%	97%	94%	96%		対全国比	97%	96%	96%	91%	94%	95%
28年度	本市	70	56	76	45		246	28年度	本市	74	64	59	41		237
	全国	73	58	78	47		256		全国	76	67	62	44		248
	対全国比	96%	96%	98%	95%		96%		対全国比	97%	96%	95%	93%		96%

※正答率と対全国比は実際の数値で計算をしていますが、整数値で表記しています。
 ※合計については、理科を除いた数値にしています。（理科は3年に1度の実施のため）

全国平均正答率に対する割合の推移【小学校】



全国平均正答率に対する割合の推移【中学校】



(4) 本年度の正答率に見られる顕著な状況

小学校



	教科 区分	全国と比べて 平均正答率が 比較的高い問題	本市平均 正答率	全国平均 正答率	差	全国と比べて 平均正答率が 比較的低い問題	本市平均 正答率	全国平均 正答率	差
小学校	国語 A	漢字を書く (そうだん)	69.0	64.2	+4.8	漢字を読む(快晴)	70.0	79.3	-9.3
		漢字を読む (省く)	82.4	81.0	+1.4	ローマ字を書く (あさって)	32.1	41.8	-9.7
	国語 B	グラフを基に分 かったことを的確に書く	43.7	43.4	+0.3	表を基に、自分の 考えを書く	60.1	64.2	-4.1
		グラフを基に自 分の考えを書く	50.8	51.4	-0.6	話の展開に沿って 質問する	45.0	50.4	-5.4
	算数 A	2.1÷0.7の計 算の数値の組み 合わせ	73.5	68.5	+5.0	三角形の底辺に対 応する高さを選ぶ	74.2	82.0	-7.8
		18÷0.9の計 算	80.3	77.7	+2.6	基準量と比較量の 関係の理解	42.8	50.9	-8.1
	算数 B	示された条件を 別の場面で用い て説明する	47.3	45.2	+2.1	表から読み取れな い事柄を選ぶ	65.3	70.7	-5.4
		式の中の数値の 意味を書く	15.9	15.6	+0.3	単位量あたりの大 きさを求める	42.3	48.3	-6.0

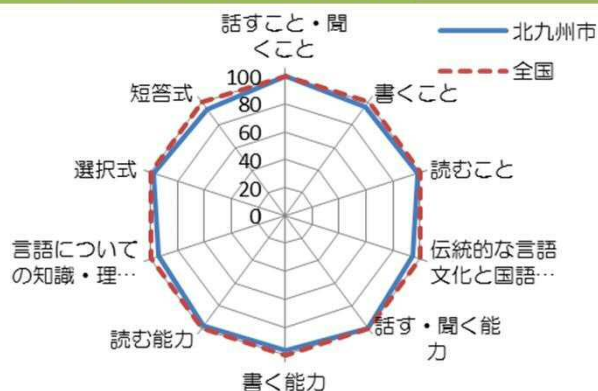


	教科 区分	全国と比べて 平均正答率が 比較的高い問題	本市平均 正答率	全国平均 正答率	差	全国と比べて 平均正答率が 比較的低い問題	本市平均 正答率	全国平均 正答率	差
中学校	国語 A	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む	84.5	80.2	+4.3	文字の形や大きさ、配列に注意して書く	27.0	36.4	-9.4
		文脈に即して漢字を正しく読む（敬う）	84.4	82.6	+1.8	文脈に即して漢字を正しく書く（ドクソウ的）	17.3	26.1	-8.8
	国語 B	文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、要旨を捉える	74.8	76.2	-1.4	必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く	53.0	57.7	-4.7
		課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える	47.4	49.2	-1.8	目的に応じて文章を要約する	60.5	64.0	-3.5
	数学 A	三角柱において、ねじれの位置にある辺をかく	76.4	75.5	+0.9	x の変域から y の変域を求める	33.8	43.0	-9.2
		不等式の意味を読み取る	78.9	78.2	+0.7	平行線の性質で角の大きさの計算	66.5	74.8	-8.3
	数学 B	グラフの傾きの解釈	30.7	29.8	+0.9	x の値を代入して y の値の計算	48.8	59.1	-10.3
		事柄が成り立つ理由を数学的に説明	51.4	51.4	± 0	筋道を立てて考えて証明する	23.2	29.4	-6.2

(5) 各教科の分析結果

小学校国語A（知識に関する問題）

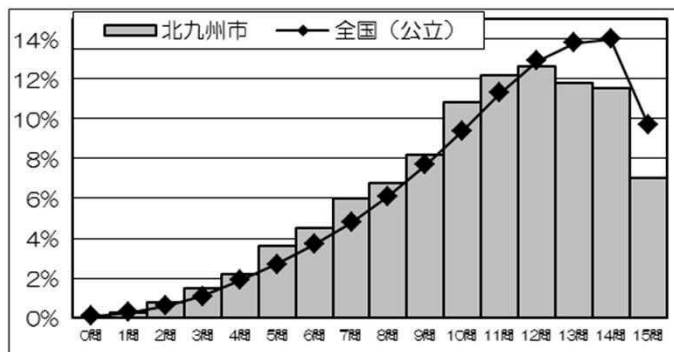
領域・観点・問題形式別



- ◇「話すこと・聞くこと」, 「読むこと」の領域の正答率は, 全国平均をともに1ポイント程度下回っているものの, 全国平均とほぼ同程度だった。
- ◆「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域, 「言語についての知識・理解・技能」の観点の平均正答率は, 全国平均を2.5ポイント下回った。
- ◆「短答式」の平均正答率は, 全国平均を1.2ポイント下回った。

正答数分布図

学力の分布は, 正答数の多い側に集中した山型である。
平成28年度 小学校国語A 正答分布グラフ (横軸: 正答数 縦軸: 割合)



- ◆全国は14問正解の生徒の割合が最も多いが, 北九州市は12問正解の割合が最も多い状況である。
- ◆正答率40%以下 (0~6問正解) の生徒の割合は, 12.9%である。
- ◆正答率80%以上 (12~15問正解) の生徒の割合は, 42.9%である。

3

先生にそうだんする。

正答

相談

【漢字を正しく書く問題】

文や文章の中で漢字を適切に使うことができるようにするために, 様々な場面で既習漢字の使用を徹底しましょう。また, 語彙を広げるために, 国語辞典・漢字辞典の利用についても指導しましょう。

H28 北九州市正答率	69.0%	北九州市無解答率	3.6%
H19 北九州市正答率	56.2%	北九州市無解答率	9.2%
全国正答率	64.2%	全国無解答率	5.0%

小学校国語Aで成果があった問題



小学校国語Aで課題があった問題

【ローマ字を読んだり書いたりする問題】

2 [あさって] ⇨

正答 asatte

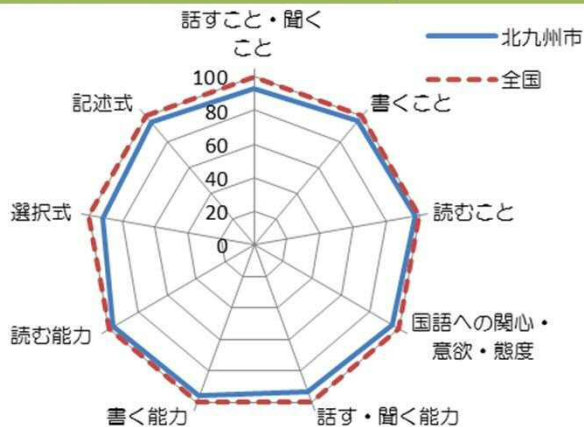
授業では, ローマ字の規則性を押さえるとともに, 長音, 拗音, 促音, 撥音などについて, 音声と関係付けながら指導しましょう。

また, 他教科等の学習と関連付けるなどして繰り返し読んだり書いたりする機会を増やしましょう。

北九州市正答率	32.1%	北九州市無解答率	17.2%
全国正答率	41.8%	全国無解答率	13.7%

小学校国語B（活用に関する問題）

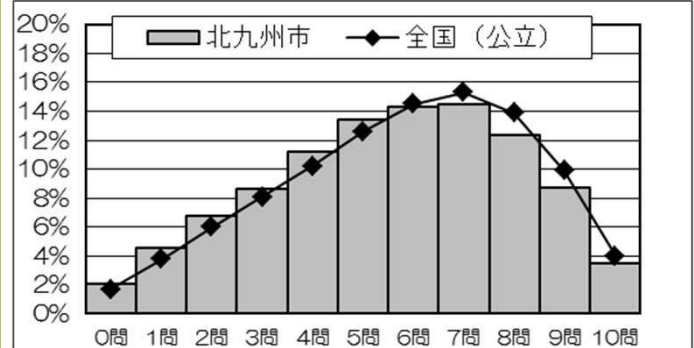
領域・観点・問題形式別



- ◇「読むこと」の領域、「読む能力」の観点の正答率は、全国平均をとるとともに1.6ポイント下回っているものの、全国平均とほぼ同程度だった。
- ◆「話すこと・聞くこと」の領域、「話す・聞く能力」の観点の平均正答率は、全国平均を3.6ポイント下回った。
- ◆「選択式」の平均正答率は、全国平均を2.0ポイント下回った。

正答数分布図

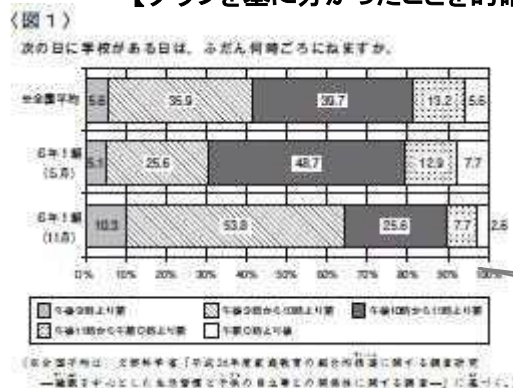
学力の分布は、正答数の多い側によった山型である。
平成28年度 小学校国語B 正答分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



- ◆全国と北九州市は、ともに7問正解の割合が最も多い状況である。
- ◆正答率40%以下（0～4問正解）の生徒の割合は、33.3 %である。
- ◆正答率80%以上（8～10問正解）の生徒の割合は、24.6 %である。

【グラフを基に分かったことを的確に書く問題】

- 1 五月の結果を下回り、三十パーセント程度になりました。
- 2 五月の結果より減り、四十パーセント以下になりました。
- 3 五月の結果より増え、六十パーセントをこえました。
- 4 五月の結果を上回り、十パーセント程度になりました。



正答 4

授業では、目的や課題に応じて、文章だけでなく、図表やグラフの資料を意図的・計画的に活用しましょう。

その際、目的に応じて資料から情報を正しく取り出し、字数などの条件に合わせた的確に書く指導しましょう。

〈図1〉から分かったことを的確に書く

北九州市正答率 43.7% 北九州市無解答率 0.8%
全国正答率 43.4% 全国無解答率 1.2%

小学校国語Bで成果があった問題



小学校国語Bで課題があった問題

【話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する問題】

正答例
○お客さんにも大好評ということです。が、地産地消について、どのように考えていらっしゃるのですか。

山下さんは【インタビューの一部】の□の中で、質問をしています。どのような質問をしたと考えられますか。次の条件に合わせて書きましょう。

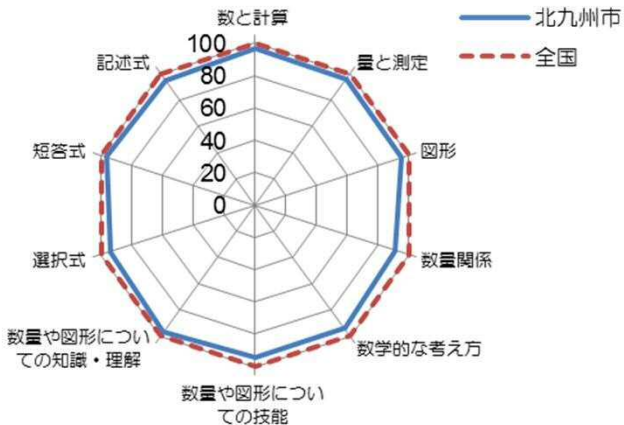
〈条件〉
○「事前に準備したインタビューメモ」の内容を使って質問すること。
○【インタビューの一部】の□の山下さんの質問のように、「店長の発言を受けて質問をすること」
○三十文字以上、五十文字以内で書くこと。

「話すこと・聞くこと」の授業では、目的や場面に応じて、「話し手の意図」や「自分の考えとの共通点や相違点」、「予想した反応との違い」などを踏まえながら聞くことができるように、実際の話の展開の中で、それらの観点を取り上げて指導しましょう。

北九州市正答率 45.0% 北九州市無解答率 8.0%
全国正答率 50.4% 全国無解答率 7.8%

小学校算数B（活用に関する問題）

領域・観点・問題形式別

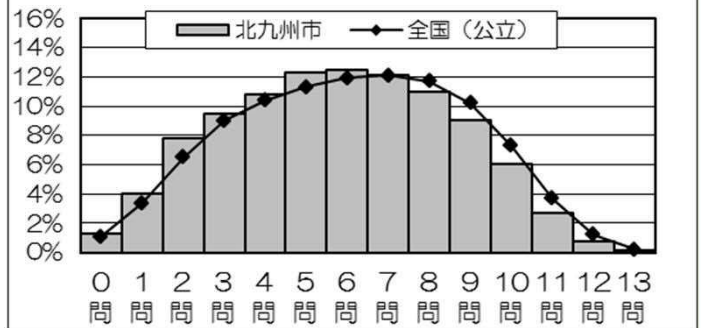


- ◇「数と計算」「量と測定」「図形」の領域、「記述式」の平均正答率は、それぞれ1.6、1.6、1.9、1.4ポイント下回っているものの全国平均とほぼ同程度だった。
- ◆「数量関係」の領域、「数量や図形についての技能」の観点、「選択式」の平均正答率は、それぞれ3.9ポイント、2.9ポイント、3.4ポイント下回った。

正答数分布図

学力の分布は、正答数の少ない側によった山型である。

平成28年度 小学校算数B 正答分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



- ◆全国は7問正解の生徒の割合が最も多いが、北九州市は6問正解の割合が最も多い状況である。
- ◆正答率40%以下（0～5問正解）の生徒の割合は、45.7%である。
- ◆正答率80%以上（11～13問正解）の生徒の割合は、3.6%である。

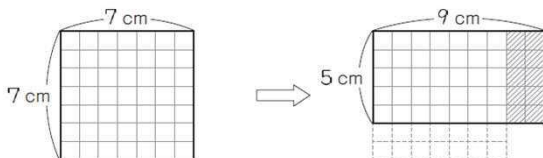
1

【示された条件を別の場面に適用して説明する問題】

- (2) 次に、正方形の縦の長さを2 cm 短くし、横の長さを2 cm 長くすると、面積はどうかを、1 辺が7 cm の正方形を使って考えます。



よし子さんと同じ考え方を使えば、面積が4 cm² 小さくなるのがわかります。



【よし子さんの説明】をもとに、面積が4 cm² 小さくなることを説明すると、どのようになりますか。

具体的な場面できまりを見つけ、そのきまりが成り立つかどうかを説明する際、過不足なく説明できているかどうかを確かめ合いながら、説明の内容を言葉、図、式、さらには操作などと適切に関連付けていく場面を設定しましょう。

北九州市正答率	47.3%	北九州市無解答率	4.0%
全国正答率	45.2%	全国無解答率	4.0%

小学校算数Bで成果があった問題



小学校算数Bで課題があった問題

【必要な情報を判断し単位量当たりの大きさを求める問題】



わたし
あさ子
私は、どちらの学校の子どものほうが本をよく借りているかを、各学校の1人あたりの貸出冊数で比べたいです。
1人あたりの貸出冊数を求めるためには、各学校の貸出冊数の合計のほかに、何を調べたらよいかな。

4

- (1) あさ子さんのように各学校の1人あたりの貸出冊数を求めるためには、表1の ☐ の各学校の貸出冊数の合計のほかに、どのような数が必要ですか。
- 下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 各学校の、図書館を利用した人数
- 各学校の、学校全体の児童の人数
- 各学校の、図書館にある本の冊数
- 各学校の、本の種類ごとの貸出冊数

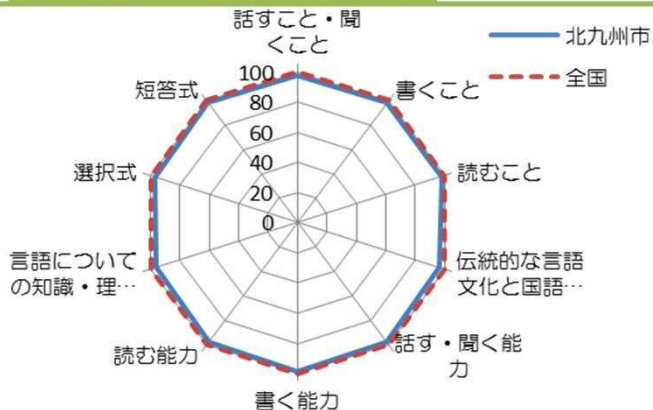
正答 2

授業では解決したい問題を明確にして、資料を集め、集めた資料を分類整理し表に表したり、表を読み取ったりする活動を取り入れながら、表から新たな問題を見出し、解決するために必要な情報を収集する場面を設定しましょう。

北九州市正答率	42.3%	北九州市無解答率	1.8%
全国正答率	48.3%	全国無解答率	1.9%

中学校国語A（知識に関する問題）

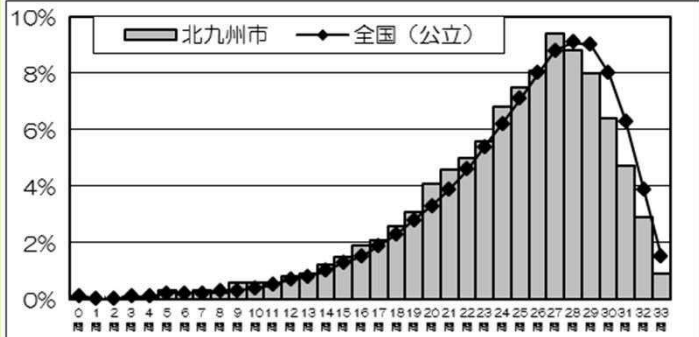
領域・観点・問題形式別



- ◇「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域、「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」の観点、「短答式」の平均正答率は1.1～1.9ポイント下回っているものの、全国平均とほぼ同程度だった。
- ◆「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域、「言語についての知識・理解・技能」の観点の平均正答率は、全国平均を2.5ポイント下回った。

正答数分布図

学力の分布は、正答数の多い側に集中した山型である。
平成28年度 中学校国語A 正答分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



- ◆全国は28問正解の生徒の割合が最も多いが、北九州市は27問正解の割合が最も多い状況である。
- ◆正答率40%以下（0～13問正解）の生徒の割合は、4.8%である。
- ◆正答率80%以上（27～33問正解）の生徒の割合は、41.1%である。

4 — 【文章を読み返し、文の使い方などに注意して書くことができるかどうかをみる問題】

書き直す前の一文には...

- 標高による気温の高低に関する一般的な傾向
- 北極点と南極点に関する具体的な事実

二つの異なる内容が混在している。

二文に分けて書くことで、
二つの内容が整理され、分かりやすくなる。

北九州市正答率	65.7%	北九州市無解答率	0.6%
全国正答率	64.7%	全国無解答率	0.6%

【山田さんの答え】より一部抜粋

(ア) になります。

また、標高が高いほうが気温が低く なり、実際に、
南極点は大陸にありますが、北極点には海や氷が広がっています。

問) 山田さんは、自分の答えを読み返して (ア) のように直しました。その意図として適切なものを選びなさい。

(答) 異なる二つの内容を整理して
分かりやすくするため

中学校国語Aで成果があった問題



中学校国語Aで課題があった問題

9 六 【文字の形や大きさ、配列に注意して書くことができるかどうかをみる問題】

書写の学習では、

- ◇ 字形や文字の大きさ、配列などの観点を具体的に示した上で、実際に書き直したのを見比べる指導（書いたものについて生徒が互いに評価し合う場面を設ける等）
- ◇ ノートや掲示物などを書く際に、書写で学んだことを活用するように指導（視写教材の活用、ノート・作文における添削等）が重要

北九州市正答率	27.0%	北九州市無解答率	1.4%
全国正答率	36.4%	全国無解答率	1.2%

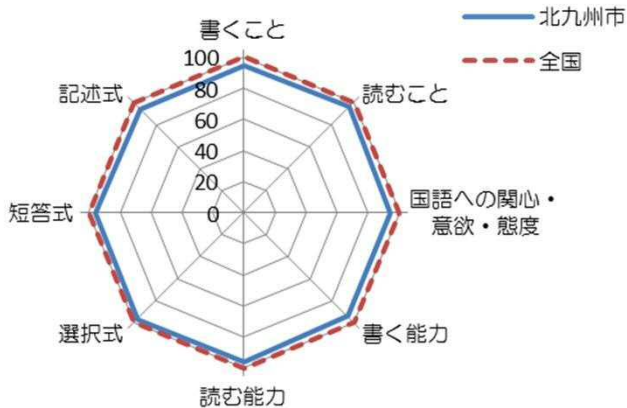
- 1 全ての文字を同じ大きさとして書き直した。
- 2 別の文字と目印を揃えるように書き直した。
- 3 書体を統一することを意識して書き直した。
- 4 行の中心に文字の中心をずらして書き直した。
- 5 用紙の大きさと文字数の関係に注意して書き直した。

みんなで目指す理想の学校

みんなで目指す理想の学校

中学校国語B（活用に関する問題）

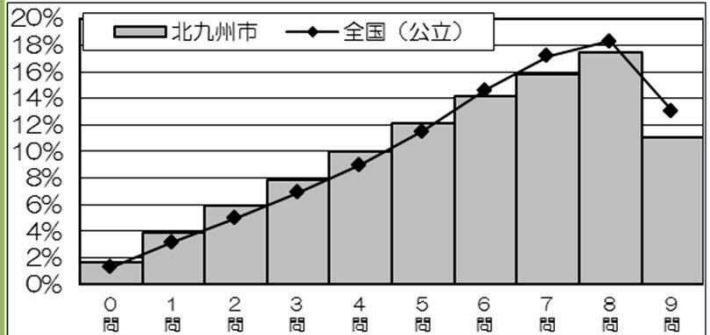
領域・観点・問題形式別



- ◆「書くこと」の領域の正答率は、全国平均を3.3ポイント下回った。
- ◆「国語への関心・意欲・態度」、「書く能力」の観点の平均正答率は、全国平均を3.3ポイント下回った。
- ◆「記述式」の平均正答率は、全国平均を3.3ポイント下回った。

正答数分布図

学力の分布は、正答数の多い側に集中した山型である。
平成28年度 中学校国語B 正答分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



- ◆全国と北九州市は、ともに8問正解の割合が最も多い状況である。
- ◆正答率40%以下（0～3問正解）の生徒の割合は、19.4%である。
- ◆正答率80%以上（8～9問正解）の生徒の割合は、28.6%である。

1 一 【文章の中心的部分と付加的部分とを読み分け、要旨を捉えることができるかどうかをみる問題】

博物館のちらし(表)

『暮らしの中の伝統文化展』の開催日程

博物館のちらし(裏)

暮らしに息づく「伝統文化」について

開催のねらい

「伝統文化」と日常生活とのつながりを知ってもらうこと

問) 【博物館のちらし(表)】と【博物館のちらし(裏)】から分かる『暮らしの中の伝統文化展』が開かれるねらいとして最も適切なものを選びなさい。

* 選択肢は省略

(答) 日本の伝統文化は特別なものではなく、現在の生活とつながりがあると知ってもらうこと。

北九州市正答率 74.8%
全国正答率 76.2%

北九州市無解答率 0.2%
全国無解答率 0.2%

中学校国語Bで成果があった問題



中学校国語Bで課題があった問題

2 三 【課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えることができるかどうかをみる問題】

ア:【雑誌の記事】の内容から
新たな課題を見いだす

イ:課題解決のために学校図書館を
利用して必要な本をどのように
探すのかを考える

- ◇ 交流を通して疑問点を出し合い、新たな課題を設定する活動(話し合い活動の充実等)
- ◇ 課題解決に向け、目的に応じて適切な情報を収集する活動(インターネット、図書館の利用等)

問) 高橋さんは、宇宙エレベーターについて疑問に思ったことを、学校図書館で調べることにしました。あなたなら、自分が疑問に思ったことを、学校図書館でどのように調べますか。

ア.【雑誌の記事】を読んで、宇宙エレベーターについてあなたが疑問に思ったことを「なぜ」「どのような(に)」「どのくらい」という言葉のいずれかを使って20字以上、40字以内で書きなさい。

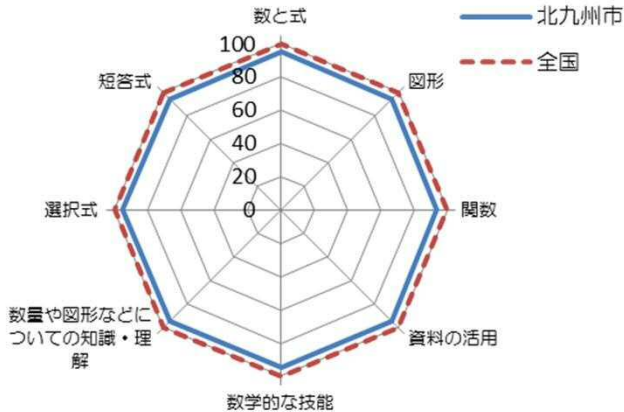
イ. アについて学校図書館で調べる場合、必要な本をどのように探しますか。本の探し方を2つ書きなさい。

* 正答例は省略

北九州市正答率 47.4%
全国正答率 49.2%

北九州市無解答率 8.2%
全国無解答率 6.0%

領域・観点・問題形式別

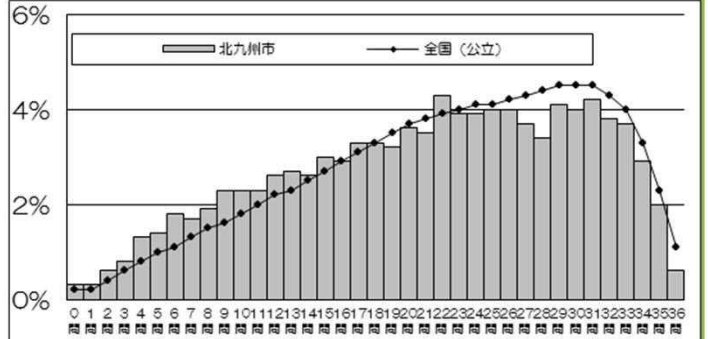


- ◆「図形」の領域の正答率は、全国平均を3.7ポイント下回った。
- ◆「数学的な技能」の観点の平均正答率は、全国平均を3.6ポイント下回った。
- ◆「短答式」の平均正答率は、全国平均を3.7ポイント下回った。

正答数分布図

学力の分布は低位層が多く、二つの山で分布している。

平成28年度 中学校数学A 正答分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）

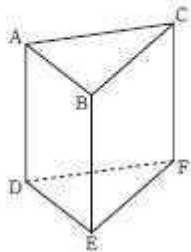


- ◆全国は31問正解の生徒の割合が最も多いが、北九州市は22問正解の割合が最も多い状況である。
- ◆正答率40%以下（0～14問正解）の生徒の割合は、24.9%である。
- ◆正答率80%以上（29～36問正解）の生徒の割合は、25.3%である。

【三角柱において、与えられた辺とねじれの位置にある辺を書く問題】

⑤ 次の(1)から(4)までの各問に答えなさい。

(1) 下の図の三角柱には、辺ADとねじれの位置にある辺がいくつかあります。そのうちの1つを書きなさい。



【授業において】

見取図から直線や平面の位置関係を読み取ることができるようになるために、立体の模型などの具体物を用いて観察や操作の活動の場面を積極的に取り入れましょう。

正答 辺BC または 辺EF

北九州市正答率	76.4%	北九州市無解答率	3.3%
全国正答率	75.5%	全国無解答率	2.6%

中学校数学Aで成果があった問題

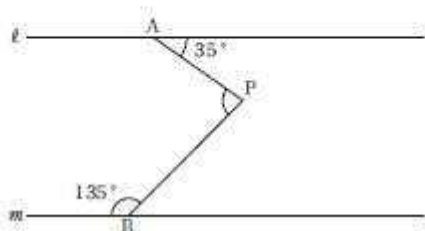


中学校数学Aで課題があった問題

【平行線や角の性質を用いて角の大きさの計算の問題】

⑥ 次の(1)、(2)の各問に答えなさい。

(1) 下の図で、直線 l 、 m は平行です。このとき、 $\angle APB$ の大きさを求めなさい。



【授業において】

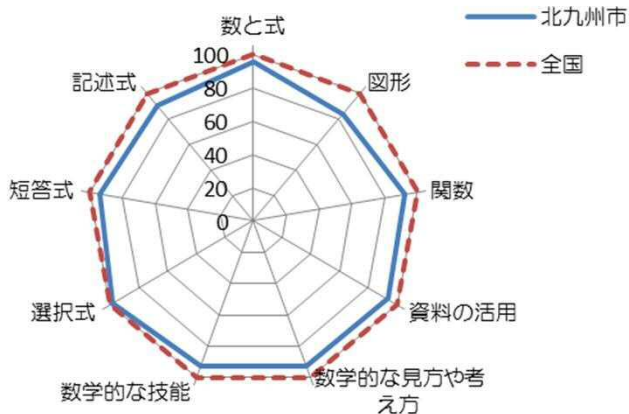
平行線の性質や三角形の内角の和、三角形の外角の性質など様々な解法を用いて角の大きさの求め方を話し合い、説明する場面を設定しましょう。

正答 $\angle APB = 80^\circ$

北九州市正答率	66.5%	北九州市無解答率	6.2%
全国正答率	74.8%	全国無解答率	4.5%

中学校数学B（活用に関する問題）

領域・観点・問題形式別

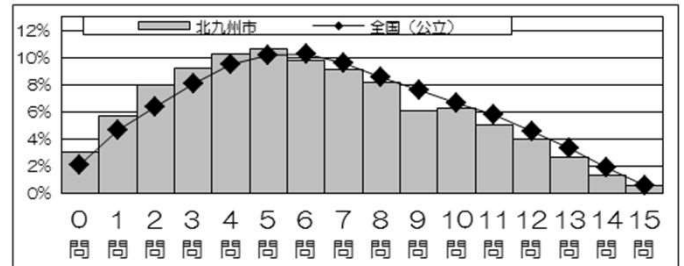


- ◇「選択式」の平均正答率は、全国平均を0.8ポイント下回っているものの、全国平均とほぼ同程度だった。
- ◆「図形」の領域、「数学的な技能」の観点、「短答式」の平均正答率は、それぞれ全国平均を5.5、4.3、3.7ポイント下回った。

正答数分布図

学力の分布は、正答数の少ない側に集中した山型である。

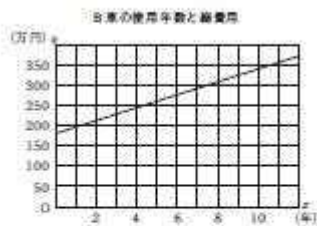
平成28年度 中学校数学B 正答分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



- ◆全国は6問正解の生徒の割合が最も多いが、北九州市は5問正解の割合が最も多い状況である。
- ◆正答率40%以下（0～6問正解）の生徒の割合は、56.7%である。
- ◆正答率80%以上（12～15問正解）の生徒の割合は、8.6%である。

③ ②)の表を入力してy年間の使用するときの総費用をy万円とします。このyとyの関係で、北平さんは次のような一次関数のグラフに表しました。

【B車の使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、グラフの傾きが表すものを選ぶ問題】



このグラフの傾きは、直線についての何を表していますか。下のアからエまでの中から正しいものを1つ選びなさい。

- ア 総費用
- イ 車両価格
- ウ 1年間あたりのガソリン代
- エ 使用年数

【授業において】

グラフの傾きは変化の割合を示していることから、話し合い活動を通じて「使用年数が増えるにつれて、諸経費が増える」ことに生徒が気づき、「1年間あたりのガソリン代」であると言葉で説明する場面を設定するとよいでしょう。

正答 ウ

北九州市正答率	30.7 %	北九州市無解答率	0.8 %
全国正答率	29.8 %	全国無解答率	0.7 %

中学校数学Bで成果があった問題



中学校数学Bで課題があった問題

② 桃香さんと拓真さんは、お互いに数学の図表を出し合いながら勉強しています。桃香さんは、次のような図表を作りました。

桃香さんが作った問題

yの値に対応するxの値は、次の表のようになります。このとき、x=4のときのyの値を求めなさい。

x	...	2	3	4	...
y	...	18	12	...	...

【一次関数の表からx=4のときのyの値を求める問題】

【授業において】

1年生の「変化と対応」や2年生の「一次関数」において、表、式、グラフを相互に関連付けて理解することが大切になります。

授業では、表からxの増加量が1のときのyの増加量が-6になっていることを根拠にして、x=4のときy=12-6=6と説明させる場面を設定するとよいでしょう。

正答 y=6

北九州市正答率	48.8 %	北九州市無解答率	12.6 %
全国正答率	59.1 %	全国無解答率	8.7 %

次の(1)、(2)の名前に答えなさい。

(1) 拓真さんは、桃香さんが作った問題について、yがxの一次関数であると考えました。yがxの一次関数であるとするとき、x=4のときのyの値を求めなさい。

小学校国語

【国語A】＜全国平均正答率との差＞

- 漢字を正しく書くこと「そうだん」 ＜全国平均正答率との差… +4.8＞
- 目的に応じて必要な情報を取り出し、それらを関係付けて読むこと ＜全国平均正答率との差… -1.0＞
- 平仮名で表記されたものをローマ字で書くこと ＜全国平均正答率との差… -9.7＞
- 表現の仕方に着目して助言し合うこと ＜全国平均正答率との差… -3.6＞

【国語B】＜全国平均正答率との差＞

- グラフを基に分かったことを的確に書くこと ＜全国平均正答率との差… +0.3＞
- 記述式の問題の正答率が上昇 ＜(H27)-3.1→(H28)-2.7＞
- 目的や意図に応じて、複数の情報を関連付けて、自分の考えをまとめること ＜全国平均正答率との差… -4.1＞
- 話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問すること ＜全国平均正答率との差… -5.4＞

【課題に対する今後の取組】

- ・ 漢字の確実な習得のために、各教科等や日常生活で使用する文や文章の中で、既習漢字の使用を徹底する。また、語彙を広げるために、国語辞典・漢字辞典の利用について指導する。
- ・ 目的や場面に応じて、話し手の意図や自分の考えとの共通点や相違点、予想した反応との違いなどを踏まえて聞くことができるように、実際の話の展開の中で、それらの観点について考えるような授業をする。

小学校算数

【算数A】

- 小数の除法における計算能力 ＜全国平均正答率との差… +2.6＞
- 三角形の底辺と高さの関係を理解する問題 ＜全国平均正答率との差… -7.8＞
- 1を超える割合を表す場面において、基準量と比較量の関係を理解する問題 ＜全国平均正答率との差… -8.1＞

【算数B】

- 量と測定、図形領域については、全国との差が、昨年度より縮まった。
＜全国比量と測定…H27（-2）→H28（-1.6）図形…H27（-2.1）→H28（-1.9）＞
- 必要な情報を判断し、単位量当たりの大きさを求めること ＜全国平均正答率との差… -6.0＞
- 複数の表から読み取ることができる事柄とできない事柄を判断すること ＜全国平均正答率との差… -5.4＞

【課題に対する今後の取組】

- ・ 全体と部分の大きさの関係や底辺と高さの関係を理解することができるように、視覚的に表す活動の在り方について指導・助言する。また、習熟のための時間を設定する授業を行う。
- ・ 表やグラフ、式の意味などの理解をより深めるために、言葉や図を用いた説明で終わるのではなく、もう一度問題場面に戻って説明内容を振り返り考察するといった活動を取り入れる授業を行う。

中学校国語

【国語A】

○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む力 <全国平均正答率との差… +4.3>

○文章を読み返し、文の使い方などに注意して書く力
<全国比(H27→H28) [正答率] … -2.7 → +1.0>

●辞書を活用し、漢字が表している意味を正しく捉える力
<全国平均正答率との差 … -6.3>

●文字の形や大きさ、配列に注意して書く力
<全国平均正答率との差 … -9.4>

【国語B】

○文章の中心的な部分と付加的な部分などを読み分け、要旨を捉える力
<全国比(H27→H28) [正答率] … -3.2 → -1.4>

●本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く力
<全国平均正答率との差 … -4.7>

【課題に対する今後の取組】

- ・ 書写の学習において、書いたものについて生徒が互いに評価し合う場面を設ける。その際、文字の形や大きさ、配列などの観点を具体的に示した上で、実際に書き直したものを見比べる時間を設定する。
- ・ 文章を読む際に、必要に応じて関連する資料を学校図書館等から収集すること、また、文章のどの部分に着目し、どのような事柄を基にして内容を理解しているか等、根拠を明確にして説明し合うような授業を行う。

中学校数学

【数学A】

○ 辺と辺がねじれの位置にあることの理解 <全国平均正答率との差 … +0.9>

● グラフから変域を求める問題 <全国平均正答率との差 … -9.2>

● 平行線や角の性質を用いて、角の大きさを求める問題
<全国平均正答率との差 … -8.3>

【数学B】

○ 数学的な見方や考え方、記述式の問題の平均正答率が、昨年度と比較して全国との差が若干縮まった。 見方や考え方 <全国比(H27→H28) [正答率] … -3.9 → -2.7>

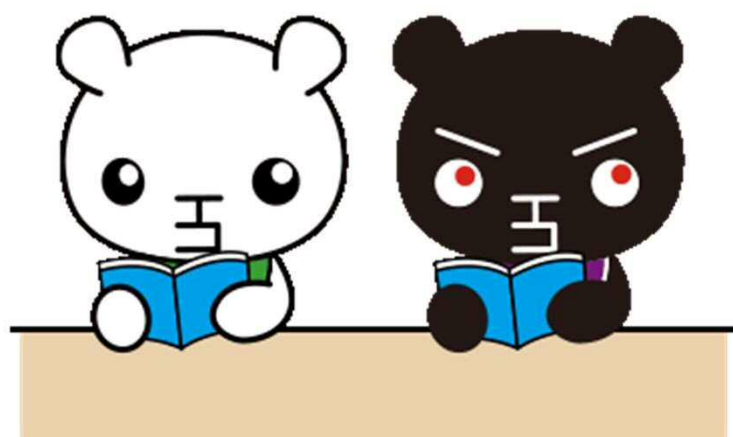
記述式 <全国比(H27→H28) [正答率] … -3.9 → -3.2>

● 一次関数の表でxの値に対するyの値を求める力 <全国平均正答率との差 … -10.3>

● 筋道を立てて考え、証明する力 <全国平均正答率との差 … -6.2>

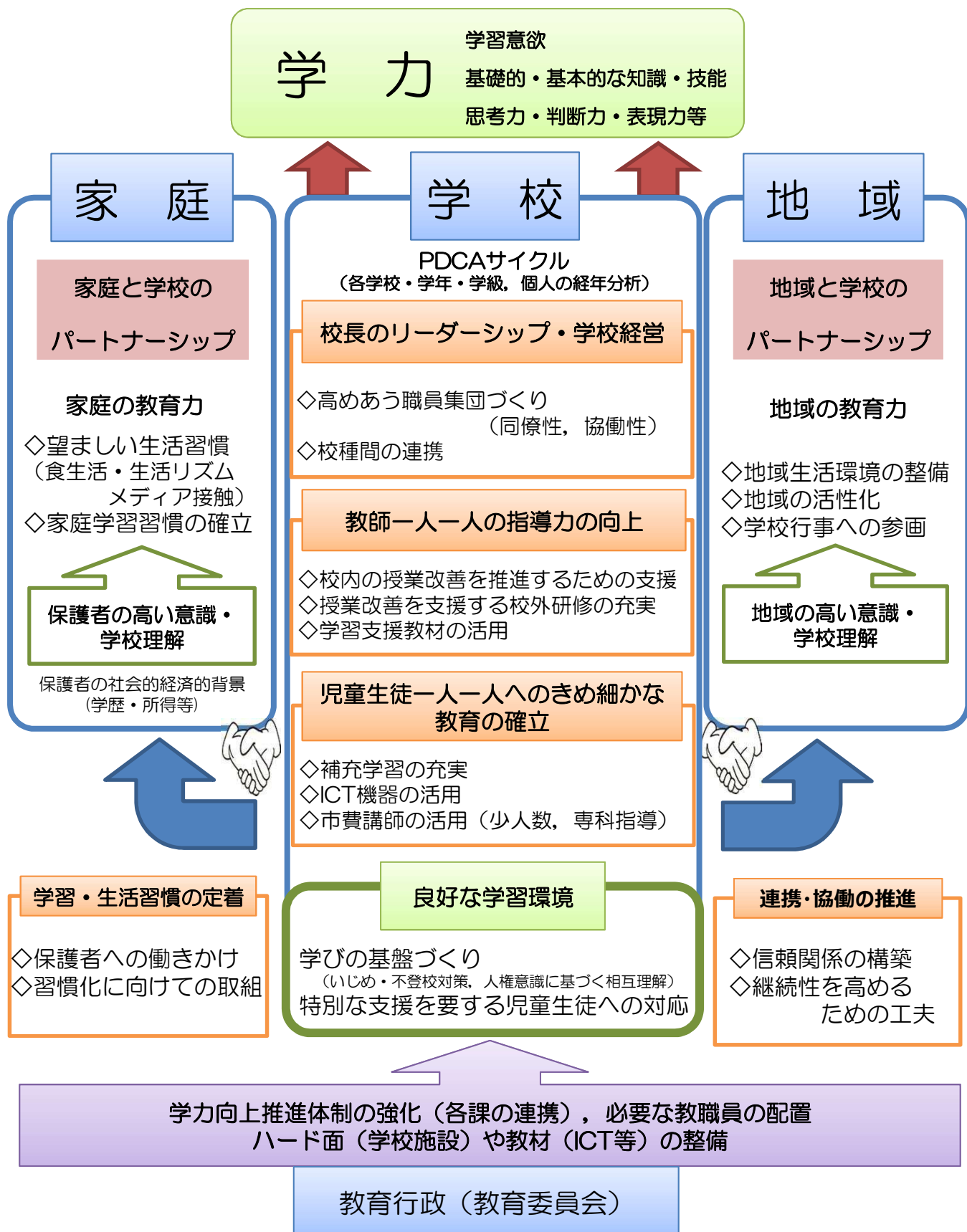
【課題に対する今後の取組】

- ・ 基礎的、基本的な計算などの技能の習得だけでなく、話し合い活動や書く活動で計算の意味を考えて説明する習慣をつける。
- ・ 授業の中でも、不足している条件や問題の条件を変えて考えること、結果からさらに分かること、などを生徒に聞き、そのように考える習慣をつける。また、説明の基本的な仕方を教え、授業の中で活用する。



北九州市環境マスコットキャラクター ていたん&ブラックていたん
©ていたん&ブラックていたん, 北九州市

(6) 学力に影響を与える要因



(7) 学習状況調査結果 ～「学びの育ち」と「心の育ち」の更なる成長に向けて～

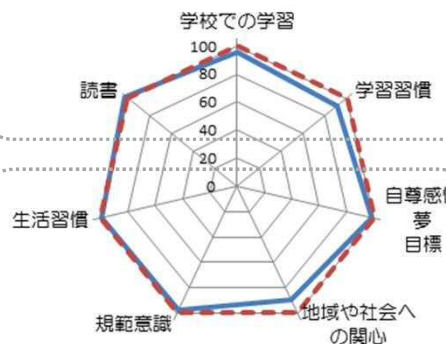
児童生徒質問紙から、「学びの育ち」と「心の育ち」に関係の深い質問項目を選び、子どもたちの質問に対する回答状況を数値化し、指標としています。

		質問項目
学びの育ち	学習習慣	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。
		家で、学校の宿題をしていますか。
		学校の授業時間以外に、普段（月曜日～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
	学校での学習	「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。
		授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。
		授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか。
		授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。
		学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。
		学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。
	読書	読書は好きですか。
心の育ち	生活習慣	朝食を毎日食べていますか。
		毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。
		普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）
	規範意識	学校のきまり・規則を守っていますか。
	地域や社会への関心	今住んでいる地域の行事に参加していますか。
		地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。
	自尊感情 夢 目標	自分には、よいところがあると思いますか。
		将来の夢や目標を持っていますか。
		人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

平成28年度 本市と全国との比較

【小学校】

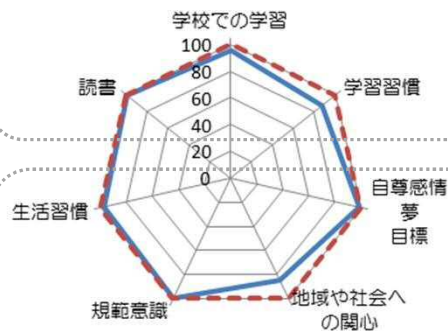
【学びの育ち】



【心の育ち】

【中学校】

【学びの育ち】



【心の育ち】



～学校質問紙調査及び児童生徒質問紙より～



「学びの育ち」について

家庭での学習習慣の定着については、H25年度の実施状況と比べると小中学校ともに伸びてきているものの、全国と比較するとやや下回っている。小学校では、「学校の宿題をしている」項目が全国とほぼ同程度である。学校ごとに宿題プリントを作成したり、学年ごとに家庭学習の時間を示すなどの取組が継続して行われている成果である。

また、「自分で計画を立てて勉強している」項目については、「あてはまらない」と否定的な回答をした児童生徒が全国と比較して6ポイント程度高い。今後、児童生徒が意欲的に家庭学習に取り組み、学習習慣の定着を図っていくためには、宿題や自主学習を課した後の確認・評価を徹底することが重要である。

学校での学習については、「授業のはじめに目標（めあて・ねらい）を示したり、授業の最後に学習内容の振り返りを行ったりする」取組が小中学校ともに全国を上回っている。3年前の実施状況と比べると小学校では約6ポイント、中学校では約13ポイント伸びてきている。授業改善に向けた取組の成果である。

ただし、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする」ことについて肯定的に回答している児童生徒の割合は、3年前に比べて伸びてはきているものの、全国平均には至っていない。今後は、授業展開における話し合いの場の設定を工夫したり、話し合いの質的向上を図ったりするなど、アクティブ・ラーニングの視点をとり入れた授業づくりを行うことが重要である。

「心の育ち」について

生活習慣での「就寝時間」については、肯定的な回答が増えているが、「朝食の摂取率」については、全国平均を下回っており依然として課題である。「メディアへの接触時間」は、小6中3ともに、全国平均を上回っており、ゲームをする時間は増加傾向にある。これについては昨年度から引き続き本市の課題である。PTAやいじめ防止サミットin北九州などで「ケータイ スマホ 夜10時電源OFF運動」への取組を啓発しており、各家庭で話し合ってルールを作るなど、より一層、具体的な取組が求められる。

規範意識・地域や社会への関心での「学校のきまり・規則」については、各校の実施により、改善傾向が見られる。また、「地域や社会への関心」については、肯定的な回答の割合が、小6中3ともに全国平均を下回るが、小6では昨年より増加している。引き続き、地域との連携を図り、児童生徒が地域の一員であるという自覚を育むことが大切である。

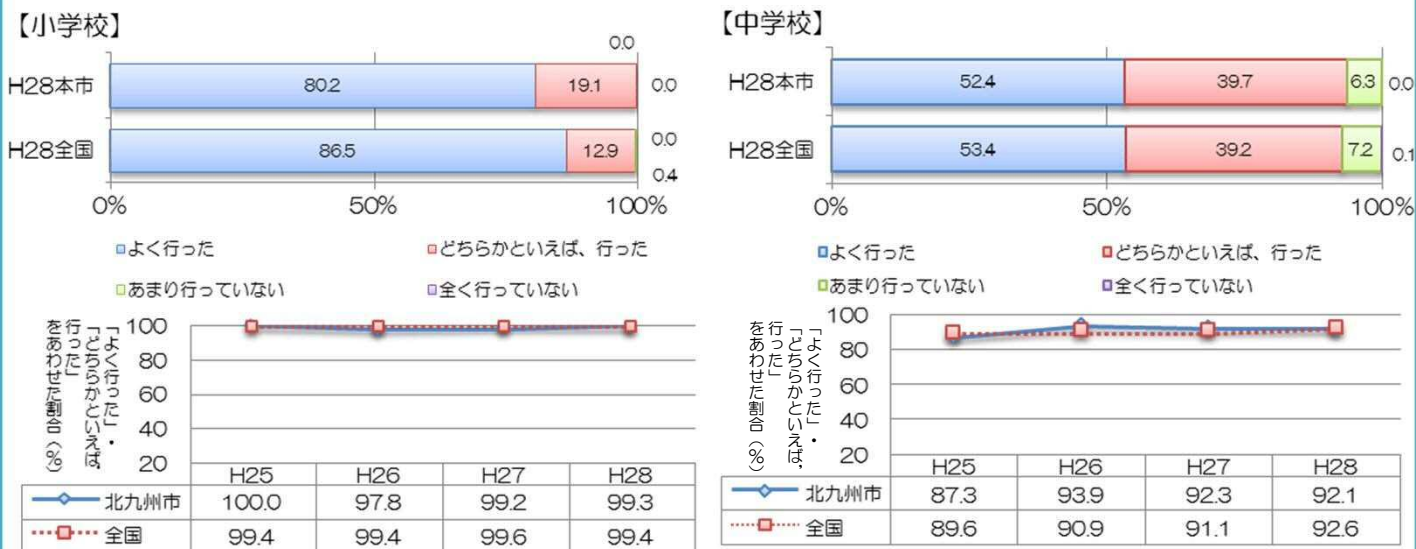
自尊感情の「自分には、よいところがある」については、H25年度の実施状況と比べると、小6中3ともに肯定的な回答が増えている。一方、「将来の夢や希望を持っている」については、「当てはまる」と回答した小6中3がともに減少傾向にある。今後も、学校・家庭・地域での様々な活動を通して、児童生徒が自己有用感を実感したり、達成感を味わうことができたりする機会を設けていくことが大切である。

①学びの育ち 【宿題について】

～学校質問紙より～

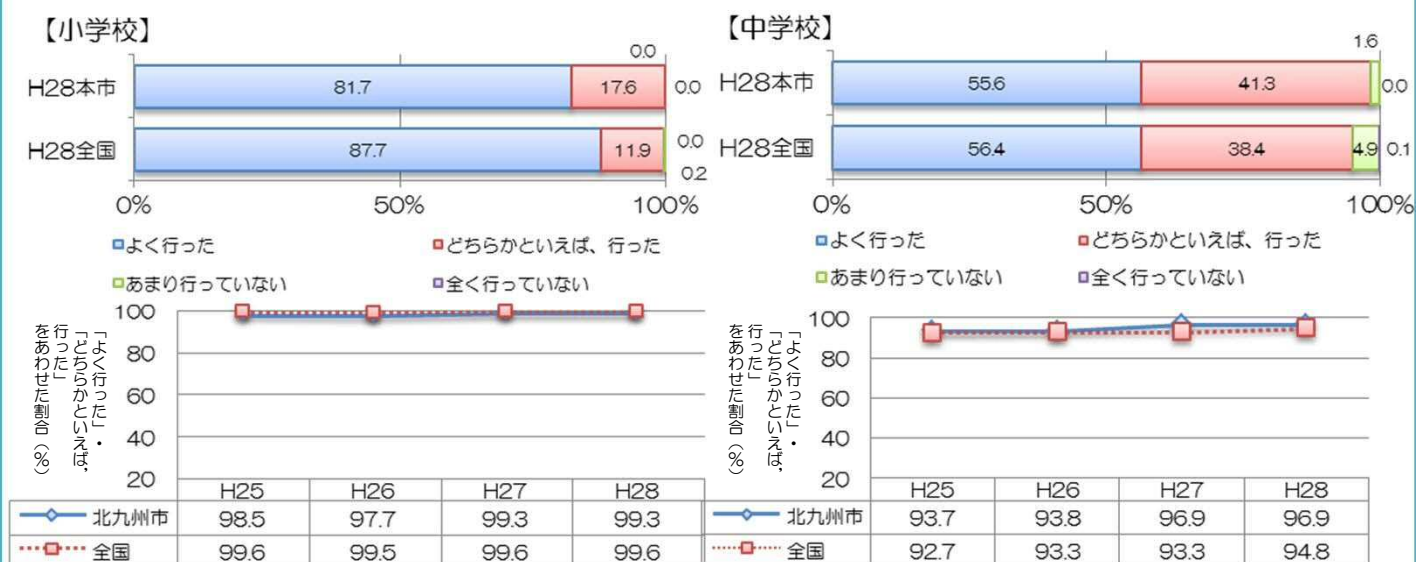
学校質問紙から、「学びの育ち」に関係の深いデータを示しています。（無回答、その他を除く。）

質問番号小92・中90【調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、国語の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか】



「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、国語の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか」について肯定的な回答をした学校の割合は、小学校、中学校ともに全国平均とほぼ同程度である。

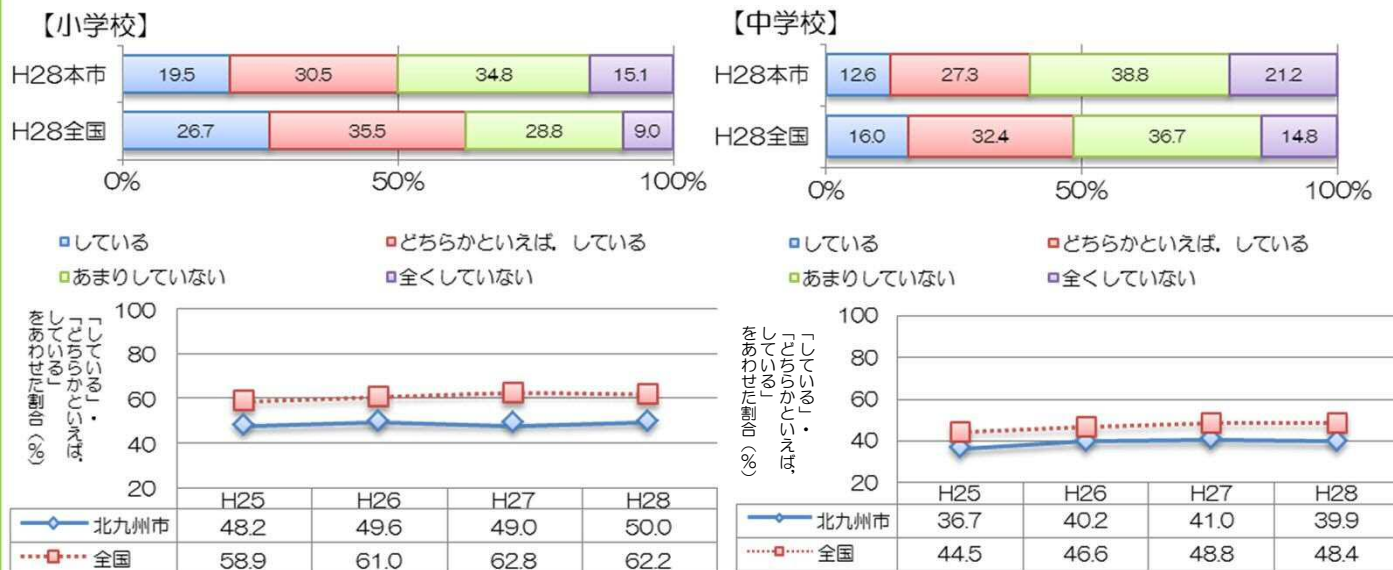
質問番号小94・中92【調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、算数・数学の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか】



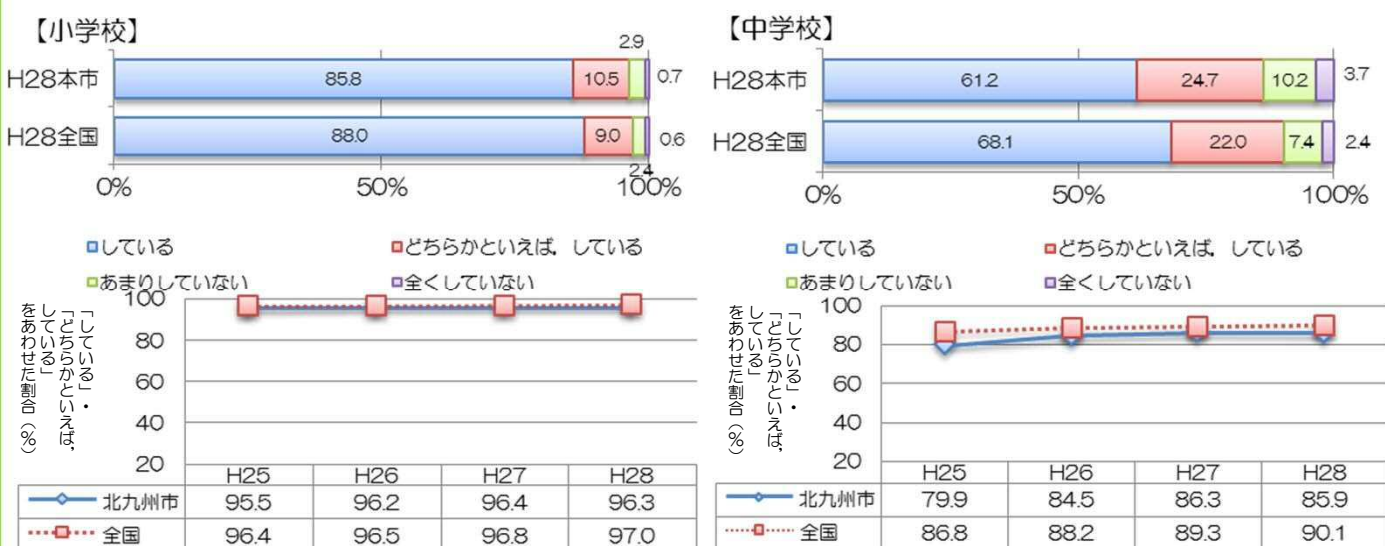
「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、算数の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか」について、肯定的な回答をした学校の割合は、小学校、中学校ともに全国平均とほぼ同程度である。

児童生徒質問紙から、「学びの育ち」に関係の深いデータを示しています。（無回答，その他を除く。）

質問番号 2 1 【家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか】



質問番号 2 2 【家で、学校の宿題をしていますか】

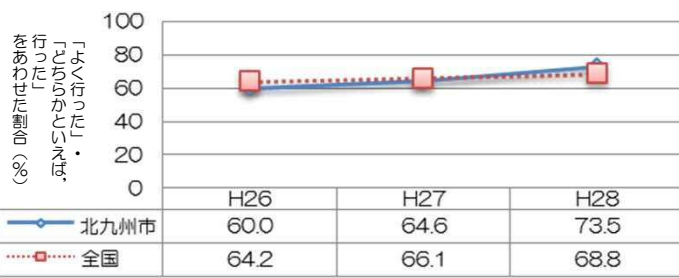
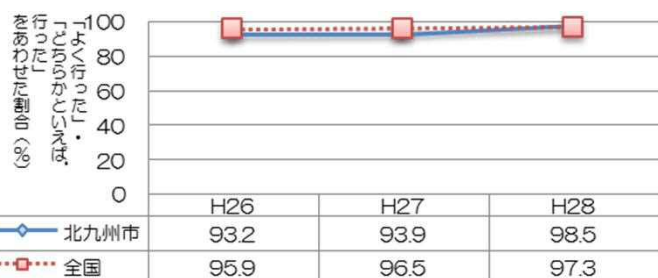
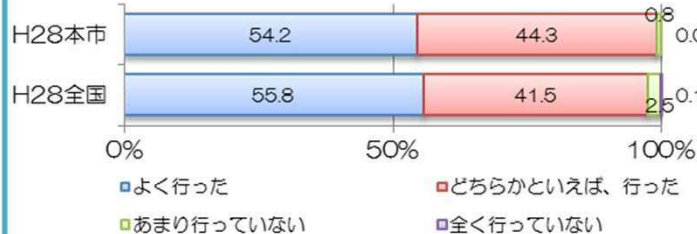


学校質問紙から、「学びの育ち」に関係の深いデータを示しています。（無回答、その他を除く。）

質問番号96 【調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか（国語／算数・数学共通）】

【小学校】

【中学校】

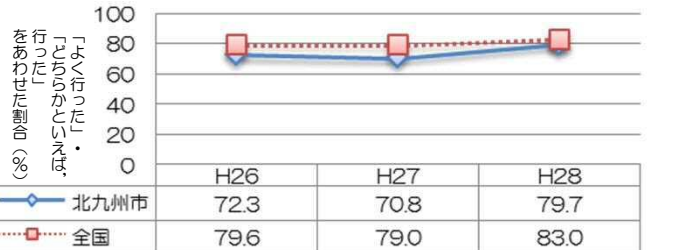
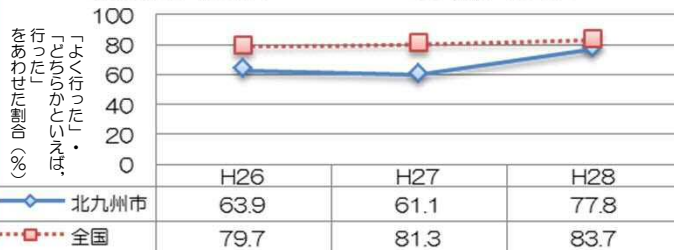
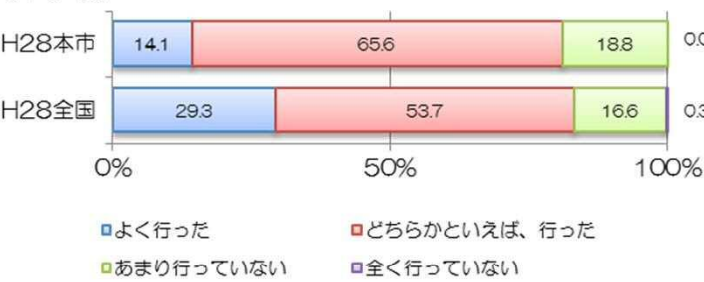
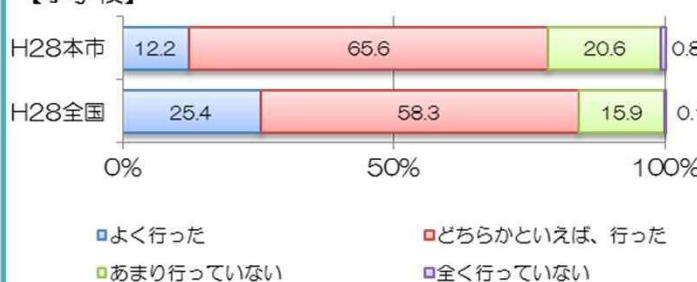


「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか（国語／算数・数学共通）」について、肯定的な回答をした学校の割合は、昨年度より小学校では5ポイント、中学校では10ポイント近く上昇し、全国平均を上回っている。

質問番号43 【調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか】

【小学校】

【中学校】



「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか」について、肯定的な回答をした学校の割合は、全国平均を下回っているが、昨年度より小学校では15ポイント以上、中学校では10ポイント近く上昇した。

児童生徒質問紙から、「学びの育ち」に関係の深いデータを示しています。（無回答，その他を除く。）

質問番号14【学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日），1日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）】

【小学校】

【中学校】



「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日），1日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」について「1時間以上勉強している」と回答した割合は，小6では，50.5%，中3では，54.0%となっており，ともに全国平均を下回っている。

質問番号46【「総合的な学習の時間」では，自分で課題を立てて情報を集め整理して，調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか】

【小学校】

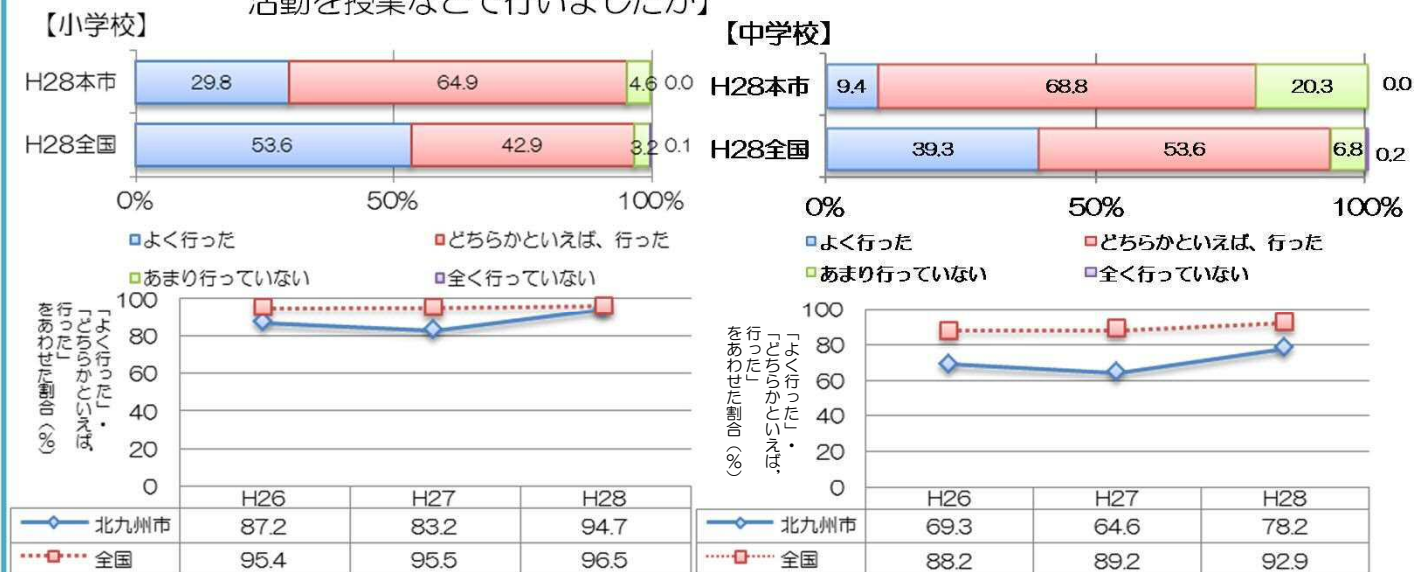
【中学校】



「『総合的な学習の時間』では，自分で課題を立てて情報を集め整理して，調べたことを発表する等の学習活動に取り組んでいますか」について，肯定的な回答をした割合は，小6中3ともに昨年度より2ポイント以上上昇した。

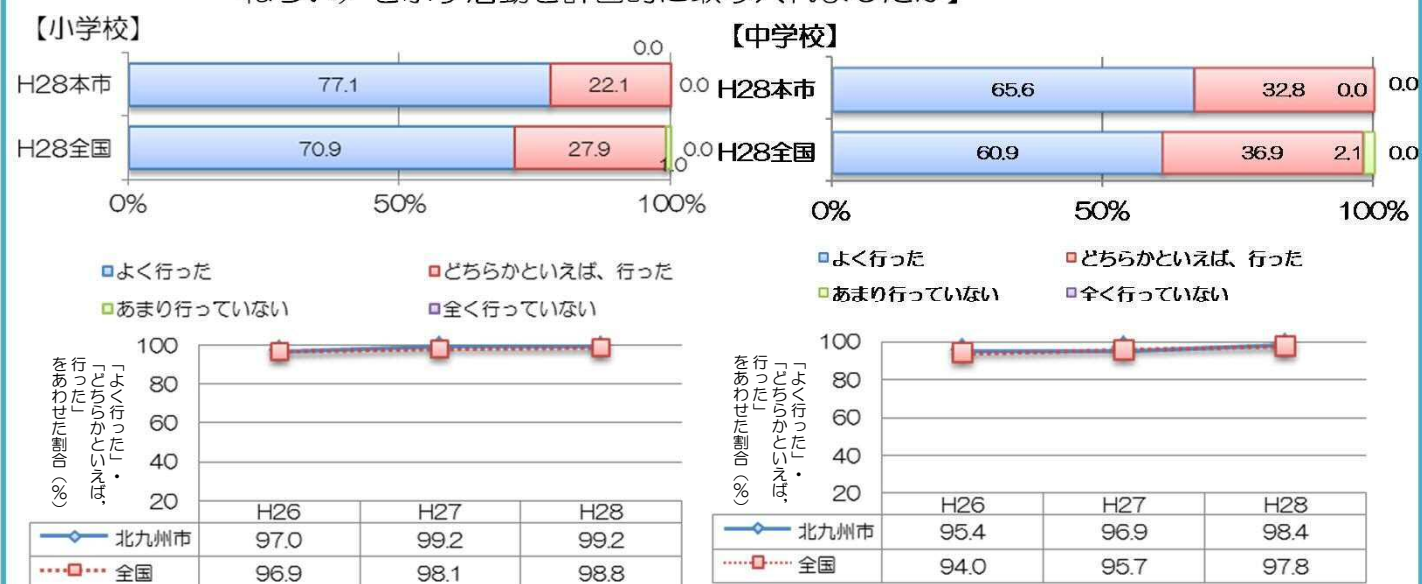
学校質問紙から、「学びの育ち」に関係の深いデータを示しています。（無回答、その他を除く。）

質問番号42【調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか】



「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか」について、肯定的な回答をした学校の割合は、小学校、中学校ともに、全国平均を下回っているが、昨年度と比較して増加している。

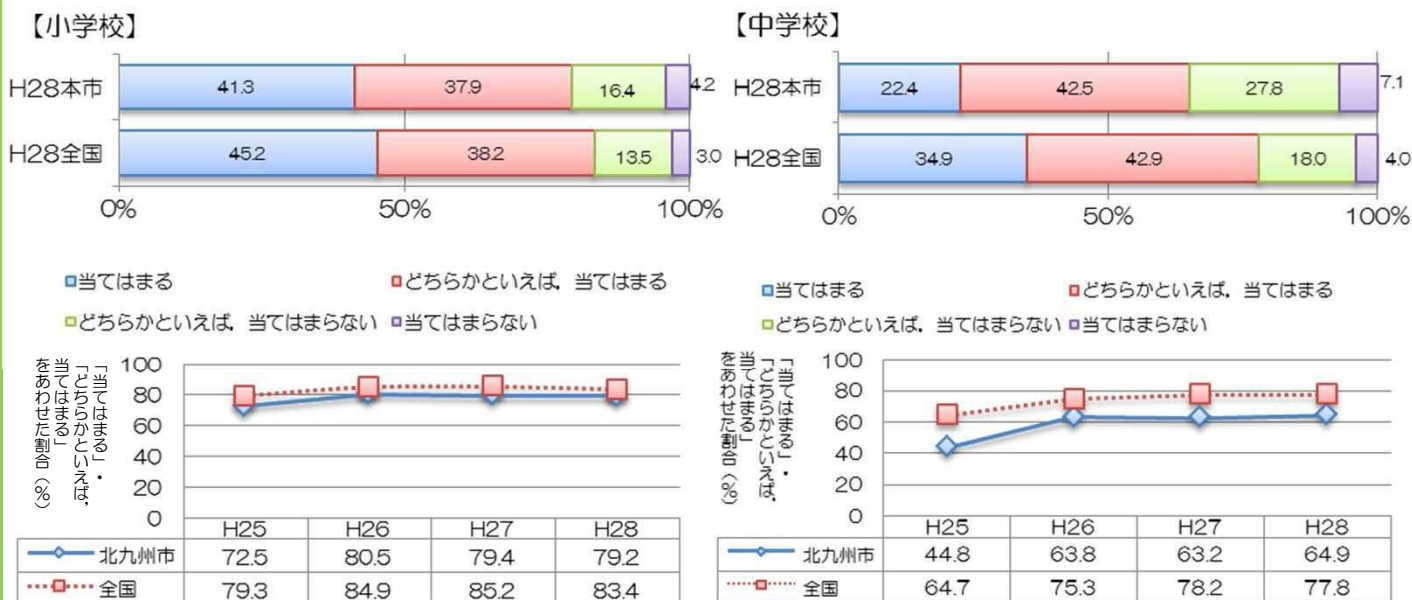
質問番号36【調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか】



「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか」について、肯定的な回答をした学校の割合は、小学校、中学校ともに全国平均とほぼ同程度である。

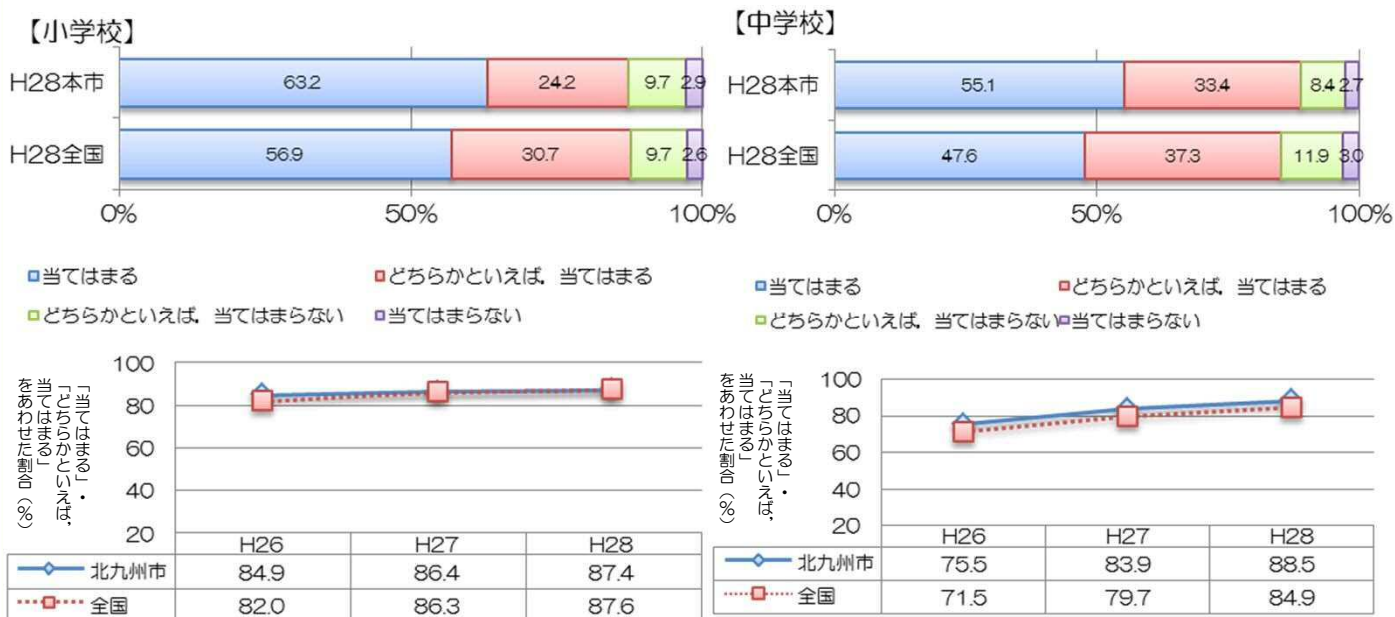
児童生徒質問紙から、「学びの育ち」に関係の深いデータを示しています。（無回答、その他を除く。）

質問番号49【授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか】



「授業では、学級の友達の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」について、肯定的な回答をした割合は、小6では、昨年と同程度だが、中3では、やや改善している。

質問番号53【授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか】

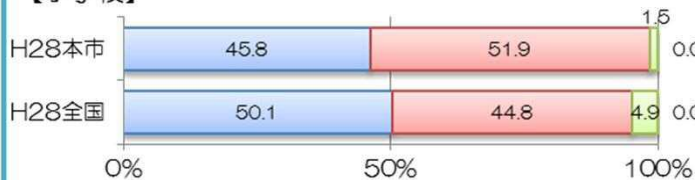


「授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか」について、小6中3ともに「当てはまる」と回答した割合は、全国平均を上回っており、年々改善がみられる。

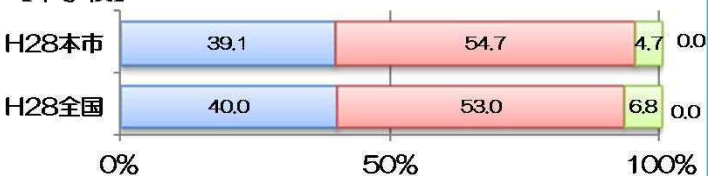
学校質問紙から、「学びの育ち」に関係の深いデータを示しています。（無回答、その他を除く。）

質問番号37【調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れ了吗か】

【小学校】

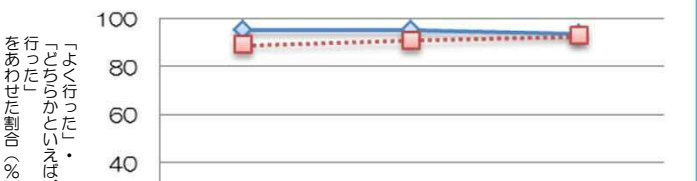
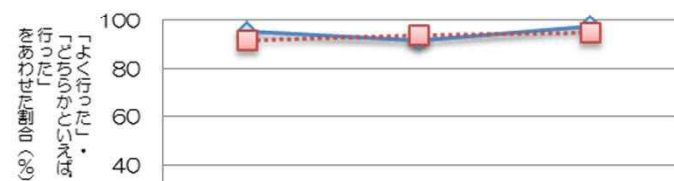


【中学校】



0% 50% 100%
 ■よく行った ■どちらかといえば、行った ■あまり行っていない ■全く行っていない

0% 50% 100%
 ■よく行った ■どちらかといえば、行った ■あまり行っていない ■全く行っていない



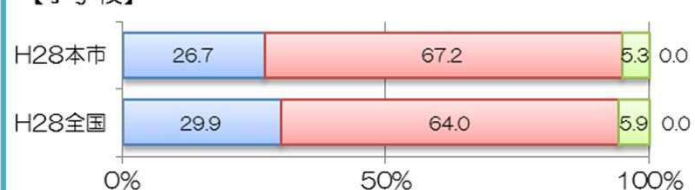
	H26	H27	H28
北九州市	95.5	91.6	97.7
全国	91.6	93.9	94.9

	H26	H27	H28
北九州市	95.4	95.3	93.8
全国	89.2	90.9	93.0

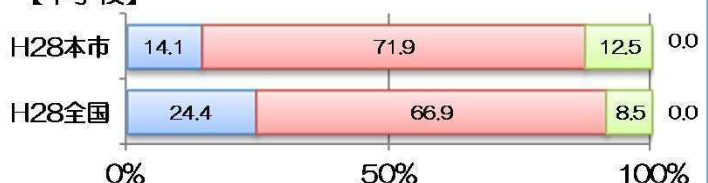
「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れ了吗か」について、肯定的な回答をした学校の割合は、小学校では全国平均を上回っており、中学校では同程度である。

質問番号47【調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか】

【小学校】

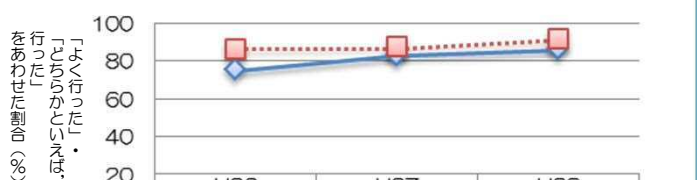
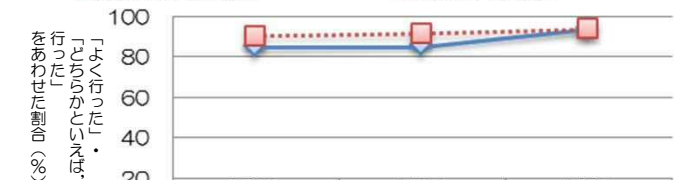


【中学校】



0% 50% 100%
 ■よく行った ■どちらかといえば、行った ■あまり行っていない ■全く行っていない

0% 50% 100%
 ■よく行った ■どちらかといえば、行った ■あまり行っていない ■全く行っていない



	H26	H27	H28
北九州市	85.0	86.2	93.9
全国	90.6	91.9	93.9

	H26	H27	H28
北九州市	75.4	83.1	86.0
全国	86.5	87.8	91.3

「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか」について、肯定的な回答をした学校の割合は、小学校では全国平均と同程度、中学校では全国平均を下回っているが、年々増加している。

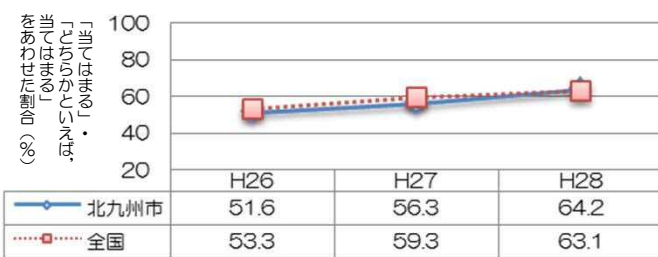
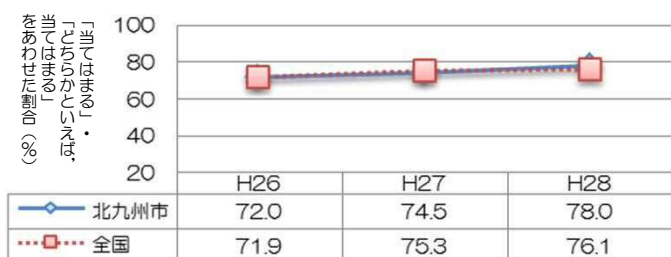
児童生徒質問紙から、「学びの育ち」に関係の深いデータを示しています。（無回答，その他を除く。）

質問番号54 【授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか】

【小学校】



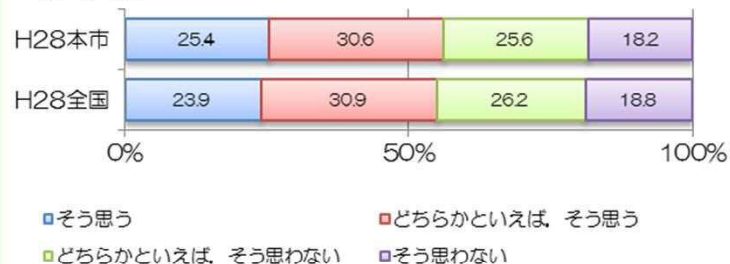
【中学校】



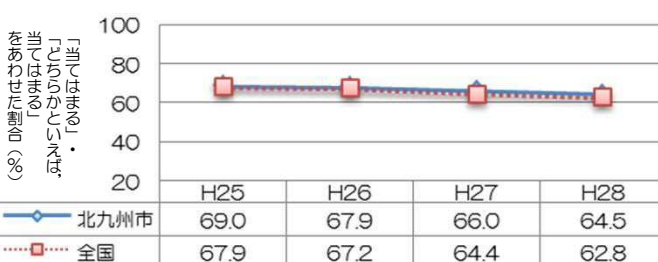
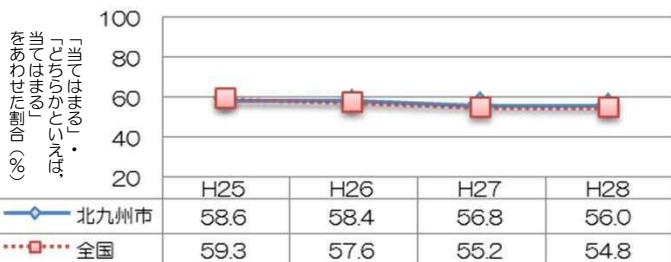
「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」について、肯定的な回答をした割合は、小6中3とも全国平均をやや上回っており、年々増加している。

質問番号58 【学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり，文章に書いたりすることは難しいと思いますか】

【小学校】



【中学校】



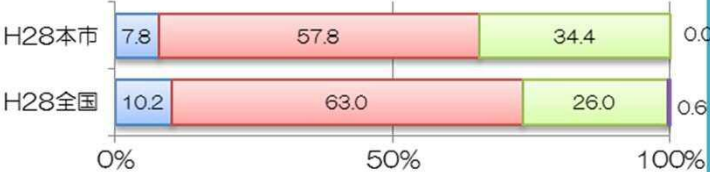
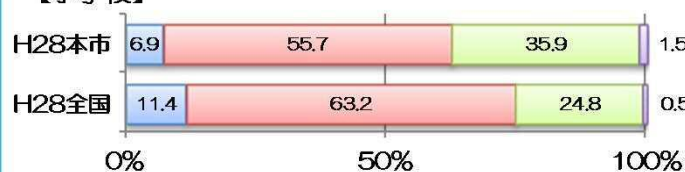
「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり，文章に書いたりすることは難しいと思いますか」について、否定的な回答をした割合は、小6中3ともに、減少傾向が見られ、改善している。

学校質問紙から、「学びの育ち」に関係の深いデータを示しています。（無回答、その他を除く。）

質問番号 17 【調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか】

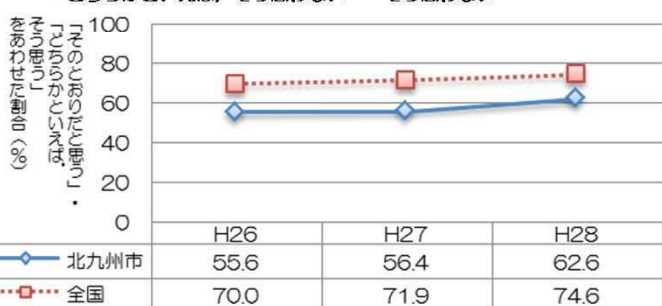
【小学校】

【中学校】



■ そのとおりだと思う ■ どちらかといえば、そう思う
■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない

■ そのとおりだと思う ■ どちらかといえば、そう思う
■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない

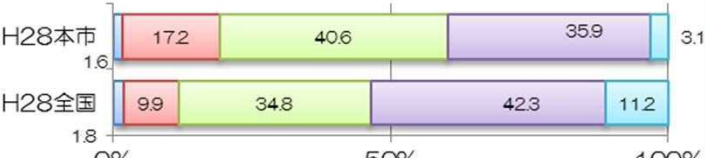
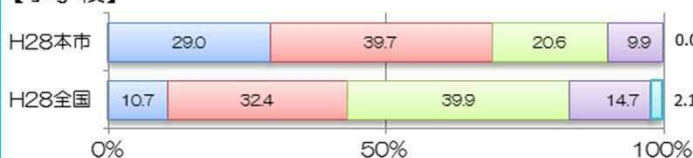


「調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか」について、肯定的な回答をした学校の割合は、小学校、中学校ともに、全国平均を下回っているが、昨年度より増加している。

質問番号 24 【調査対象学年の児童生徒に対して、前年度に、図書館資料を活用した授業を計画的に行いましたか】

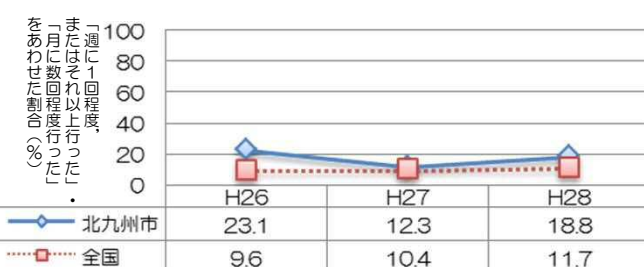
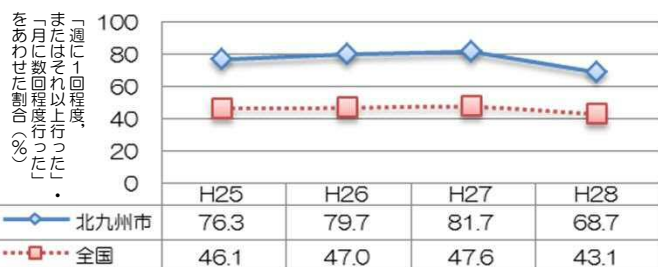
【小学校】

【中学校】



■ 週に1回程度、またはそれ以上行った ■ 月に数回程度行った
■ 学期に数回程度行った ■ 年に数回程度行った
■ 行っていない

■ 週に1回程度、またはそれ以上行った ■ 月に数回程度行った
■ 学期に数回程度行った ■ 年に数回程度行った
■ 行っていない

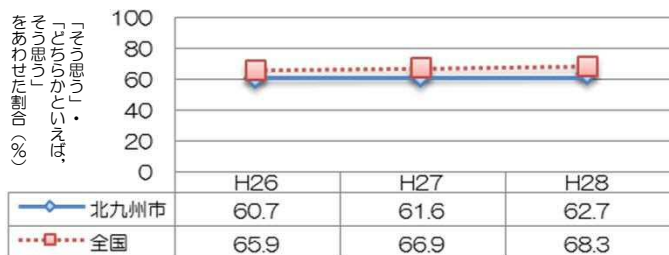


「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度に、図書館資料を活用した授業を計画的に行いましたか」について、「月に数回程度以上図書館資料を活用した授業を実施した」と回答した学校の割合は、小学校、中学校ともに、全国平均を上回っているが、小学校は昨年度より減少している。

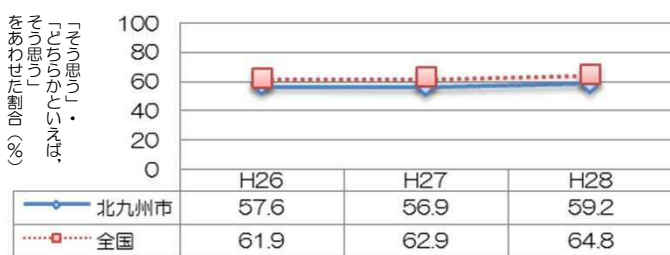
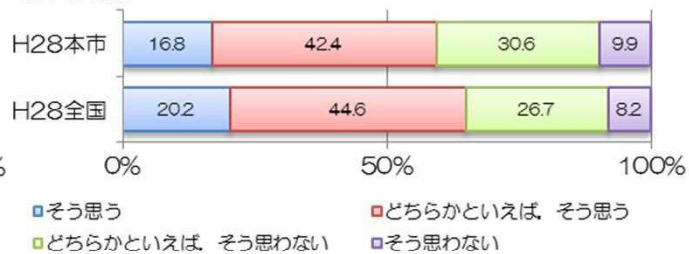
児童生徒質問紙から、「学びの育ち」に関係の深いデータを示しています。（無回答，その他を除く。）

質問番号59 【学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか】

【小学校】



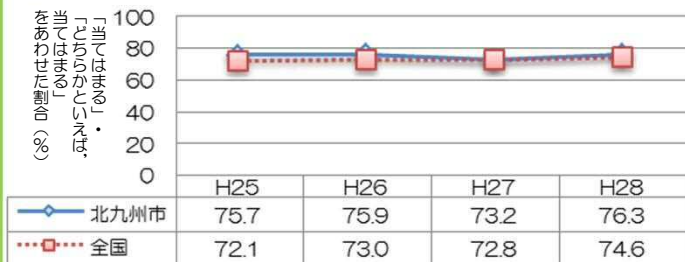
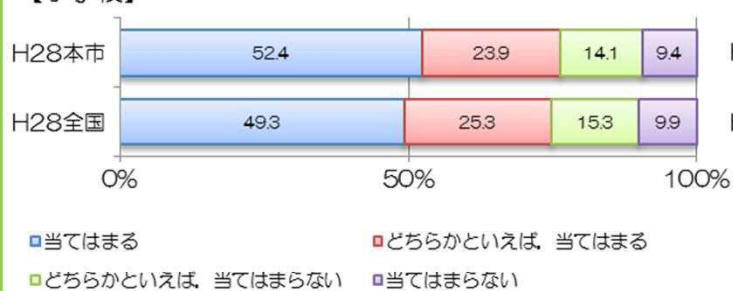
【中学校】



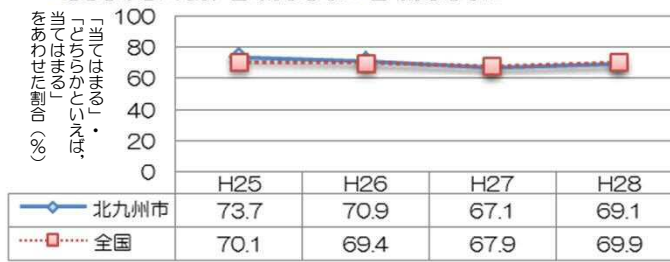
「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」について、肯定的な回答をした割合は、小6中3ともに、全国平均を下回っているが、昨年度より改善がみられる。

質問番号64 【読書は好きですか】

【小学校】



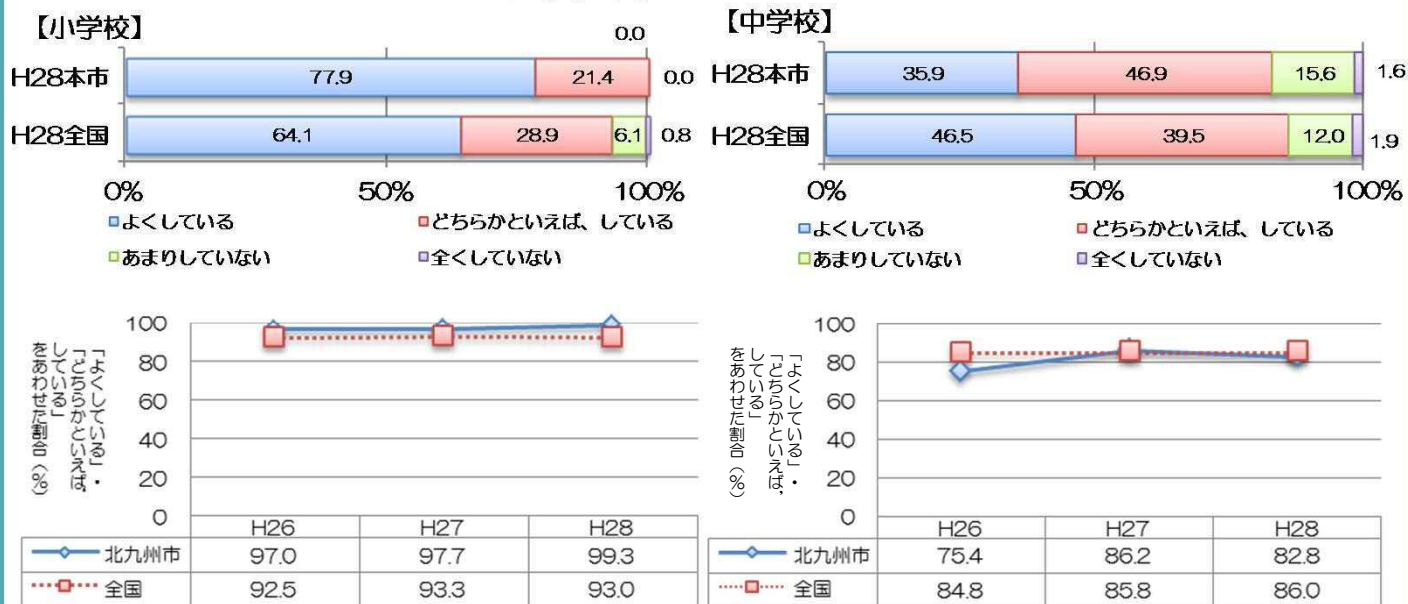
【中学校】



「読書は好きですか」について、「当てはまる」と回答した割合は、小6では、52.4%と全国平均を3.1ポイント上回り、中3は、ほぼ全国平均に近付いている。

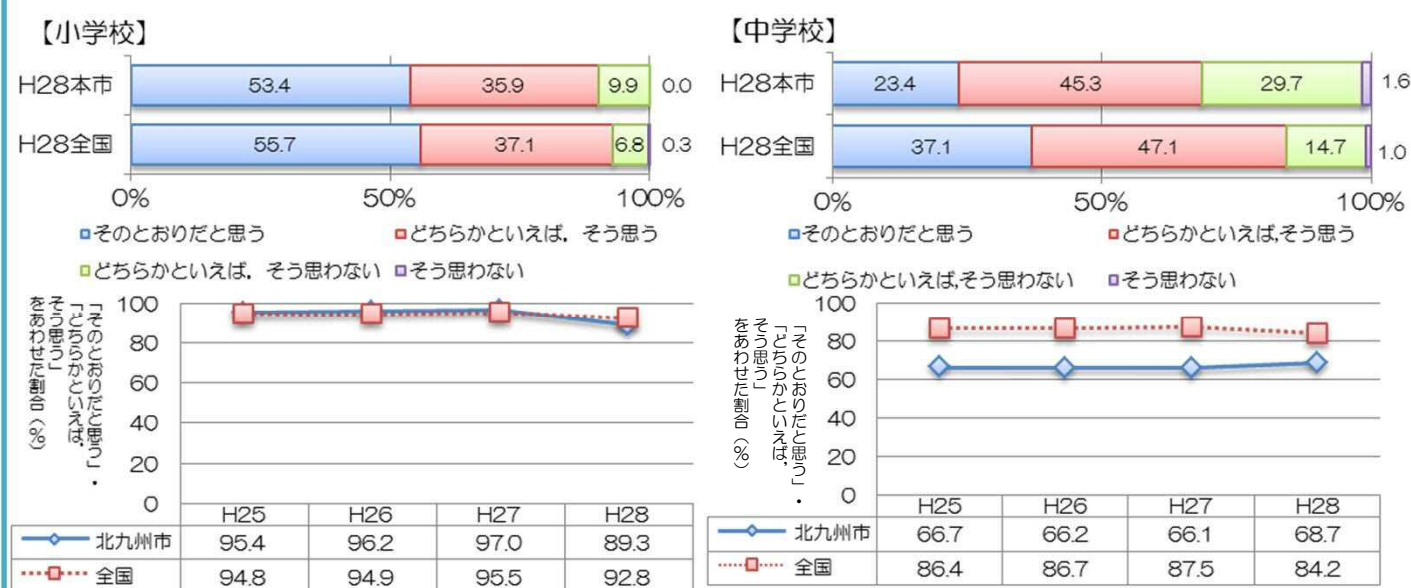
学校質問紙から、「学びの育ち」に関係の深いデータを示しています。（無回答、その他を除く。）

質問番号 小102・中100【学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか】



「学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか」について、肯定的な回答をした学校の割合は、小学校では全国平均を上回り、年々増加している。中学校では全国平均を下回り、昨年度より減少している。

質問番号 小104・中102【模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか】



「模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか」について、肯定的な回答をした学校の割合は、小学校、中学校ともに、全国平均を下回っているが、中学校では昨年度より増加している。

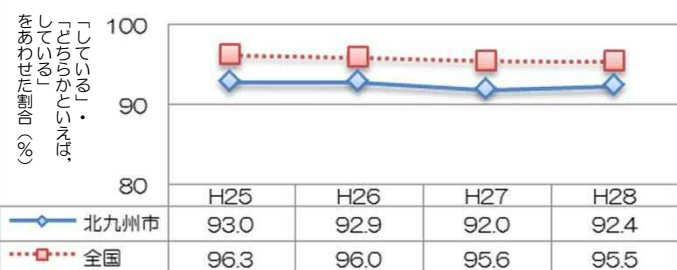
②心の育ち 【生活習慣について】

～児童生徒質問紙より～

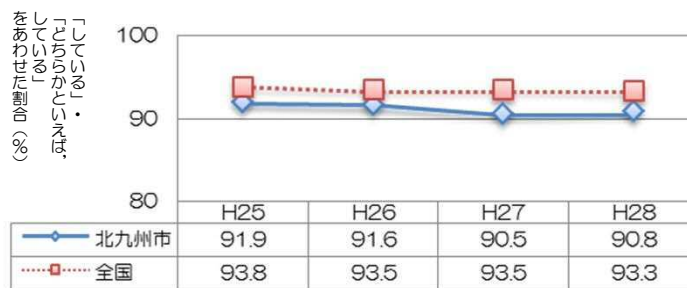
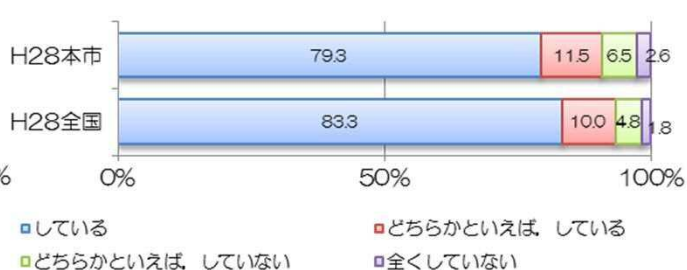
児童生徒質問紙から、「心の育ち」に関係の深いデータを示しています。（無回答、その他を除く。）

質問番号1 【朝食を毎日食べていますか】

【小学校】



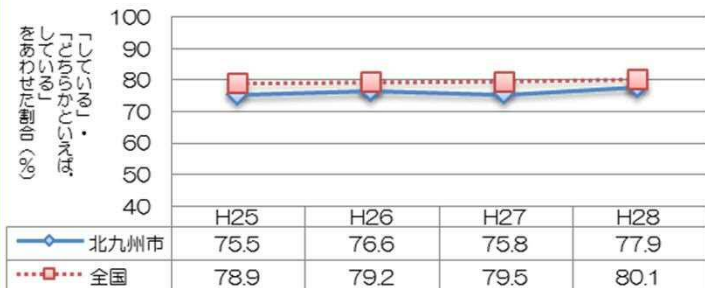
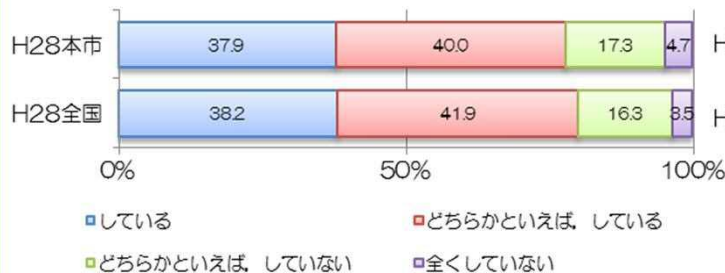
【中学校】



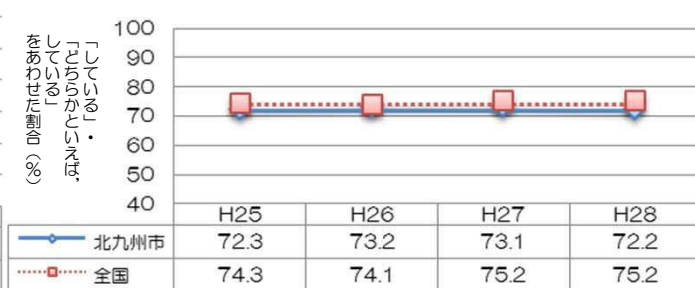
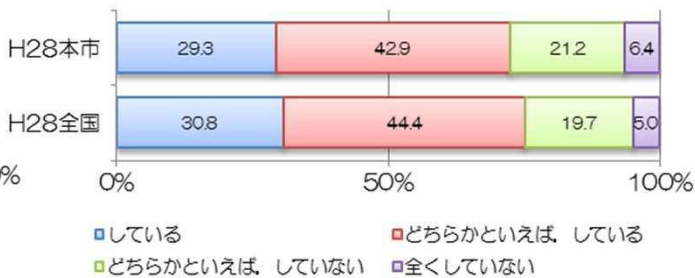
「朝食を毎日食べていますか」について、肯定的な回答をした割合は、小6中3ともに昨年度より増えているが、全国平均をやや下回っている。

質問番号2 【毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか】

【小学校】



【中学校】



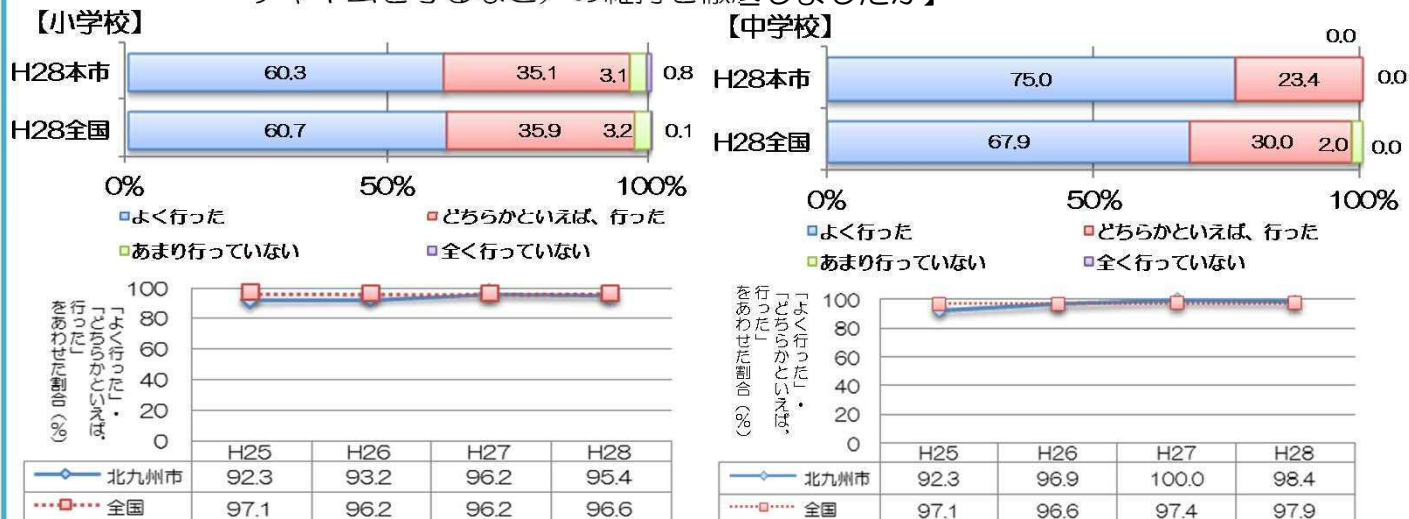
「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」について、肯定的な回答をした割合は、小6は、昨年度より増加している。小6中3とも全国平均をやや下回っている。

【学習規律について】

～学校質問紙より～

学校質問紙から、「心の育ち」に関係の深いデータを示しています。（無回答、その他を除く。）

質問番号51【調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底しましたか】



「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底しましたか」について、肯定的な回答をした学校の割合は、小学校では全国平均を下回っており、中学校では上回っている。

【学校のきまり・規則について】

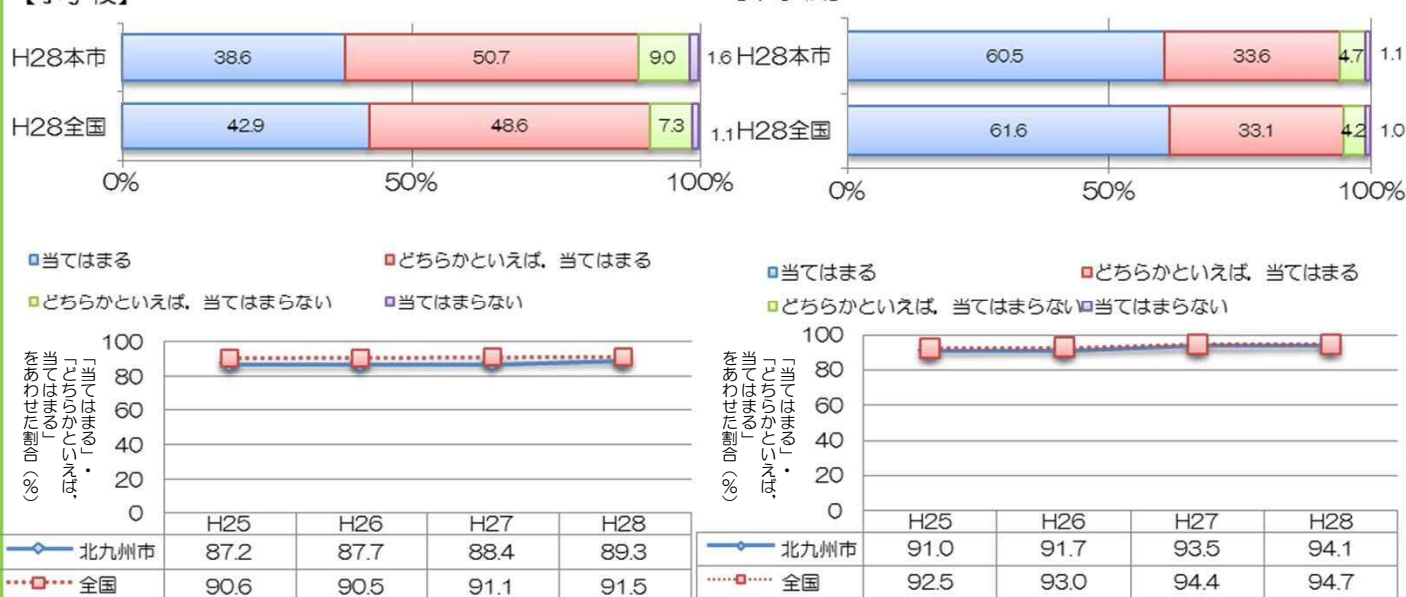
～児童生徒質問紙より～

児童生徒質問紙から、「心の育ち」に関係の深いデータを示しています。（無回答、その他を除く。）

質問番号39【学校のきまり・規則を守っていますか】

【小学校】

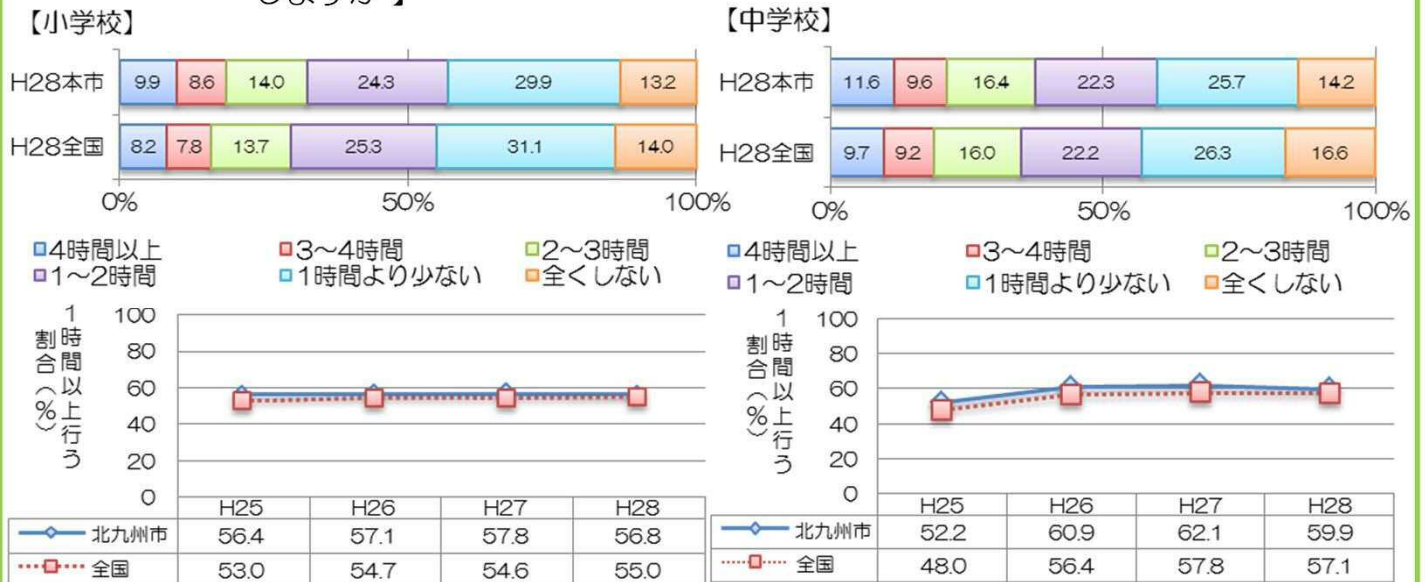
【中学校】



「学校のきまり・規則を守っていますか」について、肯定的な回答をした割合は、小6中3とも、ほぼ全国平均と同程度で、年々上昇している。

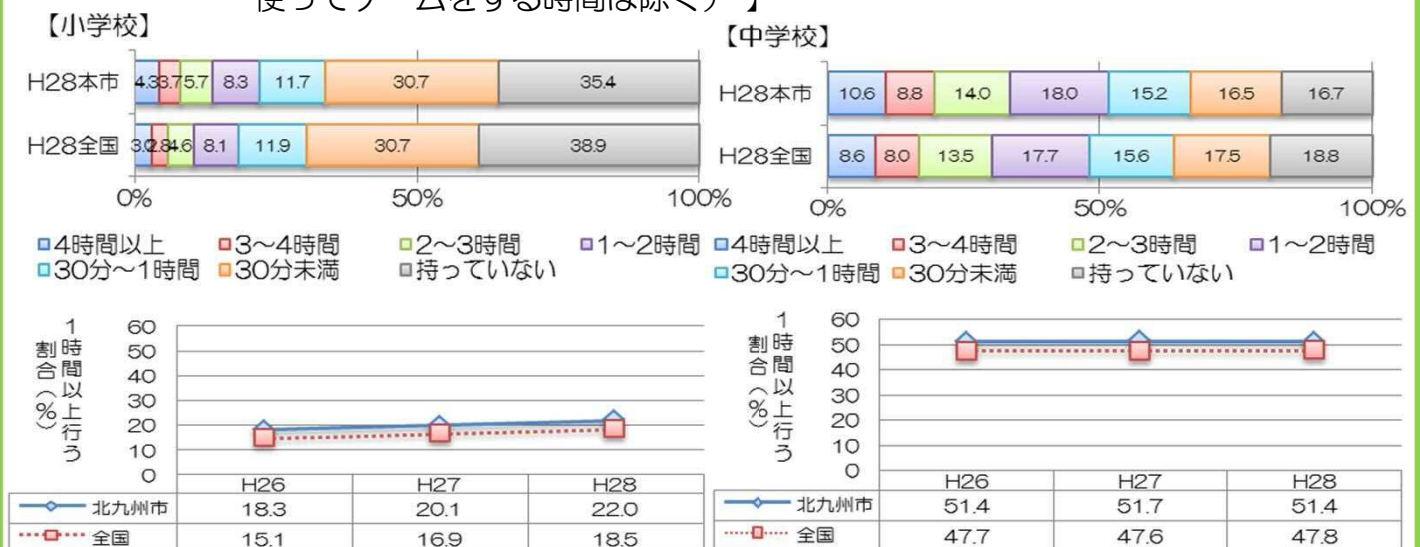
児童生徒質問紙から、「心の育ち」に関係の深いデータを示しています。（無回答，その他を除く。）

質問番号12【普段（月～金曜日），1日当たりどれくらいの時間，テレビゲーム(コンピュータゲーム，携帯式のゲーム，携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか】



「普段（月～金曜日），1日当たりどれくらいの時間，テレビゲーム（コンピュータゲーム，携帯式のゲーム，携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」について，「1時間以上行う」と回答した割合は，小6では全国平均と同程度だが，中3では全国平均を上回っている。

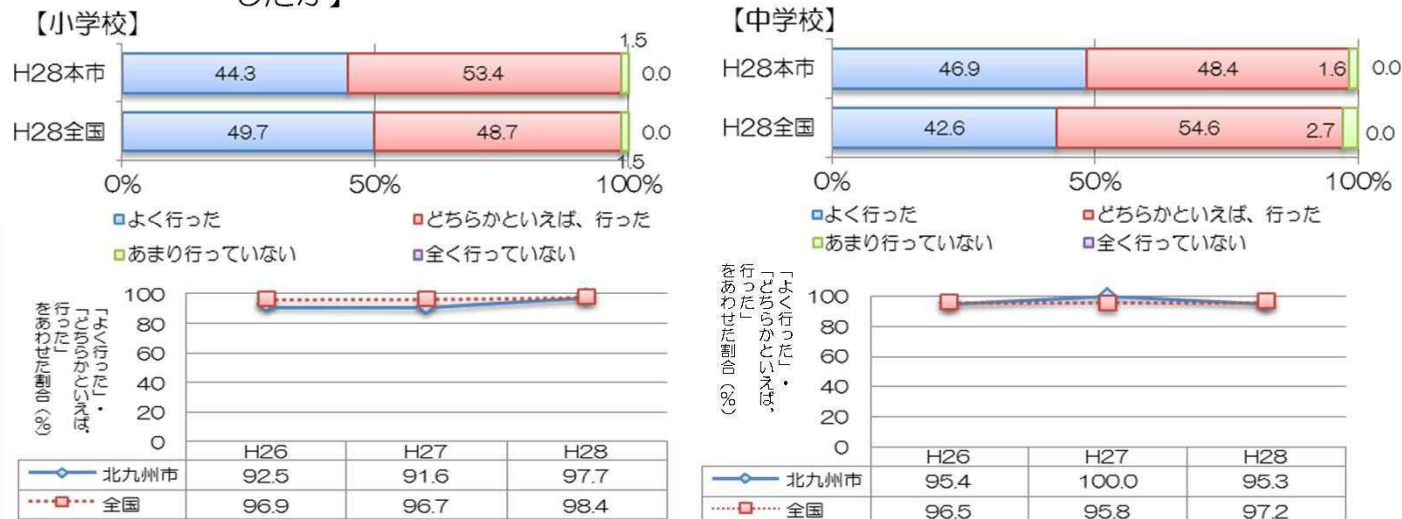
質問番号13【普段（月～金曜日），1日当たりどれくらいの時間，携帯電話やスマートフォンで通話やメール，インターネットをしますか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）】



「普段（月～金曜日），1日当たりどれくらいの時間，携帯電話やスマートフォンで通話やメール，インターネットをしますか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）」について「1時間以上行う」と回答した割合は，小6では22.0%，中3では51.4%となっており，ともに全国平均を上回っている。

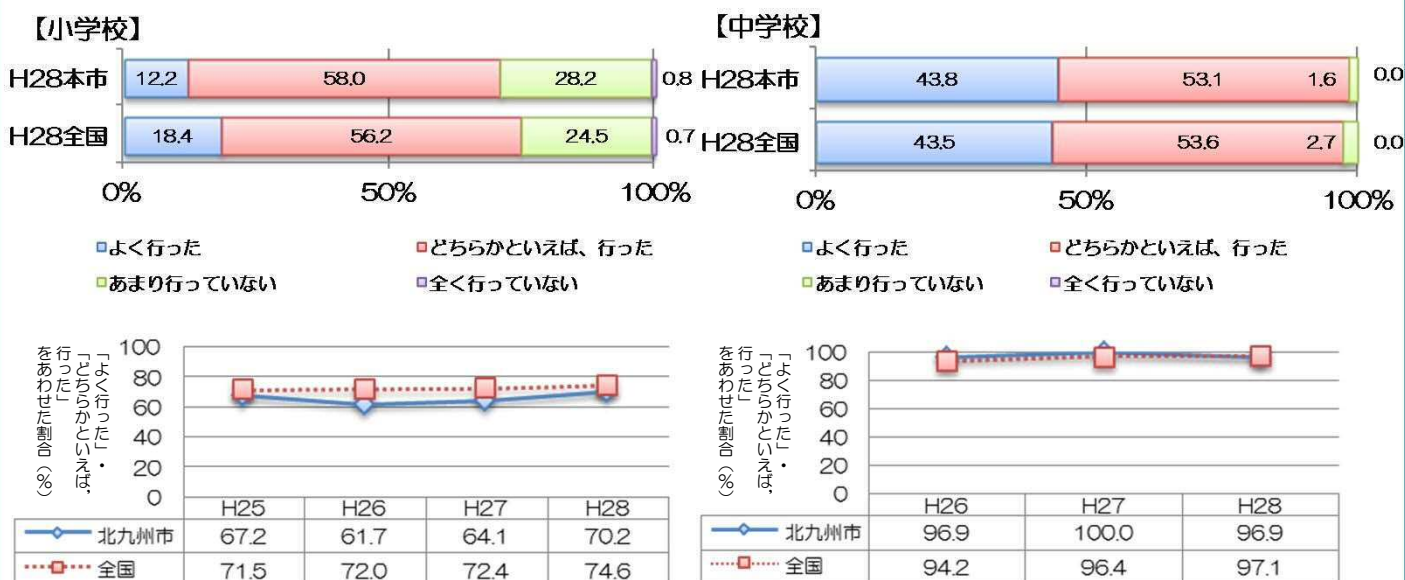
学校質問紙から、「心の育ち」に関係の深いデータを示しています。（無回答、その他を除く。）

質問番号53 【調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け、児童生徒に伝えるなど積極的に評価しましたか】



「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け、児童生徒に伝えるなど積極的に評価しましたか」について、肯定的な回答をした学校の割合は、小学校では全国平均を下回っているが、昨年度より増加している。中学校では「よく行った」と回答した割合は、全国平均を4.3ポイント上回った。

質問番号48 【調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか】



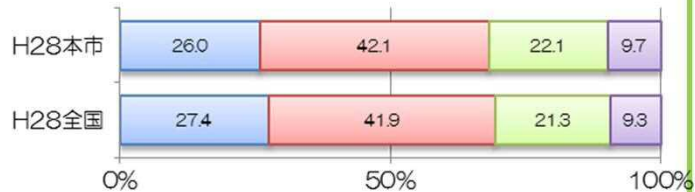
「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか」について、肯定的な回答をした学校の割合は、小学校では全国平均を下回っているが、昨年度より増加している。中学校では「よく行った」と回答した割合は、全国平均を上回った。

児童生徒質問紙から、「心の育ち」に関係の深いデータを示しています。（無回答，その他を除く。）

質問番号6【自分には、よいところがあると思いますか】

【小学校】

【中学校】

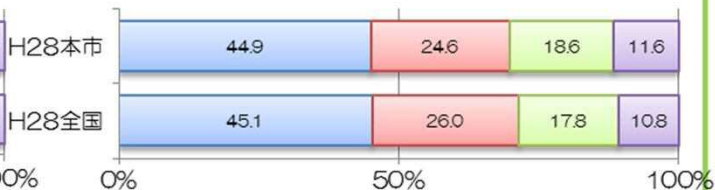
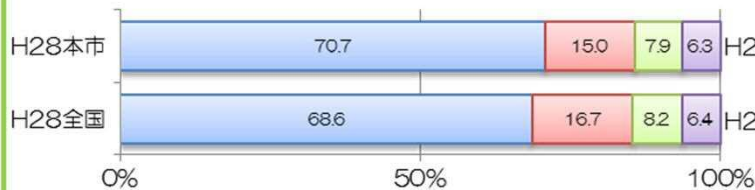


「自分には、よいところがあると思いますか」について、肯定的な回答をした割合は、小6中3とも増加しているが、全国平均をやや下回っている。

質問番号9【将来の夢や目標を持っていますか】

【小学校】

【中学校】



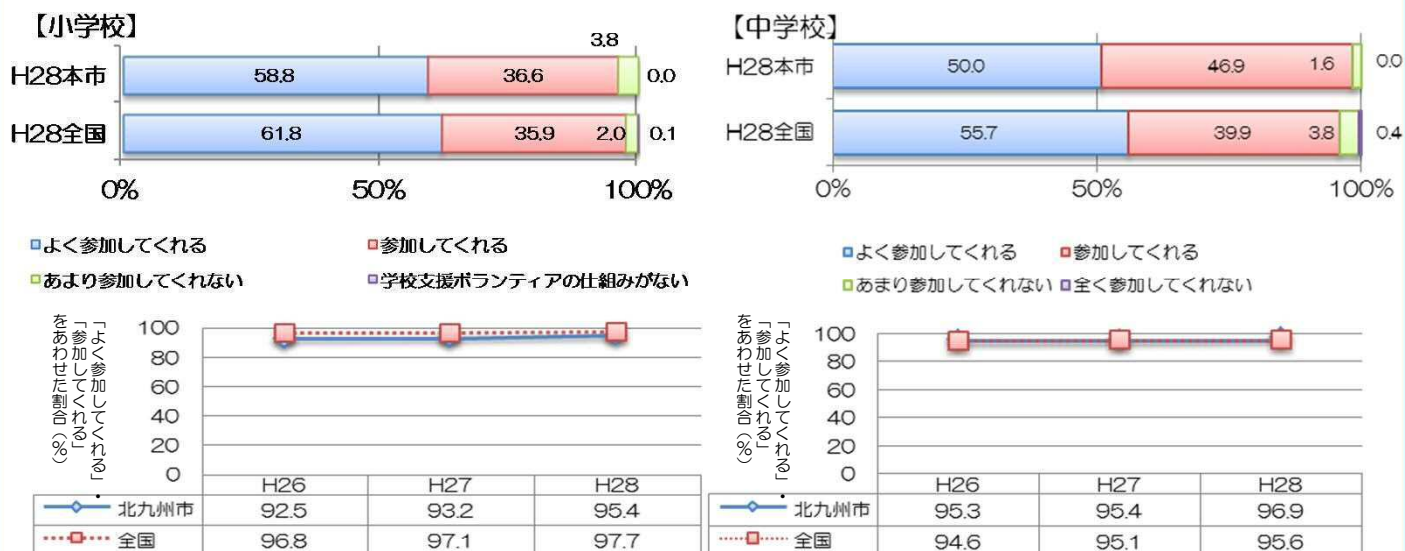
「将来の夢や目標を持っていますか」について、「当てはまる」と回答した割合は、小6では全国平均を上回っているが、中3ではほぼ同程度となっている。

【地域や社会への関心について】

～学校質問紙より～

学校質問紙から、「心の育ち」に関係の深いデータを示しています。（無回答、その他を除く。）

質問番号小89・中87【PTAや地域の人が学校の諸活動（学校の美化など）にボランティアとして参加してくれますか】



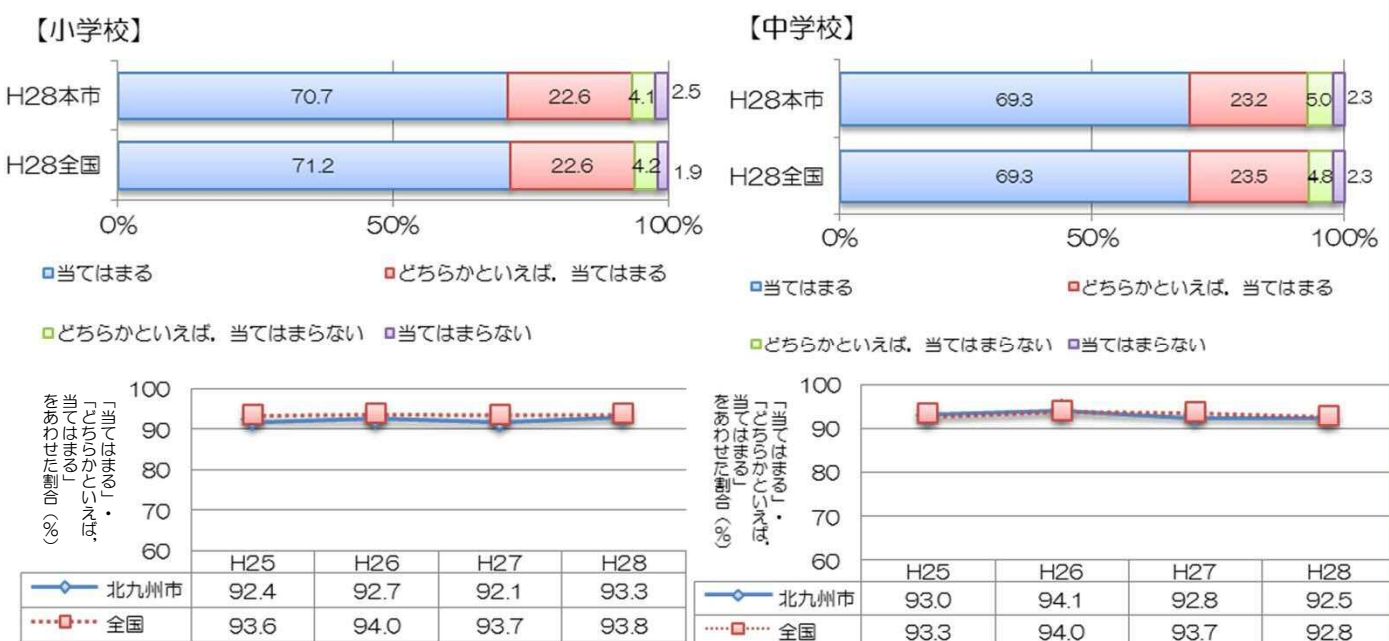
「PTAや地域の人が学校の諸活動（学校の美化など）にボランティアとして参加してくれますか」について、肯定的な回答をした学校の割合は、小学校、中学校ともに年々増加している。

【自己肯定感・将来の夢や目標について】

～児童生徒質問紙より～

児童生徒質問紙から、「心の育ち」に関係の深いデータを示しています。（無回答、その他を除く。）

質問番号43【人の役に立つ人間になりたいと思いますか】



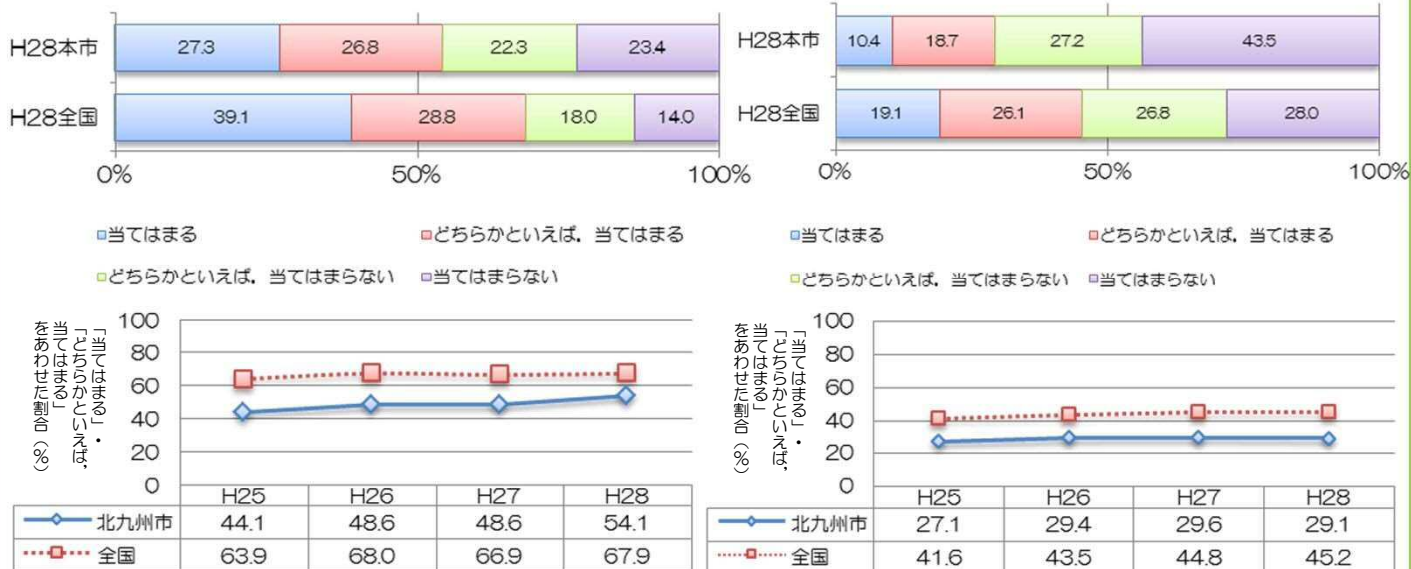
「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」について、肯定的な回答をした割合は、小6では93.3%、中3では92.5%と高く、ともに全国平均とほぼ同程度となっている。

児童生徒質問紙から、「心の育ち」に関係の深いデータを示しています。（無回答，その他を除く。）

質問番号34【今住んでいる地域の行事に参加していますか】

【小学校】

【中学校】

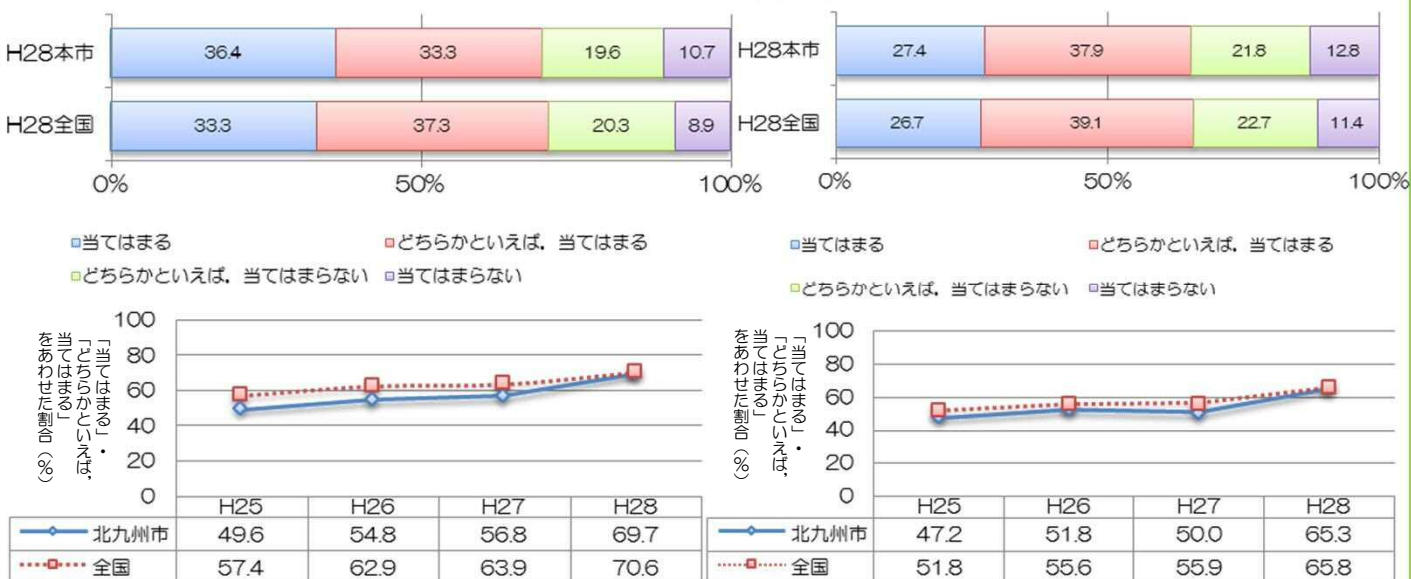


「今住んでいる地域の行事に参加していますか」について、肯定的な回答をした割合は、小6中3とも全国平均を下回るが、小6では昨年度より改善がみられる。

質問番号35【地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか】

【小学校】

【中学校】



「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」について、肯定的な回答をした割合は、小6中3とも全国平均と同程度となり、改善傾向にある。

（８）成果を上げた各学校の取組事例（同一集団による経年変化）

【平成28年度全国学調小6と平成26年度本市独自の学力調査小4との差】
 〈小学校〉 ※当該学年が10人以下の学校は除く

No.	学校名	28全国学調-26本市独自の学力調査	特記事項
1	A小学校	43.2	- 放課後、1・2年生は週に2日ずつチャレンジタイム（15:20～15:50）を実施。3～6年生は、放課後教室およびひまわり学習塾を週2～3日実施した。 - 生活向上意欲を高める特別活動（学級会や委員会活動）の充実を図った。
2	B小学校	31.1	- 国語の授業では、教務主任がT2としてサポートし、B問題に対応できる学習スタイルにした。 - 給食準備時間、昼休みには「寺小屋タイム」を設定し、担任外が補充学習を行った。 - 朝自習と宿題を同一問題を用いて、繰り返し学習した。
3	C小学校	25.5	- ひまわり学習塾を学力向上策の一つとして教員が積極的にかわり、基礎的・基本的な知識の習得に取り組んだ。 - 家庭学習マイスター賞に向けて、全校で取り組み、学習習慣の定着を図った。 - 北九州子どもつながりプログラムを全校で実施した。
4	D小学校	25.5	- 全校で、ユニバーサルデザインを意識した授業改善、校内研修、環境整備などに努めた。 - 放課後の特設時間では、100マス計算でA問題対応、ワークシート通信（読売新聞HP）でB問題対応の学習を実施した。 - 各教科でモデルノートの作成を企画している。
5	E小学校	23.5	- 朝自習で、漢字フラッシュカードや活用する力を高めるワーク、アシストシート等を徹底して取り組んだ。 - 全校で算数の授業において、習熟度別学習を実施し、個に応じた学習に取り組んだ。 - 表現力を高めるために、読書タイムで読書日記に取り組んだ。

※ 全国平均正答率との差を年度ごとに計算し、その値を28年度全国学調と平成26年度本市独自の学力調査と比較した数値

【平成28年度全学調中3と平成25年度全学調小6との差】 〈中学校〉

No.	学校名	28年度-25年度	特記事項
1	F中学校	21.3	- 放課後に、ひまわり学習塾（3年）、F中学校塾（1・2年）を実施し、基礎学力の定着に取り組んだ。 - 思考力・表現力等を育成するために、定期考査等で記述式の問題を設定した。
2	G中学校	20.1	- 教育センターの委嘱研究を受けて、授業改善に取り組んだ。特に、ユニット型の校内研修に取り組んだ。 - 朝自習の時間に強化週間を設定し、確認テストを実施することで基礎学力の定着に取り組んだ。
3	H中学校	13.4	- 宿題においては、全校で5教科授業の復習として毎日計画的に取り組ませ、基礎学力の定着を図った。 - 数学の授業においては、B問題に対応するため、活用問題に取り組んだ。 - 各種の研修に参加した教員は、レポートを作成し、全教員に配布した。
4	I中学校	10.7	- 基礎学力の定着が不十分な生徒に対して、放課後や昼休みを利用して補充学習に取り組んだ。 - 習熟度別学習（数学・英語）や少人数指導（国語・社会）を実施し、個に応じた学習を展開した。
5	J中学校	8.4	- 全校でJ中学校ノート（自主学習ノート）に取り組み、家庭学習の習慣が身に付くように指導した。 「めあて」「まとめ」カードを活用した授業や、アクティブ・ラーニングの視点を意識した授業に取り組む等、授業改善に向けて校内研修の充実を図った。

※ 平成28年度の中学校の平均正答率と平成25年度の中学校区内の小学校の平均正答率とを、4つの教科・区分ごとの差を合計した調査結果を比較した数値。

成果を上げた小学校の取組事例

同一集団での経年比較による上昇傾向にある学校の例（A小学校）

（平成26年度本市独自の学力調査 4年生1月実施）

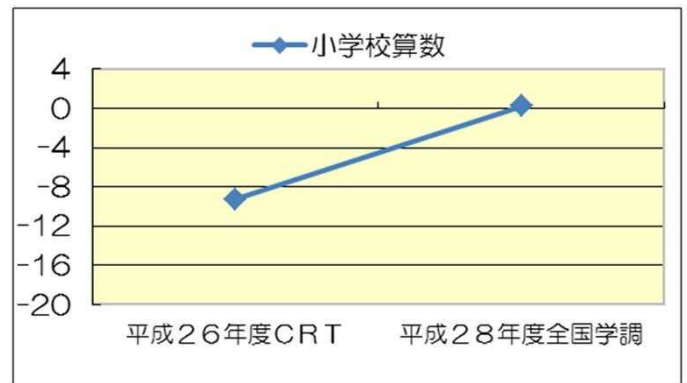
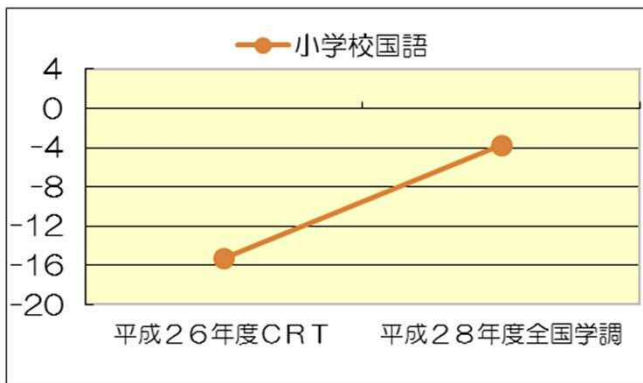
国語：全校平均を大きく
下回る（マイナス15P）

（平成28年度全国学調 6年生4月実施）

大きく上昇（11P上昇）

算数：全国平均を大きく
下回る（マイナス9P）

算数は全国平均を上回る（9P上昇）

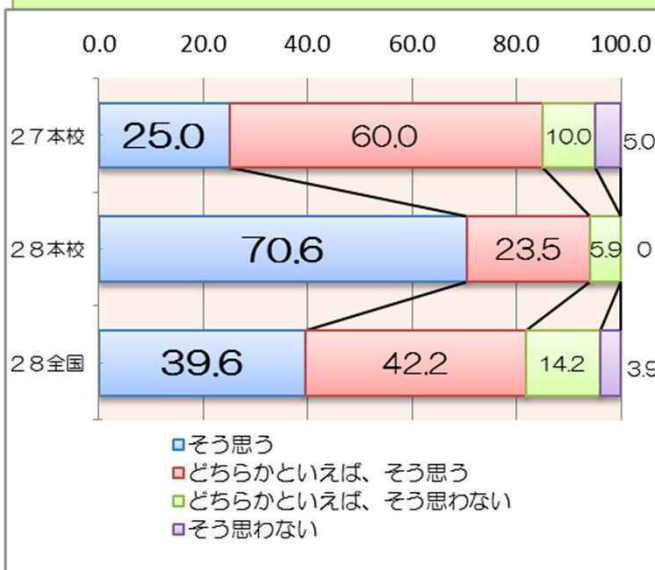


次のような学力向上に向けた取組を進めており、その成果が着実に表れていると考える。

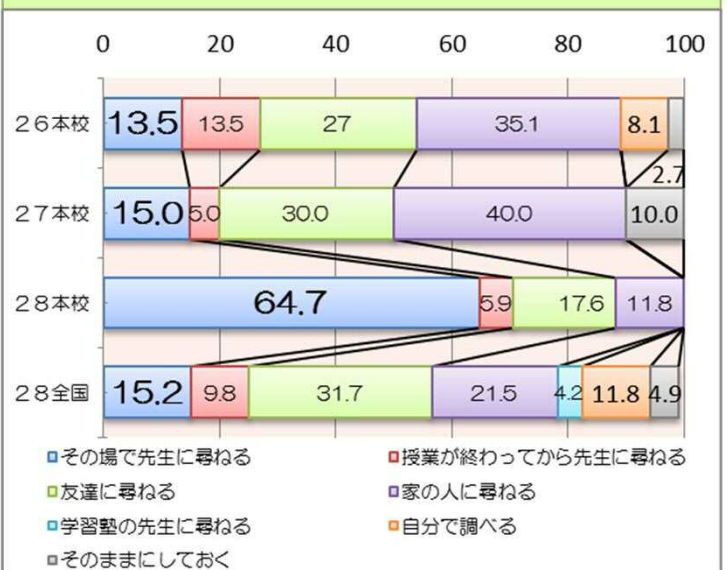
<具体的な取組>

- 日常的な授業公開から分かる授業づくりへの積極的な取組
- 放課後補充学習を全学年で実施
（1～2年生：チャレンジタイム 3～6年生：放課後教室・ひまわり学習塾）
- 自己表現の場の設定として学級会活動の充実

学級会などの時間に友達同士で話し合って
学級のきまりなどを決める **大幅に上昇**



児童の「分かるようになりたい」といった意欲
に答える授業づくり **全国を大きく超える**



成果を上げた中学校の取組事例

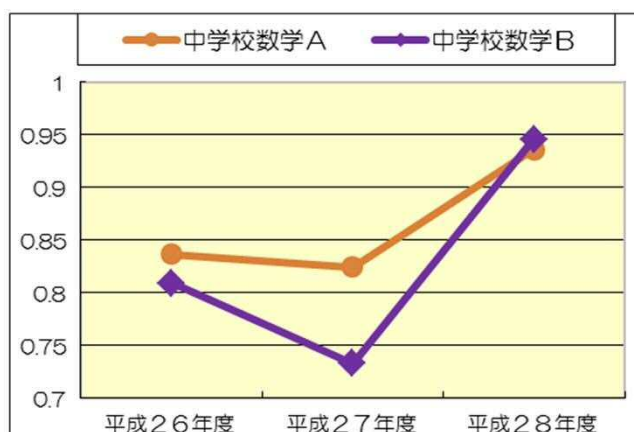
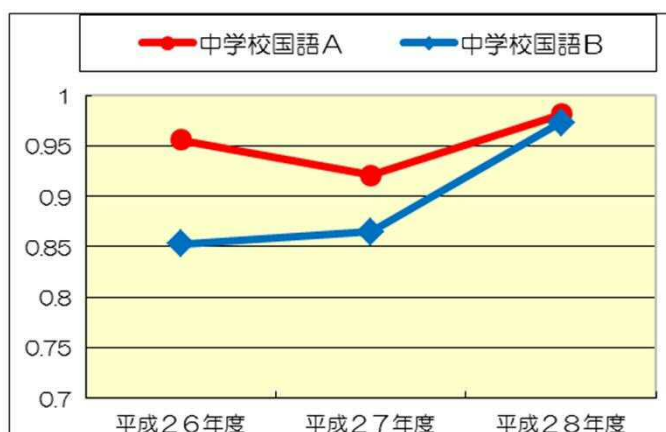
年度毎の各学年の経年比較による上昇傾向にある学校の例（K中学校）

（平成26年 4月実施）
国語B：全国平均を大きく下回る
（マイナス7.5P）

数学A・B：全国平均を大きく下回る
（マイナス22.4P）

（平成28年 4月実施）
国語Bは全国平均とほぼ同じ
（マイナス1.4P 98.1%）

数学A・Bとも上昇し全国平均に迫る
（合計で16Pの上昇）

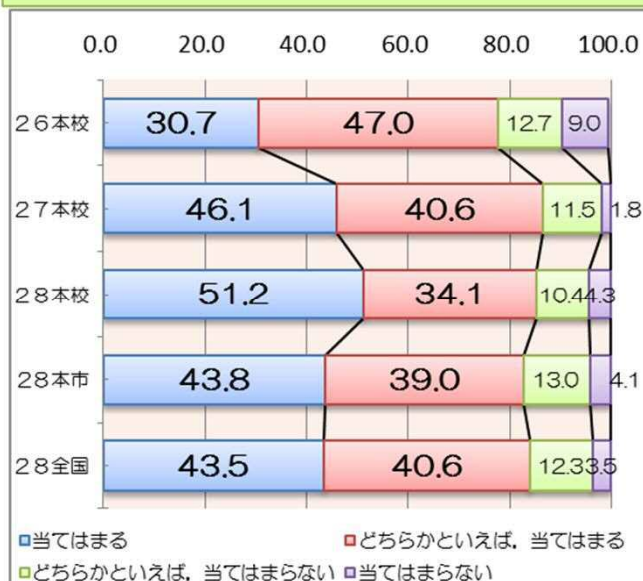


次のような学力向上に向けた授業改善が進んでおり、その成果が着実に表れていると考える。

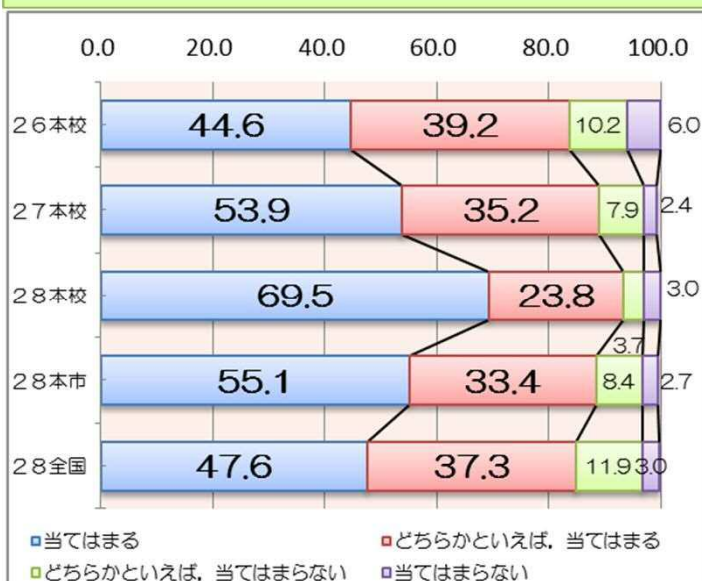
<具体的な取組>

- 「めあて」や「まとめ」を明確にした授業に取り組んだ。
- 授業での意見を述べる場、集団づくりを意識した教育活動を設定した。
- 放課後の補充学習などに積極的に取り組み、基礎学力の定着を図った。

授業では自分の考えを発表する機会が増加している。「当てはまる」 51.2%



授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されていたと答えた生徒急増 69.5%



【学力向上アクションプランの成果と今後の方向性】



北九州市環境マスコットキャラクター ていたん&ブラックていたん
©ていたん&ブラックていたん, 北九州市

(1) 学力向上アクションプラン（概要）

北九州市学力・体力向上アクションプランの概要（学力向上）

【目標】加速度的に変化していくこれからの社会において、子どもたちが社会的・職業的に自立して生きていくために必要な力を身に付けさせていくことが必要です。「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」の実現を目指して、以下の3つの柱を実施し、教員の指導力向上や家庭での生活習慣・家庭学習習慣の充実などを図り、子どもたち一人一人の学力向上につなげていきます。



【今後3年間で取り組む、学校・家庭・地域での具体的取組】

【柱1】全校体制でのPDCAサイクルの確立

- PDCAサイクルに基づく学校の組織的な取組の推進
 - ・各学校における全校体制の確立
 - ・学力調査等の実施と児童生徒への指導の充実
 - ・調査結果等に基づく「スクールプラン」の策定・実施・検証・改善
- 〈教育委員会の支援〉
 - ・学力向上学校訪問の充実
 - ・学力向上講習会の充実
 - ・教育センター研修の充実
 - ・「北九州市学力向上だより」による情報提供
 - ・シンポジウム・懇談会等の開催
- 学力・体力向上策をつなぐ教育委員会の体制の確立

【柱2】指導力向上のための日々の継続的な取組

- よい授業イメージの共有と授業を「行う・見る・語り合う・振り返る」活動の日々継続的な実践
 - ・全員研修会及び学校大好きオンリーワン校の公開授業の活用
 - ・動画を活用したWebによる研修の活用
 - ・『わかる授業』づくり5つのポイントのリーフレット及び点検シートの活用
 - ・「教師のしおり」の活用
 - ・総合的な学習の時間、特別活動、道徳教育の充実やアクティブ・ラーニング等を推進するための資料等の活用
 - ・授業力向上ステップアップ事業の実施
(学力向上推進教員の配置・派遣、評価問題の改善・充実、校内研修の改善・充実)
 - ・教育研究論文の部門等の見直し
 - ・授業づくり共同研究の見直し
- 教育活動の一層の充実のための取組の推進
 - ・学校図書館教育の充実
 - ・ICTの活用と英語教育の充実

【柱3】学力定着に向けた協働的な取組

- 児童生徒一人一人へのきめ細かな教育の確立
 - ・学力定着のための学校独自の取組の組織的实施
 - ・学校との連携等による子どもひまわり学習塾の充実
 - ・指導方法工夫改善加配教員等の効果的活用のための工夫
- 学力向上につながる家庭・地域との連携
 - ・家庭学習の指導の充実
 - ・乳幼児期からの望ましい生活習慣づくりなど学びの基盤づくりの取組
- 確かな学力を育む校種間の連携
 - ・小中連携の充実
 - ・保幼小連携の充実

(2) 授業力向上

<「わかる授業」づくり5つのポイント>



- 1 「学び合いの基盤」
- 2 板書には、必ず「めあて」、「まとめ」と「振り返り」
- 3 子どもの思考を深める「発問」の工夫
- 4 1単位時間の中に「話し合う活動」と「書く活動」
- 5 「まとめ」と「振り返り」終わりの5分の確保



- ◆ 学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか
 <小学校> よく行った 本市【29.8%】 全国【53.6%】
 <中学校> よく行った 本市【9.4%】 全国【39.3%】
- ◆ 様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか
 <小学校> よく行った 本市【19.1%】 全国【33.5%】
 <中学校> よく行った 本市【14.1%】 全国【26.2%】
- ◆ 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか
 <小学校> よく行った 本市【45.8%】 全国【50.1%】
 <中学校> よく行った 本市【39.1%】 全国【40.0%】

「分かる授業」を目指して、日々、授業改善に取り組みましょう！



<学力向上推進教員>

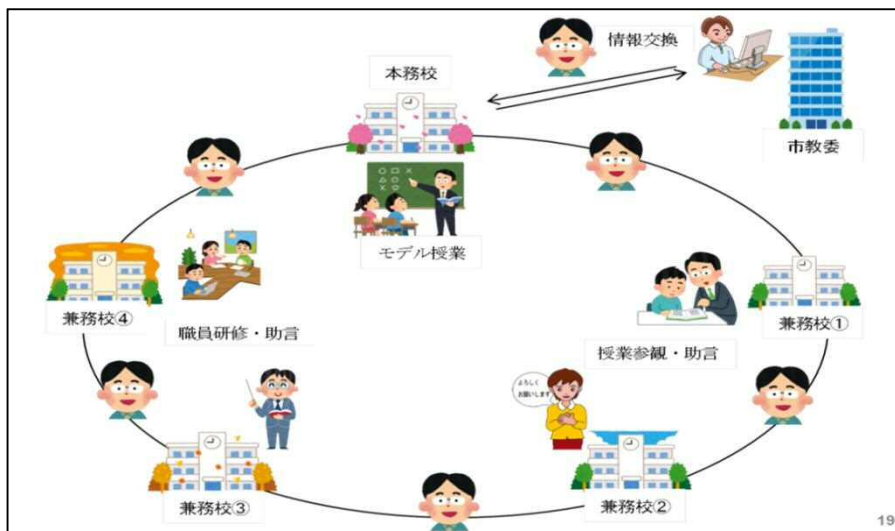
1. 学力向上推進教員とは

小・中学校に勤務している主幹教諭・指導教諭・教諭であり、教科指導に関する専門的な知識豊かな経験を有し、優れた教育活動を行っている教員である。学力向上推進教は、北九州市教育委員会が認定した教員である。

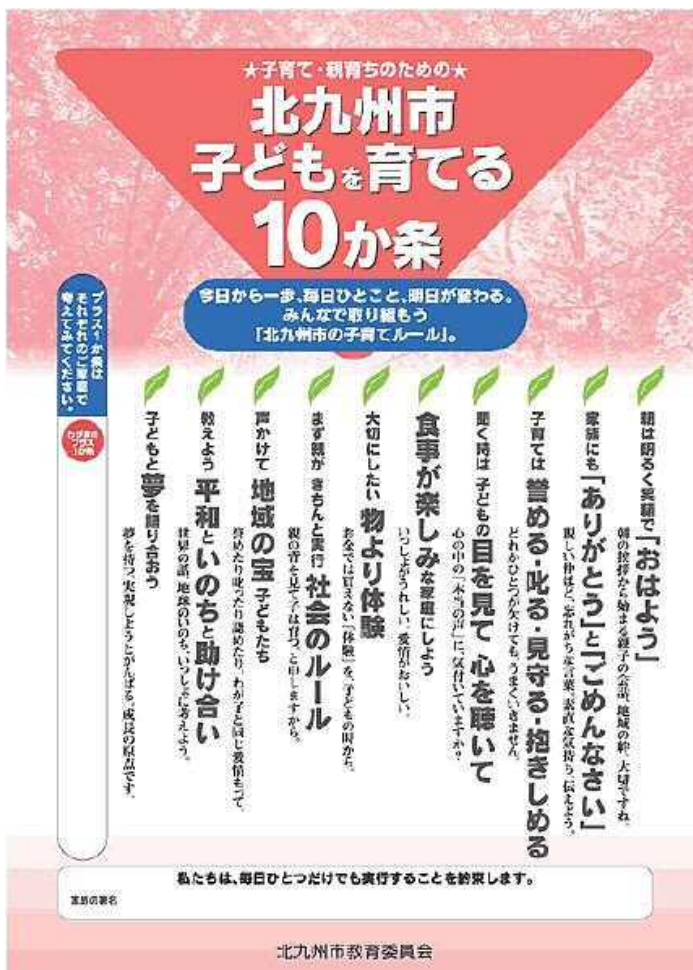
学力向上推進教員は、授業力の高い教員を育成するために「授業に直接入り込み、授業を参観したり、自ら授業をしたり、一緒に授業をつくったりする。」といった活動を複数校の学校で行う。

2. 対象校 小学校 90校 中学校 20校

- ① 学力向上推進リーダー（小学校7名・中学校2名）
- ② 学力向上推進教員（小学校18人・中学校4人）
※1人5校を担当



(3) 家庭・地域との連携



<「家庭学習」の5つのポイント>

- ①学校全体で共通理解を図り、ねらいを明確にした宿題を必ず課す。
 - ・宿題の質や量、指導や点検方法等についての共通理解
 - ・家庭学習の時間の目安は、小学校は学年×10分程度、中学校は毎日1時間以上で自分の学習計画に応じた時間を設定
- ②調べたり、文章を書いたり宿題を課す機会を多くする。
 - ・学習とのつながりを意識した内容を課題として設定
- ③家庭学習の方法について具体例を挙げながら教える。
 - ・家庭学習の意義、計画の立て方、教科等毎の取組方、テスト前の勉強方法等について指導
- ④家庭学習は必ず点検・評価する。
 - ・家庭学習チャレンジハンドブックの「家庭学習約束宣言シート」や「わたしの読書記録」等も活用した点検
 - ・子どもの頑張りの評価、優れたノートなどの良い取組の普及・顕彰
- ⑤家庭との連携を図る。
 - ・保護者会や懇談会等の機会での、家庭学習の意義等の発信や、子どもの家庭学習の取組状況・保護者の関わり方等について保護者との意見交換

(4) 子どもひまわり学習塾



北九州市教育委員会では、市立小中学校で放課後等の時間帯に、子どもたちの自主学習支援に携わってくださる学習指導員を募集しています。

■活動内容／小学校3～6年生：国語・算数

中学校3年生：英語・数学

児童生徒の自主学習の支援（教材準備、質問対応等）

■活動時間／原則週2回，1回2時間程度（概ね15:30～17:30）

※曜日は学校により異なります。

■活動期間／小学校 平成28年6月～平成29年3月まで

中学校 平成28年7月～平成29年3月まで

■報償費／小学校1時間当たり 1,100円

中学校1時間当たり 1,300円

■応募条件等／資格・免許・年齢は問いません。（教員免許不要）

北九州市教育委員会において登録を行います。

(5) 学力向上アクションプランの成果と今後の方向性

【柱1 全校体制でのPDCAサイクルの確立】

各学校の課題解決のため、学校訪問等を通して指導・助言や支援を行うことで、学力向上の取組が着実に進んだ。

全国学力・学習状況調査とともに、本市独自の北九州市学力状況調査に取組み、児童生徒の学力と学習状況を経年で把握・分析することで、一人一人に応じたきめ細かな指導を行うといったPDCAサイクルの確立が進んだ。

○ PDCAサイクルの確立

- ・ 児童生徒の学力や学習状況の情報をより詳細に把握するために、本市独自の北九州市学力状況調査については、学年を広げたり、教科を増やしたりする等について検討する。
- ・ スクールプランと学校評価、管理職及び教員の自己評価の相互の関連付けを進める。

○ マネジメント力の向上のための機会の充実

- ・ 管理職やミドルリーダー等のマネジメント力の育成について、取組の充実を図る。

【柱2 指導力向上のための日々の継続的な取組】

授業力向上ステップアップ校へ配置された学力向上推進教員による「『わかる授業づくり』5つのポイント」を踏まえた助言・支援や、思考力問題を一層取り入れるための単元末テストや定期考査の改善により、授業改善が進んだ。

また、新規採用教員に「教師のしおり」を配付する等により、資質・能力の向上を図った。

○ 指導力向上の仕組みづくりへの支援

- ・ アクティブ・ラーニング型の授業への移行を進めるための推進校を指定する。
- ・ 学力向上推進教員の増員について検討する。
- ・ 日々の授業改善に結び付くような研修的な内容となるよう校内研究の改善を進める。
- ・ 単元末テストや定期考査については、内容の改善と一層の充実を図る。

【柱3 学力定着に向けた協働的な取組】

子どもひまわり学習塾により、家庭学習の習慣は改善が進んだが、学力の定着は依然として課題が見られる。また、携帯電話やスマートフォンの使用時間、メディアとの接触時間も依然として課題となっている。

○ 学力定着に関係する学校の環境整備

- ・ 補充学習の充実が図られるように、学習教材の提供・補充学習における学校体制づくりのための支援等を行う。
- ・ 子どもひまわり学習塾の実施校の拡充を検討する。

○ 望ましい生活習慣づくりなど学びの基盤づくりの取組

- ・ 「早寝・早起き・朝ごはん運動」、「ケータイ・スマホ夜10時電源OFF」、「読書で広がる子どもの未来づくり事業」、「はじめての絵本事業」の取組を一層進める。
- ・ 学力向上につながる家庭学習等については、保護者が学ぶ機会を増やすために、教育委員会による出前講演「学力アップは家庭から」等、学力向上や家庭学習（生活習慣の改善）に特化した懇談会・座談会を開催しPTAとの連携を進める。

2. 平成28年度 全国体力・運動能力

運動習慣等調査結果

(1) 全体概要（速報値）

結果の概要

小学校

- 体力合計点において、男女共に、昨年度の本市平均を大きく上回った。
- 経年比較した時、昨年度の数値を上回った種目数（8種目中）
男子：6種目 女子：7種目
- 体力合計点において、男子は昨年度の全国平均をやや上回り、女子はやや下回った。
- 昨年度の全国平均を上回った種目数（8種目中）
男子：4種目 女子：5種目

中学校

- 体力合計点において、男女共に、昨年度の本市平均を大きく上回った。
- 経年比較した時、昨年度の数値を上回った種目数（9種目中）
男子：全種目 女子：全種目
- 体力合計点において、男子・女子共に昨年度の全国平均を上回った。
- 昨年度の全国平均を上回った種目数（9種目中）
男子：全種目 女子：7種

本年度結果

実技に関する調査の結果

【調査種目】小学校8種目 中学校9種目（20mシャトルランと持久走のどちらかを選択）
体力合計点：各種目の記録を10点満点で得点化し、合計したもの

※ は、昨年度全国平均値と同等以上の項目。本市比較で前年度より向上したものは↑で示す。

測定項目	単位	小学校5年 男子				小学校5年 女子			
		H27 全国	H27 本市	H28 全国	H28 本市	H27 全国	H27 本市	H28 全国	H28 本市
①握力	kg	16.45	16.05		↑ 16.97	16.05	15.70		↑ 16.86
②上体起こし	回	19.58	18.61		↑ 20.01	18.42	17.37		↑ 18.68
③長座体前屈	cm	33.05	32.41		32.19	37.44	36.87		36.33
④反復横とび	点	41.60	38.64		↑ 41.31	39.55	36.27		↑ 39.28
⑤20mシャトルラン	回	51.64	46.70		↑ 51.17	40.69	35.50		↑ 40.74
⑥50m走	秒	9.38	9.44		9.44	9.62	9.72		↑ 9.64
⑦立ち幅とび	cm	151.24	147.82		↑ 151.92	144.77	141.40		↑ 146.14
⑧ソフトボール投げ	m	22.52	23.62		↑ 23.88	13.77	13.42		↑ 14.52
体力合計点	点	53.80	51.71		↑ 53.85	55.18	52.40		↑ 54.87

※ 本速報値は、市独自の集計であり、国の集計値と変わることもある。

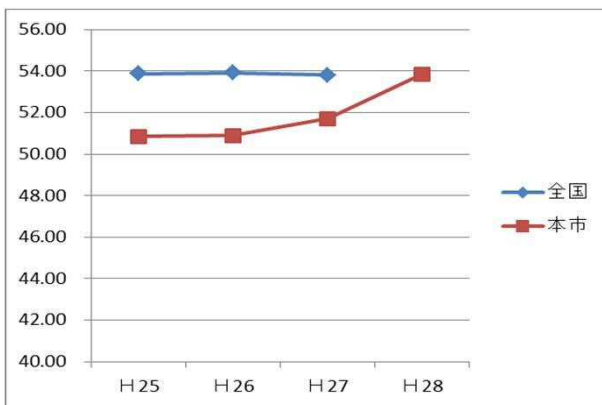
本年度結果

測定種目	単位	中学校2年 男子				中学校2年 女子			
		H27 全国	H27 本市	H28 全国	H28 本市	H27 全国	H27 本市	H28 全国	H28 本市
①握力	kg	28.93	29.06		↑ 30.01	23.68	23.62		↑ 24.36
②上体起こし	回	27.43	26.99		↑ 28.13	23.26	22.52		↑ 23.50
③長座体前屈	cm	43.08	44.17		↑ 44.73	45.53	46.29		↑ 47.06
④反復横とび	点	51.62	50.78		↑ 52.57	46.09	44.94		↑ 46.80
⑤持久走	秒	392.63	391.42		↑ 376.60	290.03	291.71		↑ 280.05
⑥20mシャトルラン	回	85.56	84.62		↑ 86.15	58.06	54.60		↑ 57.65
⑦50m走	秒	8.01	7.99		↑ 7.90	8.84	8.88		↑ 8.81
⑧立ち幅とび	cm	194.05	193.47		↑ 197.29	167.28	166.10		↑ 169.50
⑨ソフトボール投げ	m	20.65	20.15		↑ 21.03	12.83	12.04		↑ 12.77
体力合計点	点	41.89	41.78		↑ 44.47	49.08	47.70		↑ 49.77

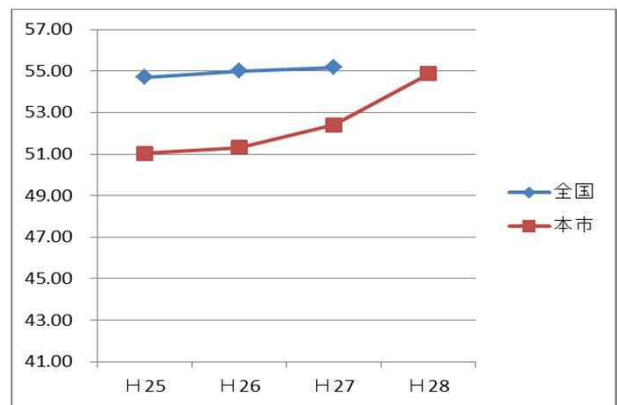
※ 本速報値は、市独自の集計であり、国の集計値と変わることもある。

体力合計点の経年変化

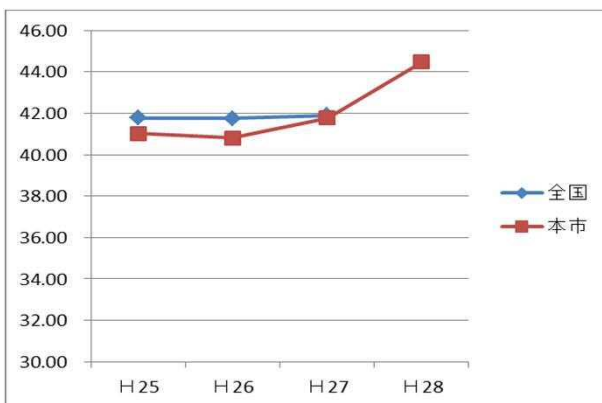
【小学校男子】



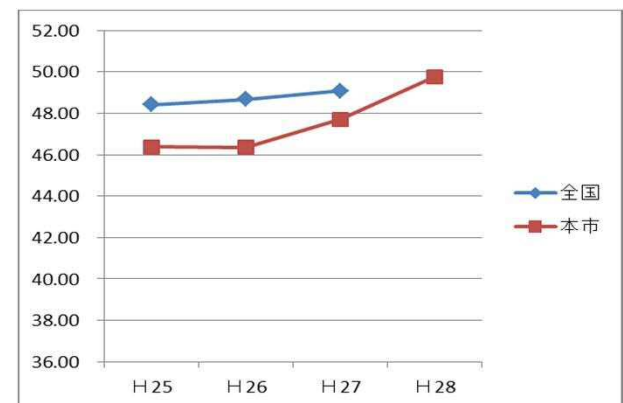
【小学校女子】



【中学校男子】



【中学校女子】



（２）本年度の体力向上の取組について

【本年度の体力向上の取組】

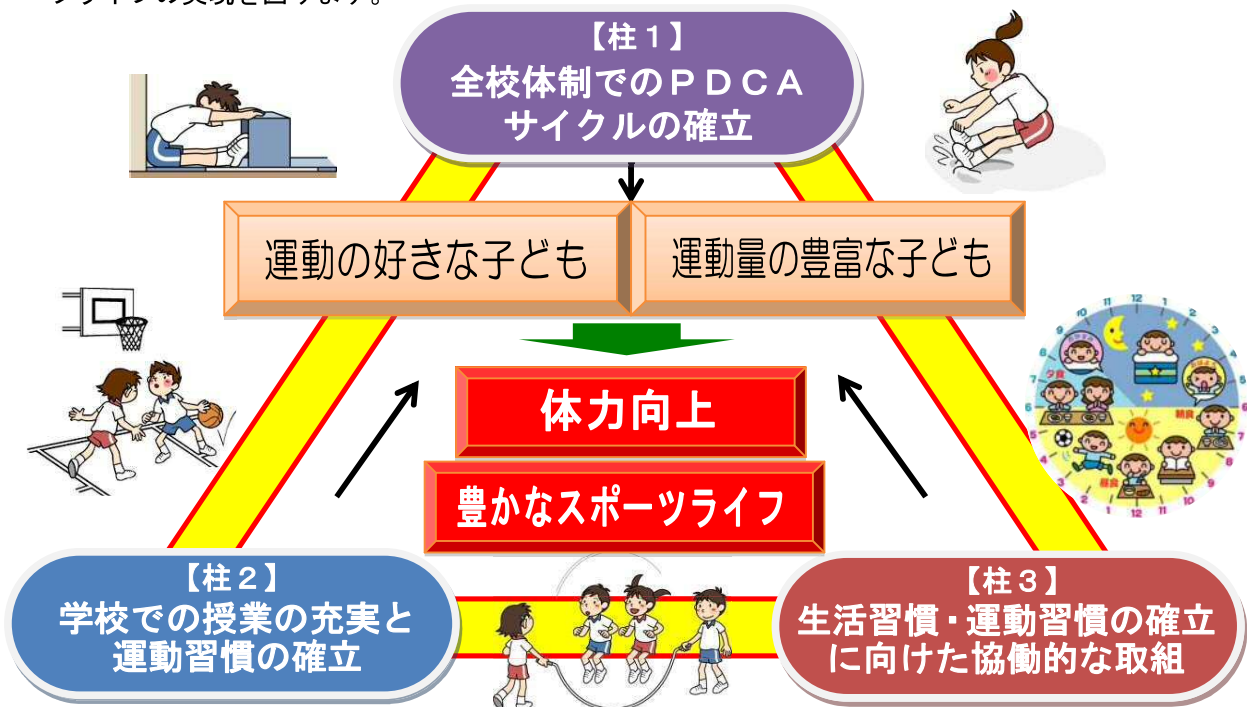
- ◇ 北九州市学力・体力向上アクションプランでは、運動の楽しさを味わい、日常的に運動に親しむことができるよう、「授業力の向上」と「運動習慣の定着」を柱としている。具体的には、教育委員会が大学教授や学校現場とともに開発した「北九州市体力向上プログラム」を活用し、各学校で体力の向上に取り組んでいる。

【北九州市体力向上プログラム】

- ◇ 体力向上プログラムは「準備運動編」「１校１取組編」「授業編」で構成
 - （１）「準備運動編」では、「ジャンプアップ運動」や「ボディバランス運動」など、短い時間で簡単に行うことができる運動を紹介しており、各学校ではそれらを体育の準備運動として実践。
 - （２）「１校１取組編」では、自校の児童生徒の体力の実態に応じて、年間を通して継続的に行うことができる運動を紹介しており、各学校では、「年間を通してなわとびで体力アップ」「ダンスで体力アップ」「スポコン広場で体力アップ」等に取り組んでいる。
 - （３）「授業編」は現在作成中であり、子ども達が楽しく取り組み、運動量も確保できるような、授業づくりに役立つアイデアを掲載していく予定。
- ◇ 教員の研修
 - （１）新体力テストの測定や体力向上プログラムの活用について、全小・中学校合同での「体力向上実技講習会」を実施。
 - （２）教員の自主的な研修会で、スポーツ庁教科調査官を招き、体力向上のための研修の充実を図った。
- ◇ 各学校の取組としては
 - （１）各学校でも、教員とともに教育委員会が作成したＤＶＤを活用して、準備運動や新体力テストについての校内研修を行った。
 - （２）新体力テストの各学年の目標値を掲示したり、自分の体力の伸びを実感できる個人カードを作成したりするなどの工夫がみられ、児童生徒が意欲的に取り組む姿が見られた。

北九州市学力・体力向上アクションプランの概要（体力向上）

【目標】 健やかな体の育成のためには、体育・保健体育科の授業等を通じて、幼児期や学齢期に運動やスポーツに親しむ資質や能力の基礎を養い、病気から身を守る体力を強化し、より健康な状態をつくっていくことが大切です。体力は活動の源であり、健康の維持のほか、意欲や気力の充実に大きく関わっており、人間の発達・成長を支える基本的な要素です。「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」の実現を目指して、以下の3つの柱に沿った取組を実施し、「運動の好きな子ども」「運動量の豊富な子ども」を育て、その結果として、体力の向上と豊かなスポーツライフの実現を図ります。



【今後3年間で取り組む、学校、家庭・地域での具体的取組】

【柱1】 全校体制でのPDCAサイクルの確立

- 測定についての正しい理解に基づく、新体力テストの全学年・全種目実施による体力の実態把握（実施方法のDVDと好事例の配信、実技講習会の開催、校内研修等）
- 調査結果等に基づく「スクールプラン」の策定・実行・検証・改善と家庭への調査結果提供
- 体力・学力向上策をつなぐ教育委員会内の体制の確立

【柱2】 学校での授業の充実と運動習慣の確立

- 体育・保健体育科授業の準備運動等での「北九州市体力向上プログラム」の活用
- 楽しみながら身に付ける体育・保健体育科授業の構築（管理職・主幹教諭・指導教諭・学力向上推進教員及び指導主事による指導助言）
- 「1校1取組」による年間を通した運動習慣の確立（体力の状況・取組が記録できる「北九つ子体力向上シート」等の活用、スポコン広場への参加、なわとび運動、持久走、ダンス等を年間を通して継続的に実施）

【柱3】 生活習慣・運動習慣の確立に向けた協働的な取組

- 「早寝・早起き・朝ごはん運動」、「ケータイ・スマホ夜10時オフ」の推進
- 保健学習の指導の充実による健康3原則の正しい理解と家庭における実践
- 家庭・地域において、運動を「する・見る・話す」機会づくりのすすめ

(3) 北九州市体力向上プログラム（準備運動編）の活用の仕方

北九州市体力向上プログラム（準備運動編）は、ストレッチ等のあとの準備運動で行います。3～5分程度で行うことができるように運動を組み合わせ、毎時間行うようにします。その際、領域によって、運動の組み合わせを変えたり、期間を決めて行ったりするとより効果的に行うことができます。今後、立命館大学スポーツ健康科学部健康教育学研究室と北九州市内の先生方で準備運動を共同開発し、その都度配信していきます。

本プログラム（準備運動編）では、新体力テストとの関連（※1）や領域との関連（※2）を示しています。また、活動のめやすとなる時間と効果の表れるめやすとなる期間（※3）も示していますので、運動領域に合わせて楽しく準備運動に取り組んでいただけたらと思います。また、プログラムの運動の効果が表れる期間（※4）をめやすとして示しています。

プログラム名
ジャンプアップ運動

準備運動に取り入れたいおすすめの領域
(低)走・跳の運動遊び(中)走・跳の運動(高)陸上運動(中学校)陸上競技
(小・中学校)体づくり運動 等

＜このような運動です＞
短い時間で行うことができ、運動特性の「タイミングのよさ」「力強さ」を高めるのに効果的な運動です。新体力テストの立ち幅跳びや、運動領域の陸上系「走り幅跳び」等に結びつく運動です。

(※1) 新体力テストとの関連
立ち幅とび

(※3) 活動のめやす時間
2分

(※4) 効果の表れる期間
4週間～

プログラムの内容
発達の段階で回数等
が異なります。

教師の笛の合図で、跳ぶようにします。

教師の1回の笛の合図後、連続して跳びます。

	【小学校】		【中学校】	
プログラム	低学年 実施回数	中学年 実施回数	高学年 実施回数	中学校 実施回数
リズム 抱え込みジャンプ	5回	7回	10回	15回
リズム 折りたたみジャンプ	5回	7回	10回	15回
リズム 開脚ジャンプ	5回	7回	10回	15回
連続 抱え込みジャンプ	5回	7回	10回	15回
合計	5回×4=20回 週3回	7回×4=28回 週3回	10回×4=40回 週3回	15回×4=60回 週3回

リズム抱え込みジャンプ



ジャンプしてすぐにヒザを抱え込みます。抱え込むことが難しい場合は、「ヒザにタッチ」でも構いません。

リズム折りたたみジャンプ



ジャンプして、足の裏側で手をたたきます。足の裏で手を叩くことが難しい場合は、おしりにタッチでも構いません。

リズム開脚ジャンプ



つま先にタッチします。難しい場合は、足首やヒザにタッチでも構いません。

本プログラムは、立命館大学スポーツ健康科学部スポーツ教育学研究室、北九州市教育委員会、及び草津市教育委員会が共同開発しました。

プログラム名	新体力テストとの関連 立ち幅とび
ジャンプアップ運動	
準備運動に取り入れたいおすすめの領域 (低)走・跳の運動遊び(中)走・跳の運動(高)陸上運動(中学校)陸上競技 (小・中学校)体づくり運動 等	活動のめやす時間 2分 効果の表れる期間 4週間～

＜このような運動です＞

短い時間で行うことができ、運動特性の「タイミングのよさ」「力強さ」を高めるのに効果的な運動です。新体力テストの立ち幅跳びや、運動領域の陸上系「走り幅跳び」等に結び付く運動です。

【小学校】

【中学校】

プログラム	低学年 実施回数	中学年 実施回数	高学年 実施回数	中学校 実施回数
リズム 抱え込みジャンプ	5回	7回	10回	15回
リズム 折りたたみジャンプ	5回	7回	10回	15回
リズム 開脚ジャンプ	5回	7回	10回	15回
連続 抱え込みジャンプ	5回	7回	10回	15回
合計	5回×4=20回 週3回	7回×4=28回 週3回	10回×4=40回 週3回	15回×4=60回 週3回

教師の笛の合図で、跳ぶようにします。

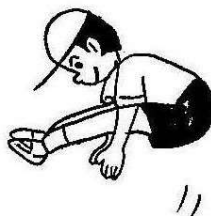
教師の1回の笛の合図後、連続して跳びます。

リズム抱え込みジャンプ



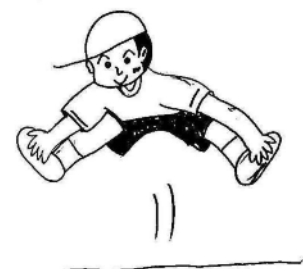
ジャンプしてすぐにヒザを抱え込みます。抱え込むことが難しい場合は、「ヒザにタッチ」でも構いません。

リズム折りたたみジャンプ



ジャンプして、足の裏側で手をたたきます。足の裏で手を叩くことが難しい場合は、おしりにタッチでも構いません。

リズム開脚ジャンプ



つま先にタッチします。難しい場合は、足首やヒザにタッチでも構いません。

本プログラムは、立命館大学スポーツ健康科学部スポーツ教育学研究室、北九州市教育委員会、及び草津市教育委員会が共同開発しました。

プログラム名 ボディバランス運動	新体力テストとの関連 上体起こし
準備運動に取り入れたいおすすめの領域 (低)器械・器具を使つての運動遊び (中・高)器械運動 (中学校)器械運動 (小・中学校)体づくり運動 (高)ボール運動 (中学校)球技 等	活動のめやす時間 3分 効果の表れる期間 5週間～

＜このような運動です＞

運動特性の「力強さ」「ねばり強さ」を高めるのに効果的な運動です。新体力テストの上体起こしや、運動領域の器械運動、体づくり運動等に結びつく運動です。主に、お腹の筋力の向上に効果的で、様々な動きづくりに結びつく運動です。

	プログラム	1 セットの時間
必須プログラム	(体育館の場合) 上体起こし	30 秒間
	(グラウンドの場合) V字バランス	30 秒間
選択プログラム	カエルの足打ち	60 秒間
	ブリッジ	60 秒間
	バーピースクワット	60 秒間 (20 秒→20 秒休み→20 秒)

小学校 1～3 年生

ボディバランス運動の行い方

必須プログラム × 2 セット
 +
 選択プログラム × 1 セット

順 番		行うこと
1 つ目	必須 prg	(体) 上体起こし 30 秒
2 つ目	必須 prg	(体) 上体起こし 30 秒
3 つ目	選択 prg	ブリッジ 60 秒

※(体)は、体育館

小学校 4 年～中学校 3 年生

必須プログラム × 2 セット
 +
 選択プログラム × 1 セット
 +
 選択プログラム × 1 セット

順 番		行うこと
1 つ目	必須 prg	(グ) V字バランス 30 秒
2 つ目	必須 prg	(グ) V字バランス 30 秒
3 つ目	選択 prg	カエルの足打ち 60 秒
4 つ目	選択 prg	バーピースクワット 60 秒 (20 秒→20 秒休み→20 秒)

※ (グ) は、運動場・グラウンド

* 選択メニューは、単元の主運動や児童生徒の実態を踏まえて選ぶようにしてください。

本プログラムは、立命館大学スポーツ健康科学部スポーツ教育学研究室と草津市教育委員会が共同開発しました。



©2016 RITSUMEIKAN UNIVERSITY S.H.S Sport Pedagogy Lab.

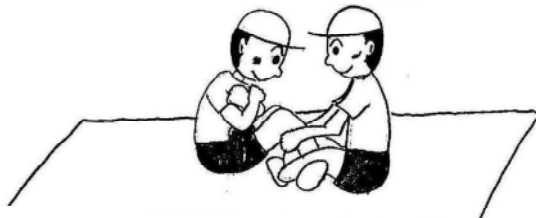
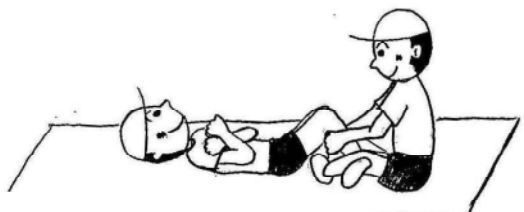
上 体 起 こ し

【ねらい】

体幹部の筋群の強化とともに、上体起こしの動きのコツを習得する。

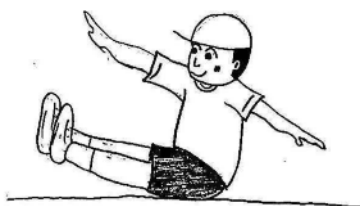
持ち手は、足が浮かないようにしっかりと押さえ
てあげましょう。膝の角度は、90 度程度です。
行う人は、手のクロスが外れたり、体とひじが離
れたりしないようにしましょう。
おへそを見ながら行うのがポイントです。

背中が床に着いたらすぐに体を起こしましょ
う。小学校低学年などは、動きに慣れることか
らはじめましょう。中学生は、筋力が発達する
時期です。何回できるようになったか継続的に
みていくと変化がわかってよいです。



V 字 バランス

【ねらい】体幹部の筋群の強化と体幹を中心と
したバランス感覚の習得。



ポイントは、お腹にし
っかりと力を入れて、
足先までピンと伸ば
すことです。両手を広
げてバランスをとるよ
うにしましょう。目線
は、足先より遠くを見
るようにしましょう。

カエルの足打ち

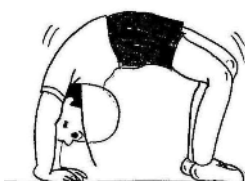
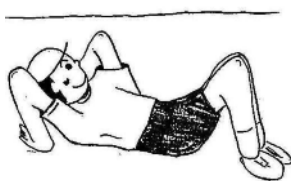
【ねらい】体幹部の筋群の強化と体幹を中心と
したバランス感覚の習得。



腰を高く上げ、ひじを伸ばし、
手と手の間をしっかりと見ること
がポイントです。
はじめ、ひざを曲げた状態でお
尻に近いところで足打ちをしま
しょう。慣れてきたら少しずつ
ひざを伸ばし、倒立に近づけて
いきましょう。
60 秒間で何回足を打てるかチ
ャレンジしましょう。

ブリッジ

【ねらい】体幹部の筋群の強化と体幹を中心としたバランス感覚の習得。



動きに慣れてきたら、腰の高さが高くなる
ように、手と足を近づけるようにしましょ
う。できるようになった児童生徒には、片
手ブリッジや片足ブリッジ、ブリッジ歩き
にも発展させるとより、体に負荷がかかり
筋力もアップします。
途中で失敗してもいいです。そのまま続け
るようにしましょう。

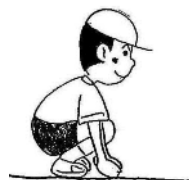
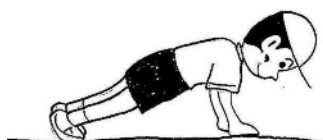
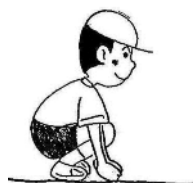
バーピースクワット

【ねらい】体幹を中心とした全身の筋力の強化とともに、スピードの強化。

1つ1つの動きをはっき
りと大きくしましょう。
慣れてきたら回数を増や
していけるように素早く
しましょう。

膝やお腹が床につかないように
体をしめる感覚を身に付けま
しょう。お腹やお尻にしっかりと力
を入れましょう。

お腹に力を入れたま
まジャンプしよう。



スポコン広場に挑戦！

全ての種目に対応

＜このような運動です＞

「スポコン」とは、「スポーツコンテスト」の略で、ホームページ上で他の学校の記録を知ったり、登録して競ったりするもので、広く児童の運動機会を増やすことを目的としています。「みんなでなわとび」「みんなでドッジボールラリー」など全 12 種類の運動があり、平成 27 年度は、県内延べ 4,600 を超える学級が登録しています。また、スポコン広場県大会も開催され、本市の児童も、多くの小学生と交流を深めています。→福岡県子どもの体力向上広場ホームページへ

「[http:// www.kodomo-tairyoku.pref.fukuoka.lg.jp/challenges/](http://www.kodomo-tairyoku.pref.fukuoka.lg.jp/challenges/)



スポコン広場は、「チャレンジランキングゾーン」「みんなでダンス」「体力アップシート・認定証ダウンロード」があります。

チャレンジランキングゾーンでは、自分の学級の記録を登録することができます。他の学級と記録を競い合ったり、自分のクラスのレベルアップをねらったりして、楽しく活動しましょう。 スポコン広場に登録して、様々な運動に取り組み、年間を通して「運動の好きな子ども」「運動量の豊富な子ども」を育てていきましょう。
※毎年、登録用パスワードを学校に配布しています。

※太枠内の種目は、県大会対象の種目

＜みんなでドッジボールラリー＞



1つのグループが2つのチームに分かれ向かい合って並び、1つのボールを使ってキャッチボールを行い、3分間に何回受け止めることができたかを競います。

＜みんなで馬とび＞



20m離れたゴールまで、前半はグループで連続馬跳びをして進み、後半はグループ全員で走り、グループの全員がゴールしたタイムを競います。

＜みんなでジグザグ走＞



20m先のゴールまで、前半はグループの4人が前の人の方に両手を置き、人と人の間をジグザグにくぐって進み、後半はグループ全員で走り、グループの全員がゴールしたタイムを競います。

＜みんなでなわとび＞



長なわや中なわを、学級全員で3分間に何回跳ぶことができたかを競います。引っかけてもそのまま続けてとびます。

＜みんなで反復横とび＞



20秒間で、床に引いた3本の線を越したり踏んだりした回数から点数を出します。学級全員の点数を足して、人数で割った得点で競います。

＜みんなで立ち幅とび＞



立ったまま、決められた線の上から踏み切って、跳んだ長さを測ります。学級全員の長さを足して、人数で割った長さで競います。

＜みんなでスイム＞  25m を泳いで、タイムを測ります。学級全員のタイムを足して、人数で割ったタイムで競います。	＜みんなでソフトボール投げ＞  決められた円の中からソフトボールを投げて、飛んだ長さを測ります。学級全員の長さを足して、人数で割った長さと競います。
＜みんなでドッジボール投げ＞  決められた円の中からドッジボールを投げて、飛んだ長さを測ります。学級全員の長さを足して、人数で割った長さと競います。	＜みんなで走り幅とび＞  助走をつけて砂場の手前から踏み切って、跳んだ長さを測ります。学級全員の長さを足して、人数で割った長さと競います。
＜みんなでランニング＞  学級の一人一人が、決められた時間内に走ることができる距離を測定し、その合計距離から一人当たりの走ることができる距離を求め、記録を競います。	＜みんなでリレー＞  一人が50mの距離を走る学級全員参加によるリレー競技で、学級全員でかかったタイムから一人当たりの平均タイムを求め、その記録を競います。

「みんなでなわとび」に挑戦してみよう



「みんなでなわとび」は、3分間にクラスみんなで何回跳ぶことができるかにチャレンジする運動です。はじめは、3分間で80回くらいだった記録が、みんなで力を合わせて練習すると、400回以上跳ぶことができるようになった学級もあります。ルールは簡単。一度引っかけてもそのまま跳び続けて構いません。

「みんなでなわとび」にチャレンジして、学級の絆をより強めてみませんか。学級のみんなで楽しく体力UP！

【練習のここがポイント！！】

○なわは、短めで、やや重さのあるなわが使いやすい。(ダブルタッチ用がおすすめ)

○はじめは、1分間で練習をしよう。(目標を決めよう)

○8の字跳び、0の字跳びのどちらでもよい。

○メトロノームに合わせて学級全体でリズムを共有できる。

○跳ぶことが苦手な児童生徒の後ろに、得意な児童生徒を配置し、児童生徒同士で教え合い、学び合う。

○みんなで「ハイ ハイ」と声を出そう。

○記録が伸びたり、上手に跳べたりしたら先生も児童生徒も一緒に大きな声で喜び合おう。(ハイタッチをしよう)

○引っかけたら「ドンマイ」「大丈夫よ」と励まし合おう。

中学生も、学級のみinnと、心を一つに挑戦しよう！

みんなで
チャレンジ！

＜みんなでなわとび参考記録＞

福岡県内の記録(平成27年度)

3分間で跳んだ回数

1年生：309回

2年生：392回

3年生：412回

4年生：456回

5年生：548回

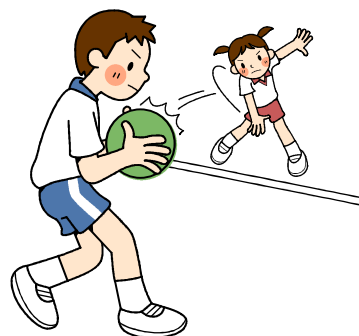
6年生：551回

特別支援学級：262回

運動が好き！

運動がもっとしたくなる

北九っ子体力向上シート



小学校 5 年生 用

1 日 40 分以上の運動をしよう！！

小学校のみんなで、1年間を通して

アップ

に取り組んで体力UP！！

【学校名】

年

組

番

【名前】

北九州市教育委員会

「北九っ子体力向上シート」を毎年ファイルしていくと、自分の成長の記録がわかるよ！ 1日40分以上の運動をして、体力を高めましょう。



男子

項目別得点表

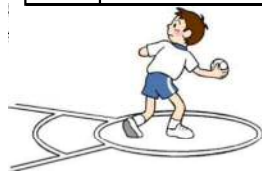
とくてん 得点	あくりよく 握力	じょうたいお 上体起こし	ちょうざ たいぜんくつ 長座体前屈	はんぶくよこ 反復横とび	20mシャトルラン	そう 50m走	た はば 立ち幅とび	な ソフトボール投げ
10	26kg以上	26回以上	49cm以上	50点以上	80回以上	8.0秒以下	192cm以上	40m以上
9	23～25	23～25	43～48	46～49	69～79	8.1～8.4	180～191	35～39
8	20～22	20～22	38～42	42～45	57～68	8.5～8.8	168～179	30～34
7	17～19	18～19	34～37	38～41	45～56	8.9～9.3	156～167	24～29
6	14～16	15～17	30～33	34～37	33～44	9.4～9.9	143～155	18～23
5	11～13	12～14	27～29	30～33	23～32	10.0～10.6	130～142	13～17
4	9～10	9～11	23～26	26～29	15～22	10.7～11.4	117～129	10～12
3	7～8	6～8	19～22	22～25	10～14	11.5～12.2	105～116	7～9
2	5～6	3～5	15～18	18～21	8～9	12.3～13.0	93～104	5～6
1	4kg以下	2回以下	14cm以下	17点以下	7回以下	13.1秒以上	92cm以下	4m以下

女子

とくてん 得点	あくりよく 握力	じょうたいお 上体起こし	ちょうざ たいぜんくつ 長座体前屈	はんぶくよこ 反復横とび	20mシャトルラン	そう 50m走	た はば 立ち幅とび	な ソフトボール投げ
10	25kg以上	23回以上	52cm以上	47点以上	64回以上	8.3秒以下	181cm以上	25m以上
9	22～24	20～22	46～51	43～46	54～63	8.4～8.7	170～180	21～24
8	19～21	18～19	41～45	40～42	44～53	8.8～9.1	160～169	17～20
7	16～18	16～17	37～40	36～39	35～43	9.2～9.6	147～159	14～16
6	13～15	14～15	33～36	32～35	26～34	9.7～10.2	134～146	11～13
5	11～12	12～13	29～32	28～31	19～25	10.3～10.9	121～133	8～10
4	9～10	9～11	25～28	25～27	14～18	11.0～11.6	109～120	6～7
3	7～8	6～8	21～24	21～24	10～13	11.7～12.4	98～108	5
2	4～6	3～5	18～20	17～20	8～9	12.5～13.2	85～97	4
1	3kg以下	2回以下	17cm以下	16点以下	7回以下	13.3秒以上	84cm以下	3m以下

総合評価基準表

はんてい 判定	さい 6歳	さい 7歳	さい 8歳	さい 9歳	さい 10歳	さい 11歳
A	39以上	47以上	53以上	59以上	65以上	71以上
B	33～38	41～46	46～52	52～58	58～64	63～70
C	27～32	34～40	39～45	45～51	50～57	55～62
D	22～26	27～33	32～38	38～44	42～49	46～54
E	21以下	26以下	31以下	37以下	41以下	45以下



(名前)

学校で運動（体を動かす遊びもOK！）をしたら、 を自分でぬったり、先生や係の人にサインやシールをもらったりしましょう。夏休みは、家で運動をしたら自分でぬろう。



まずは初級をクリアしてどんどん進もう！

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	合計	先生のサイン
5月	★★				★★★★					★			
6月				★★					★★★★	★			
7月					★			★★			★★★★		
8月	★★				★★★★	★							
9月		★★					★★★★			★			
10月			★★				★★★★			★			
11月			★★				★★★★			★			
12月		★★★★			★			★★					
1月		★★★★			★			★★					
2月		★★				★		★★★★					
3月	★★★★					★			★★				

休み時間に運動や体を動かす遊びをしたら、ぬっても（サイン・シール）いいよ！もちろん体育もOK！ 夏休みや冬休みも運動しよう！毎月★2つで銀メダル・毎月★3つをめざすと金メダルに届くよ！

1年間の合計

初級	中級	上級	銅メダル	銀メダル	金メダル
1～30	31～65	66～100	101～125	126～150	151～

家の人のサイン

1学期	2学期	3学期

ファイト！

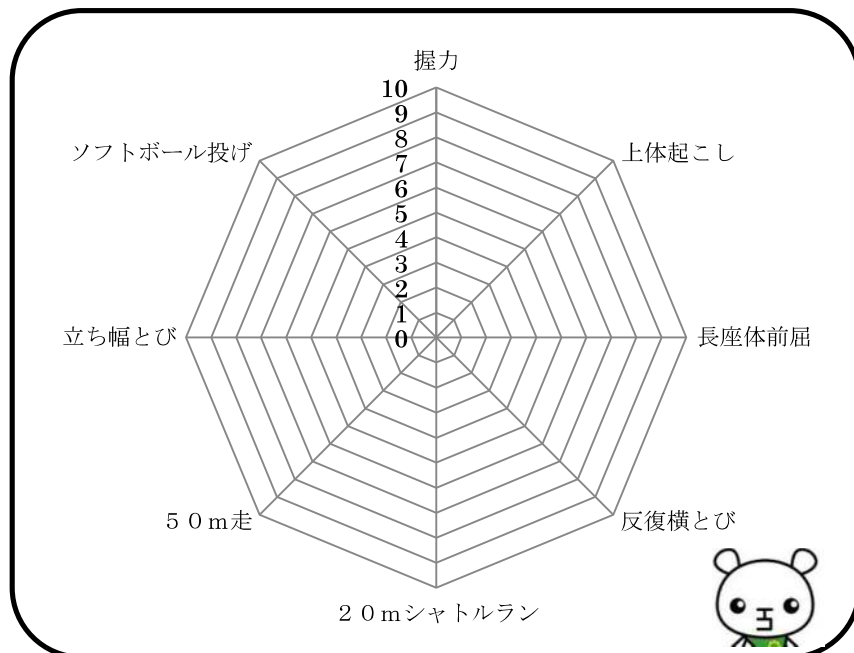


【新体力テストの結果】 小学校5年生

	握力 (k g)		得点	上体起こし (回)		得点	長座体前屈 (c m)		得点	反復横とび (点)		得点
1 回目 () 月												
2 回目 () 月												
全国平均	16.45	16.05		19.58	18.42		33.05	37.44		41.60	39.55	
体力得点												
	20mシャトルラン (回)		得点	50m走 (秒)		得点	立ち幅とび (c m)		得点	ソフトボール投げ (m)		得点
1 回目 () 月												
2 回目 () 月												
全国平均	51.64	40.69		9.38	9.62		151.24	144.77		22.52	13.77	
体力得点												

☆全国平均のらんは、左が男子、右が女子を表しています。全国平均は平成 26 年度の平均です。

☆自分の体力得点をレーダーチャートに表してみよう☆1 回目と 2 回目の色を変えるとわかりやすいよ！



※うらの表を使って得点を出してみよう！

体力得点合計

80 点

判定

上の表を見て自分の体力でよかったところを書きましょう。



1 年間でがんばりたいこと (めあて)

3. 次期学習指導要領改訂のポイント

次期学習指導要領改訂のポイント

身に付けるべき資質・能力や学ぶべき内容、学び方の見通しを示す
「学びの地図」として

“よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る”という目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む
「社会に開かれた教育課程」の実現をめざす

新しい時代に必要となる資質・能力の育成（3つの柱に沿って明確化）

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養
 （どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか）

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を総合的にとらえて構造化

生きて働く**知識・技能**の習得
 （何を理解しているか、何ができるか）

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成
 （理解していること・できることをどう使うか）

何ができるようになるか

各学校における**「カリキュラム・マネジメント」**の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

【外国語活動の教科化】

- ・小学校中学年で外国語活動の導入：年間35時間
- ・小学校高学年で外国語活動の教科化：
年間35時間→年間70時間

外国語で多様な人々とコミュニケーションを図ることができる基礎的な力の育成

【道徳の教科化】（小：H30 中：H31～完全実施）

児童生徒の道徳性を育む「考え、議論する道徳」に基づく授業改善と指導計画の整備

○高校の新科目「公共（仮称）」の新設 等
 ※学習内容の削減は行わない

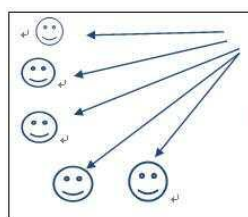
どのように学ぶか

【アクティブ・ラーニング】

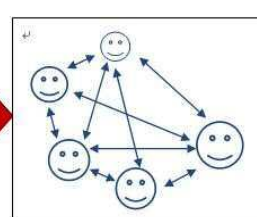
主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

「個別的・受動的」な授業から
 「協働的・能動的」な授業へ

＜個別的・受動的＞



＜協働的・能動的＞



1 英語教育の充実

(1) 国の動向

グローバル化の急速な進展に伴う外国語によるコミュニケーション能力の必要性
「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」などに必要な力を総合的に育成する必要がある



《小学校における英語教育の早期化、教科化》

○小学校外国語教育 学習指導要領改訂スケジュール＞

- ・平成30年度 新学習指導要領を段階的に先行実施
- ・平成32年度 新学習指導要領全面実施

○改訂のポイント

- ・中学年…「聞く」「話す」を中心とした外国語活動。新規、年間35単位時間。
- ・高学年…「聞く」「話す」に加え、「読む」「書く」の領域を教科として実施。

現行の年間35単位時間から年間70単位時間に変更。

○改訂に伴う授業時数の確保についての検討

外国語教育の授業時間が増え、他教科の授業時数は削減なし。地域や各校の実情に応じた柔軟な時間割編成を可能としていくことが求められる。具体例として、短時間学習の実施、長期休業日や土曜日の活用等が示された。現在、文部科学省にて、カリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究、検討会議が行われている。

(2) 本市の取組

【現在の取組】

- ・低・中学年でのALT活用授業の実施
- ・教員の指導力向上を図るため、英語教育中核教員養成のための研修の実施
- ・英語教育リーディングスクール事業の実施
- ・管理職の英語教育講習会の実施

【今後の取組】

- ・外国語指導助手（日本人）配置の検討
- ・外国語活動スタートアップ研修の検討
- ・北九州市英語教育推進リーダー養成の検討

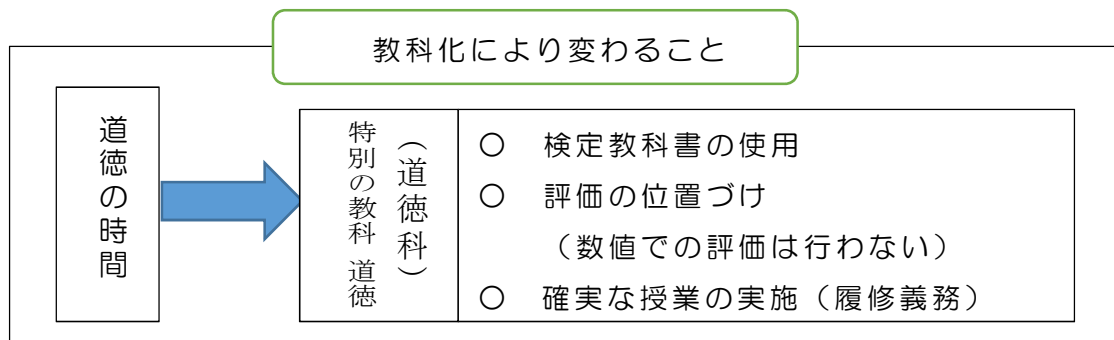


英語教育中核教員養成のための研修の様子

2 道徳の教科化

(1) 国の動向

- 児童生徒の心の活力の低下と学校の授業実態の課題を改善するため、平成27年3月に学習指導要領の一部改正が行われた。今回の改正で道徳の実質化と質的転換を図り「考え議論する道徳」へと転換を図り、道徳教育の充実を目指す。
- 小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から改正学習指導要領の規定による「特別の教科道徳（道徳科）」が全面実施になる。
- 特に、「一定の価値観を教師が押し付ける道徳」ではなく、児童生徒が「考え、議論する道徳」を行うことが打ち出されている。



(2) 本市の取組

- 本市では、平成30年度からの小学校での「特別の教科 道徳」の全面実施（中学校は平成31年度）に向け円滑な接続を行うため、来年の平成29年度（中学校は平成30年度）に「特別の教科 道徳」の趣旨・内容を踏まえた一部先行実施を行う。
- これらの趣旨・内容の周知は、7月に開催の道徳主任研修会や全員研修会、1月に行われる道徳教育講習会にて繰り返し周知していく。

※一部先行実施内容

- ・完全実施後に導入される新たな内容項目を取り入れる。(小学校)

低学年

「個性の伸長」「公正、公平、社会の正義」「国際理解、国際親善」

中学年

「相互理解、寛容」「公正、公平、社会の正義」

高学年

「よりよく生きる喜び」

- ・これまでの評価の充実（記述式の評価はしない）



3 「アクティブ・ラーニング」について

(1) 国の動向

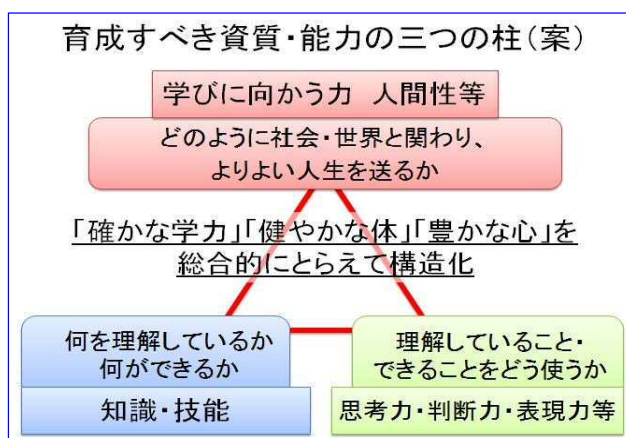
○改訂の方向性

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」を実現する。

○育成を目指す資質・能力

三つの柱で示す。

- ・生きて働く知識・技能の習得
- ・未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成
- ・学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養



○主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」の視点）

「アクティブ・ラーニング」の視点は、学校における質の高い学びを実現し、子供たちが学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにするためのものであり、「学び」の本質として重要となる「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業改善の視点。

一斉画一的な暗記・再生型の授業

相互交流の多い思考・発信型の授業



(2) 本市の取組

- ・アクティブ・ラーニングを研究していく学校指定に関する検討
- ・教育センター研修〔ALの視点に立つ授業改善講習等〕の見直し
- ・『わかる授業』づくり5つのポイント」の徹底（全員研・学力向上推進教員の活用）